

練馬区就職氷河期世代の実態把握調査 結果報告書

令和8年(2026 年)9月

練馬区

■目 次

第1章 調査の背景・目的	1
1. 調査の目的・位置付け	1
2. 本報告書の構成	1
3. 実態把握のためのアンケート調査の概要	2
4. 支援機関・当事者ヒアリング調査の概要	3
第2章 就職氷河期世代を取り巻く状況	4
1. 就職氷河期世代の状況	4
2. 練馬区における取組	11
第3章 調査結果概要	13
1. 抱えている困りごとや将来の不安について	13
2. 社会参加や居場所について	16
3. 就労に関する状況について	18
4. 生活支援に関すること	21
第4章 アンケート調査結果	22
1. 世帯の基本情報に関すること	22
2. 就業に関すること	26
3. 生活に関すること	35
4. 困りごとや不安に関すること	42
5. 支援に関すること	47
6. 相談に関すること	56
7. クロス集計	57
第5章 支援機関・当事者ヒアリング調査結果	70
1. 支援機関ヒアリング(区内支援機関)	70
2. 支援機関ヒアリング(広域支援機関)	75
3. 有識者ヒアリング	80
4. 当事者ヒアリング	81
第6章 調査結果から見える課題	87
1. 将来の課題への対応も見据えた相談支援体制の充実	87
2. 居場所支援の充実	87
3. 個別ニーズに応じた就労支援の充実	88
4. 生活支援の充実	88
参考 資料編	89
1. 使用した調査票	89

第1章 調査の背景・目的

1. 調査の目的・位置付け

本調査は、生活に困窮する就職氷河期世代の就労状況や生活上の課題、困りごとなどを把握し、今後の支援施策を検討する際の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 本報告書の構成

本報告書では、第1章で調査の背景や目的を整理し、続く第2章では「就職氷河期世代を取り巻く状況」として、就職氷河期世代の状況や練馬区における取組について概観しています。

そのうえで、第3章では、今回実施した「就職氷河期世代の実態把握のためのアンケート調査」の結果やクロス分析等を行い、区における課題について概要を整理しています。

第4章および第5章では、アンケート調査結果および支援機関・当事者ヒアリング調査結果をとりまとめています。

第6章では、アンケート調査およびヒアリング調査の結果を踏まえ、就職氷河期世代への支援に関する課題を整理するとともに、今後の施策検討の方向性について示しています。

3. 実態把握のためのアンケート調査の概要

(1)実施状況

項目	概要
調査対象	令和8年1月1日時点で 41 歳～55 歳の区民
調査方法	郵送により調査票を配布し、郵送またはオンラインにて回答を回収
調査期間	令和8年(2026 年)5月 12 日(火)～6月4日(木) 6月 15 日回収分まで反映

(2)回収状況

	配布数	有効配布数	有効回収数	有効回収率
全体	4,000 件	3,928 件 (未着等 72件)	733 件 (紙:378 件、WEB:355 件)	18.7%

(3)調査結果を見る際の注意事項

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇分析軸(縦軸)において、「その他」「不明・無回答」を除き、全体と比べて 10 ポイント以上高い項目について、**網掛け**およびコメントしています。数が少ないもの(20 件未満)については、**網掛け**をしていますが、全体との差について言及していません。
- ◇自由記述等において、個人が特定されないよう、表現の一部を修正している場合があります。
- ◇調査結果概要では、アンケート調査の結果で特筆すべき項目の内容を掲載し、ヒアリング調査の結果でもテーマごとに特徴的な意見を掲載しています。そのあと、アンケート調査結果およびヒアリング調査結果からみられる課題を掲載しています。

4. 支援機関・当事者ヒアリング調査の概要

(1)実施状況

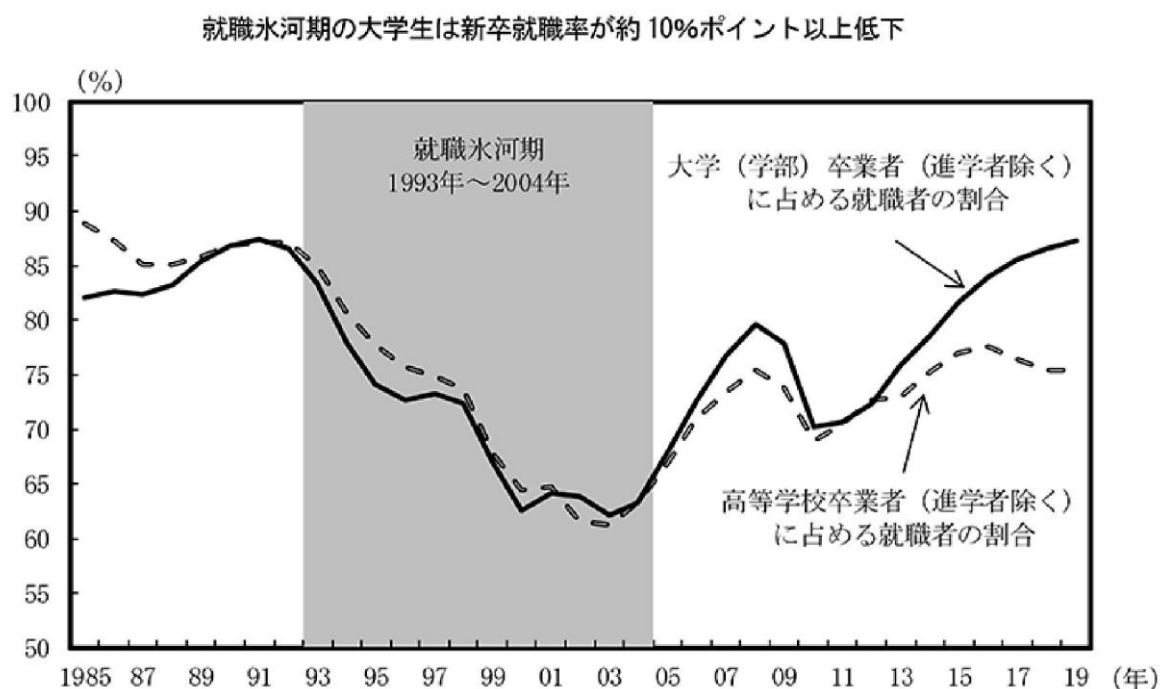
調査種別	支援機関ヒアリング	当事者ヒアリング
対象	<区内支援機関等【4機関】> ○あすはステーション ○ねりま若者サポートステーション ○ねりま不登校・ひきこもり・発達障害地域家族会「灯火」 ○光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ <広域支援機関等【3機関】> ○ハローワーク池袋 ○中高年企業団 やまて企業組合 ○特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 <有識者>	氷河期世代で、下記機関につながっている方【15人】 ①生活サポートセンター ②ボランティア・地域福祉推進センター（コーナー）
調査方法	対面によるヒアリング 実施機関：練馬区社会福祉協議会（以下「社会福祉協議会」という。）	対面によるヒアリング 実施機関：練馬区社会福祉協議会（以下「社会福祉協議会」という。）
調査項目	<区内支援機関等【4機関】> ○支援対象者数（全体） ○就職氷河期世代の対象者数 ○氷河期世代向け支援の取組状況 ○支援対象者の特徴・課題 ○支援がうまく進んだ事例・ポイント ○自治体に期待される役割 <広域支援機関等【3機関】> ○就職氷河期世代向け支援の取組状況 ○就労に関する特徴や課題 ○就労支援の視点から自治体に期待される役割 <有識者> ○就職氷河期世代が抱える特有の課題 ○就職氷河期世代の支援の視点（必要と思われる区の取組）	○生活歴・就業歴 ○家計・住まい ○健康・メンタル・ケア責任 ○つながり・孤立・社会参加 ○困りごと・将来不安・必要な支援

第2章 就職氷河期世代を取り巻く状況

1. 就職氷河期世代の状況

○就職氷河期世代とは、バブル崩壊後の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った40歳代前半から50歳代前半の方々であり、内閣府等の調査においても、他の世代と比べて就職環境が厳しかった状況があります。

◆図表1 新卒就職率の推移



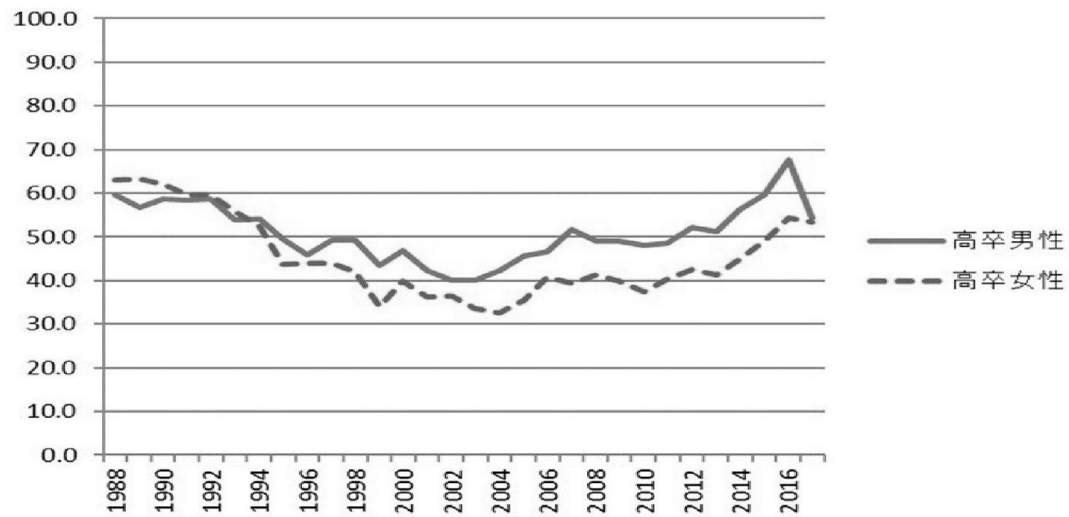
（備考）1. 文部科学省「学校基本調査」により作成。

2. 進学者について、大学は大学院研究科、大学の学部・短期大学の本科、大学・短期大学の専攻科及び別科に進学した者。高等学校は大学（学部）、短期大学（本科）、大学・短期大学の通信教育部、大学・短期大学（別科）、高等学校（専門科）、特別支援学校高等部（専攻科）、専修学校（専門課程）、専修学校（一般家庭）等、公共職業能力開発施設等に進学・入学した者。

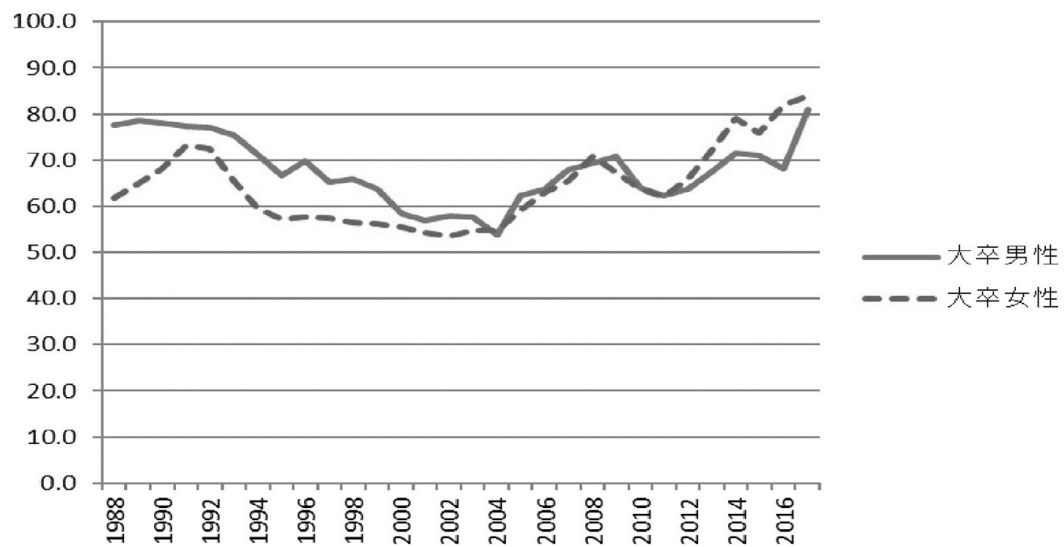
3. 高等学校卒業者は、中等教育学校後期課程卒業者を含む。

資料出所：日本経済 2019-2020（内閣府）

◆図表2 初職正社員率の推移(高卒)



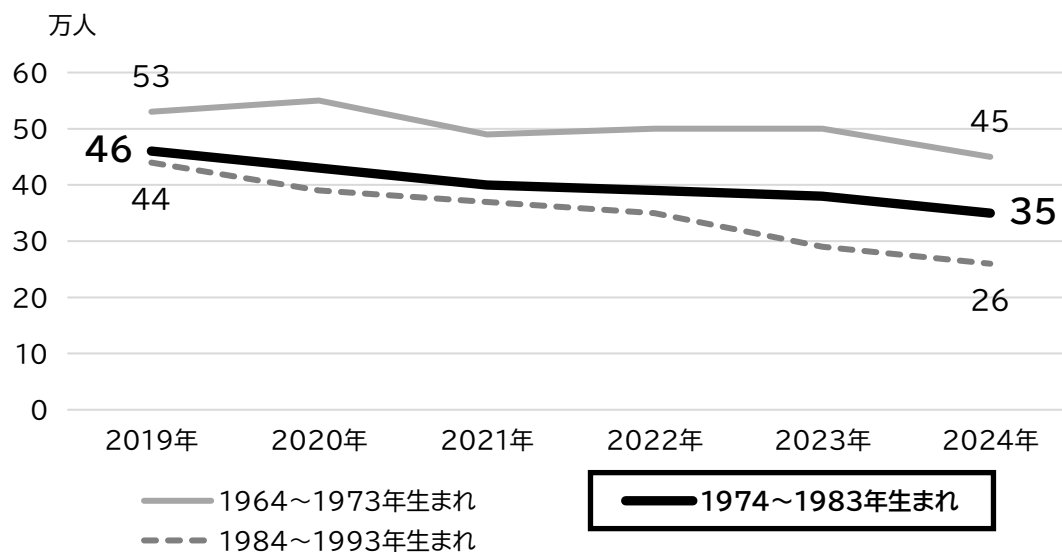
◆図表3 初職正社員率の推移(大卒)



資料出所:独立行政法人労働政策研究・研修機構(2019) 単位:%

○氷河期世代の不本意非正規労働者※は、2019 年から 2024 年にかけて 11 万人減少していますが、なお 35 万人存在しています。

◆図表4 不本意非雇用労働者の推移

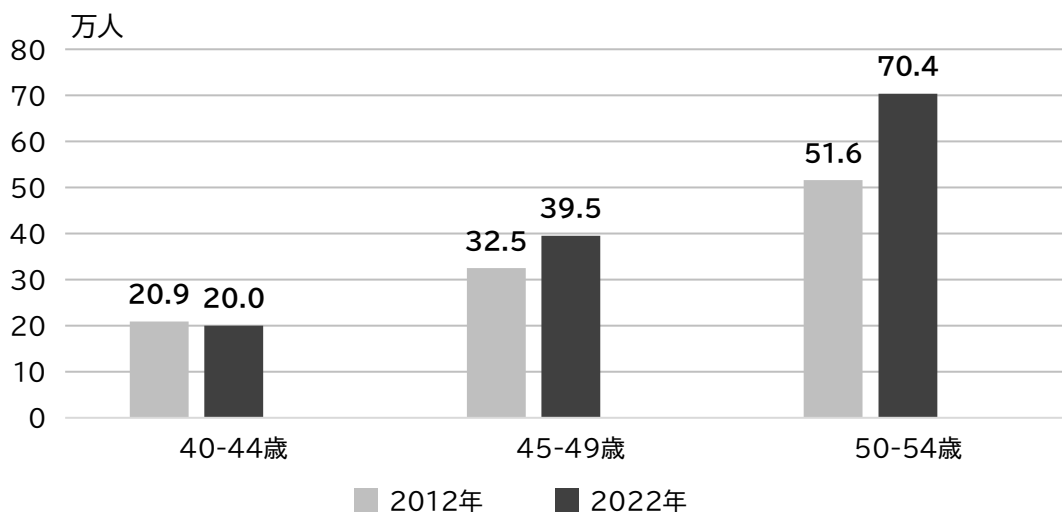


総務省「労働力調査」より作成

※不本意非正規労働者とは、現職の雇用形態(非正規)についての主な理由が「正規の職員・従業員の仕事がないから」と回答した者。「非正規の職員・従業員」は、パート・アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託、その他に該当する者を指す。

○親世代の高齢化に伴い、家族の介護に直面する可能性が高い世代でもあります。
10年前の同世代と比べ、家族の介護を行う有業者が増加している状況があります。

◆図表5 家族の介護を行う有業者



総務省「就業構造基本調査」より作成

○国においては、就職氷河期世代への支援の方向性は次のように示されています。

様々な課題に直面している就職氷河期世代に対して、その周辺の世代と合わせ、個々人の課題やニーズに応じたきめ細かい支援を効果的に実施していくことで、当該世代が抱えている現在と将来の暮らしへの不安を軽減するため、当面3年間程度(2028年度まで)の集中的な支援に取り組む。

新たな就職氷河期世代等支援プログラム ～今とこれからの不安を希望に変える～

1 就労・処遇改善に向けた支援

(1)相談対応等の伴走支援

- ハローワークの専門窓口で、賃金が上昇する転職・処遇改善に資する訓練情報の提供を含む相談、紹介、就職、定着までの一貫した伴走支援

(2)リ・スキリングの支援

- 非正規雇用労働者等を対象とするオンライン訓練の全国展開
- 資格やスキル標準と結びつく教育訓練給付金指定講座の拡大
- 企業を通じたキャリア形成の支援

(3)正規就労を受け入れる事業者の支援

- トライアル雇用助成金による支援
- 特定求職者雇用開発助成金による支援

(4)家族介護に直面する者の継続就労の支援

- 両立支援等助成金による支援
- 地域の介護サービス提供体制の確保

(5)公務員としての採用および業種別の就労支援 など

2 社会参加に向けた段階的な支援

(1)社会とのつながり確保の支援

- ひきこもり支援の広域連携等を推進し、相談支援を行う自治体を支援
- 氷河期等交付金における、居場所づくりに取り組む自治体支援

(2)就労準備の支援

- 地域若者サポートステーションにおける就労に向けた相談支援

(3)柔軟な就労機会の確保

- 認定就労訓練事業(中間的就労)の積極活用
- 氷河期等交付金における、中間的就労の機会創出に取り組む自治体支援

3 高齢期を見据えた支援

(1)家計改善・資産形成の支援

- 生活困窮者に対する家計改善支援
- 金融経済教育推進機構による、関係省庁等と連携した金融経済教育の提供

(2)希望に応じた高齢期の就業機会の確保

- 65 歳超雇用推進助成金による支援

(3)高齢期の所得保障

- 短時間労働者への被用者保険の適用拡大とともに、任意の適用に取り組む事業所を支援
- 社会経済情勢を見極め、次期財政検証において基礎年金水準の低下が見込まれる場合には、基礎年金のマクロ経済スライドを早期に終了するために必要な措置を講ずる

(4)住居確保の支援

- 低廉な公営住宅の供給
- 高齢者が着実に入居できるセーフティネット登録住宅の供給
- 見守りや福祉サービスへのつながりが提供される居住サポート住宅制度の普及

資料：2026 年4月 10 日 就職氷河期世代等支援に関する関係閣僚会議決定

就職氷河期世代等の属性別に見た支援のイメージ
～今とこれからの不安を希望に変える～
社会とのつながりに不安を抱える方

様々な生きづらさや孤独を感じている方へ

同じ境遇にある方との
居場所をつくります



○社会とのつながり確保の支援

- ・ひきこもり相談支援を行う自治体の支援
- ・氷河期等交付金におけるメニュー化により、当事者の互助会（女性のひきこもり含む）等の活動を支援

まずは自分のペースで働いてみたい方へ

フルタイムにとられない働き方を支援します



○柔軟な就労機会の確保

- ・中間的就労の機会創出に取り組む自治体の支援
- ・認定就労訓練事業（中間的就労）の積極活用

○就労を受け入れる事業者の支援

- ・トライアル雇用助成金による支援
- ・特定求職者雇用開発助成金による支援

収入や蓄えなど、将来に不安のある方

賃金を上げたい、キャリアアップしたい方へ

学び直しの機会や
キャリアを見直す機会を用意します



○リ・スキリングの支援

- ・働きながら学びやすいオンライン訓練の全国展開
- ・資格等と結びつく教育訓練給付金指定講座の拡大
- ・企業を通じたキャリア形成の支援

○公務員採用・業種別の就労支援

- ・国家公務員・地方公務員・教員としての中途採用
- ・農業・建設業・物流業における就労支援

将来への備えが不安な方へ

家計・資産を見直す機会を用意します
希望すれば、長く働ける環境も整備します



○家計改善・資産形成等の支援

- ・家計の見える化等を支援する自治体の支援
- ・ライフプランニングや資産運用（NISA、iDeCoなど）に関するセミナーの提供

○希望に応じた高齢期の就業機会の確保

- ・65歳超雇用推進助成金による支援

○高齢期の所得保障

- ・短時間労働者への被用者保険の適用拡大

介護や住まいに不安を抱える方

高齢化した親の介護が不安な方へ

介護と仕事を両立できるよう支援します



○家族介護に直面する者の介護離職防止に向けた支援

- ・両立支援等助成金による支援
- ・地域の介護サービス提供体制の確保

持ち家がなく高齢期の住まいが不安な方へ

安心して住むことのできる住宅の確保を進めます



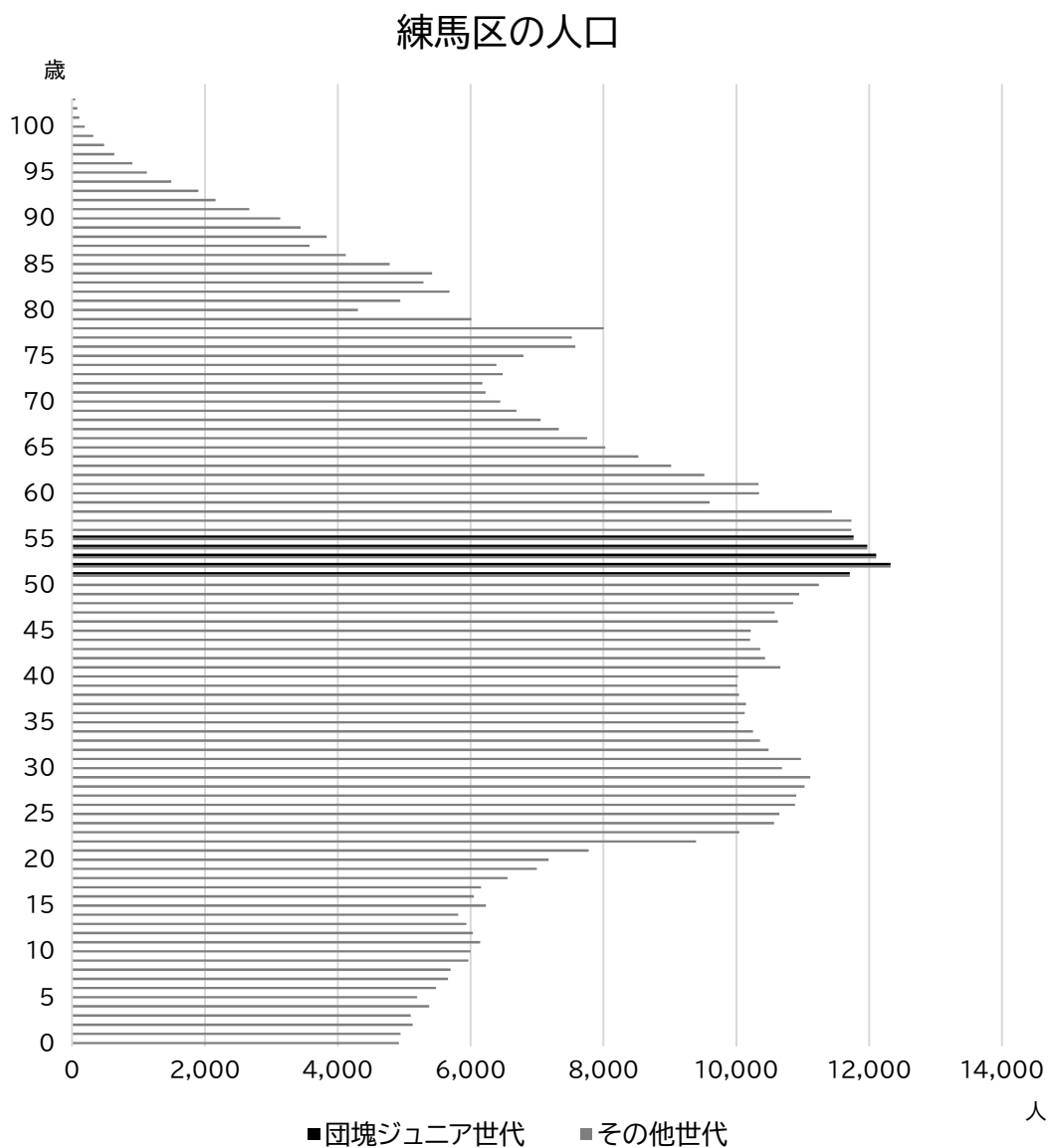
○住宅確保の支援

- ・高齢者が着実に入居できるセーフティネット登録住宅の供給
- ・見守りや福祉サービスへのつながりが提供される居住サポート住宅の普及

資料：「就職氷河期世代等支援に関する関係閣僚会議」就職氷河期世代等の属性別に見た支援のイメージ
（令和7年6月3日決定）

○練馬区においても就職氷河期世代の人口規模が大きいものの、40歳以下の世代の人口は減少傾向であり、将来の支え手が少ない状況にあります。

◆図表6 練馬区の人口



資料:練馬区住民基本台帳(令和8年4月1日時点)

○区内にお住まいの40歳～54歳の人口約16万5千人のうち、約2万2千人が住民税非課税の方です。このうち、福祉的な支援につながっている方は約3,300人(約15%)であり、約85%の方が支援につながっていない現状があり、課題を抱えながら支援につながっていない方のニーズの把握が必要です。

2. 練馬区における取組

生活に困窮している方への対応や、中高年のひきこもり、8050 問題など複合的な課題に対応するため、段階的に取組を進めています。

○社会福祉協議会の生活サポートセンターでは、生活困窮者からの相談に応じ、家計改善支援や住居確保支援、就労準備支援、就労支援等を実施しています。

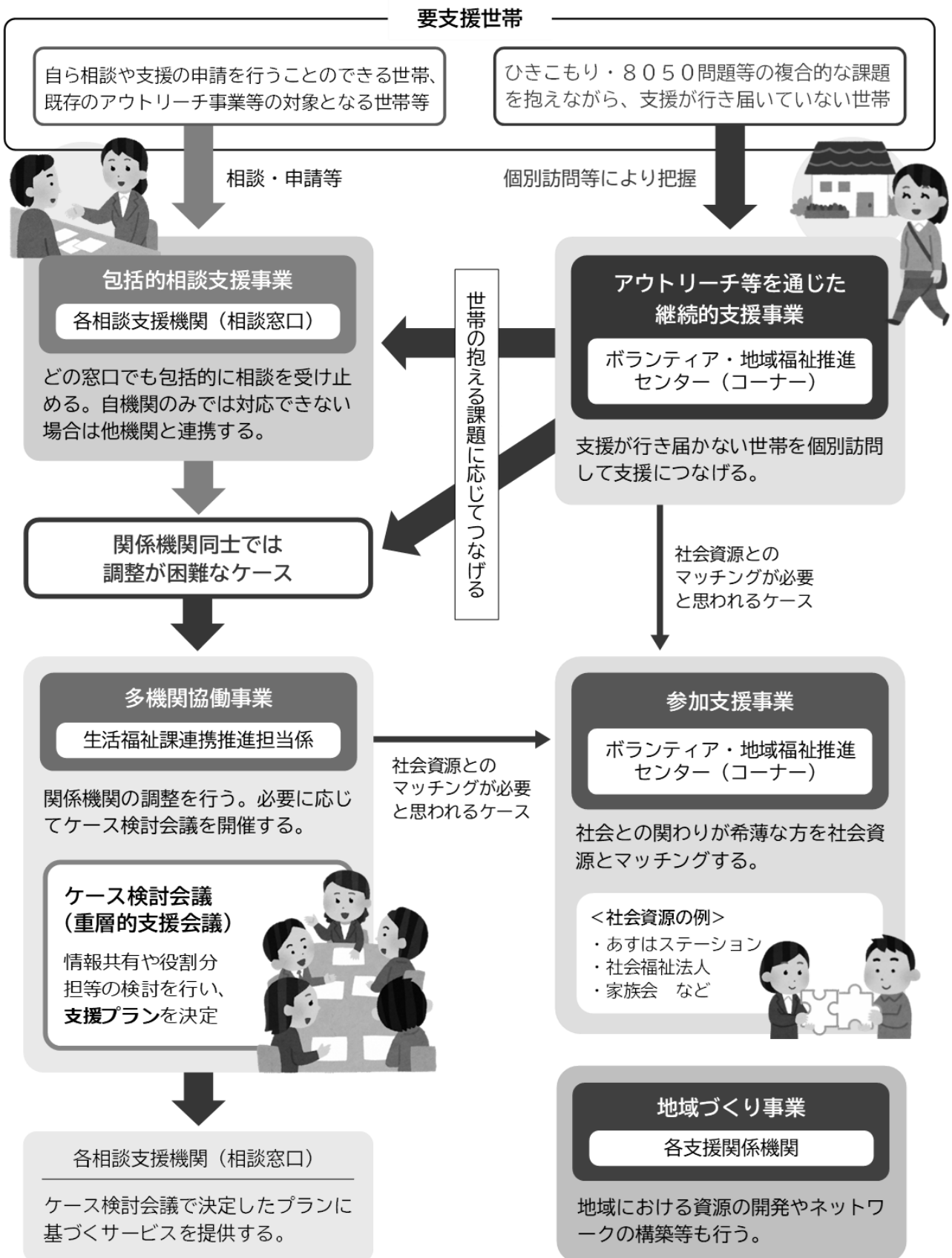
○令和5年度から、相談支援体制を強化するため、社会福祉協議会のボランティア・地域福祉推進センター(コーナー)をどこに相談したらよいかわからない不安や悩みを受け止める相談窓口として位置づけました。また、ひきこもり状態にある方や社会参加が難しいと感じている方などを対象に、社会参加のきっかけづくりになるよう、「あすはステーション」において居場所支援を開始しました。

○令和7年度から、住まいに不安を抱える方への支援を強化するため、住まいサポーターによる相談支援や入居支援など住まい確保に向けた支援の充実に取り組んでいます。さらに、支援ニーズの増加・多様化を踏まえ、区内2か所目となる「あすはステーション」を開設し、支援の強化・充実に取り組んでいます。



重層的支援体制整備事業実施以降、ボランティア・地域福祉推進センター(コーナー)に寄せられる相談や生活困窮者からの相談件数は、年々増加しており、相談内容は、人間関係・コミュニケーションに関する悩み、孤独感・不安感によるものなど多岐にわたっています。また、就職氷河期世代を含む40代・50代からの相談が多く、若年層の相談も増加しており、関係機関が連携して個々のニーズに応じたきめ細かい支援を行っています。

(参考) 練馬区における重層的支援体制整備事業の支援フロー



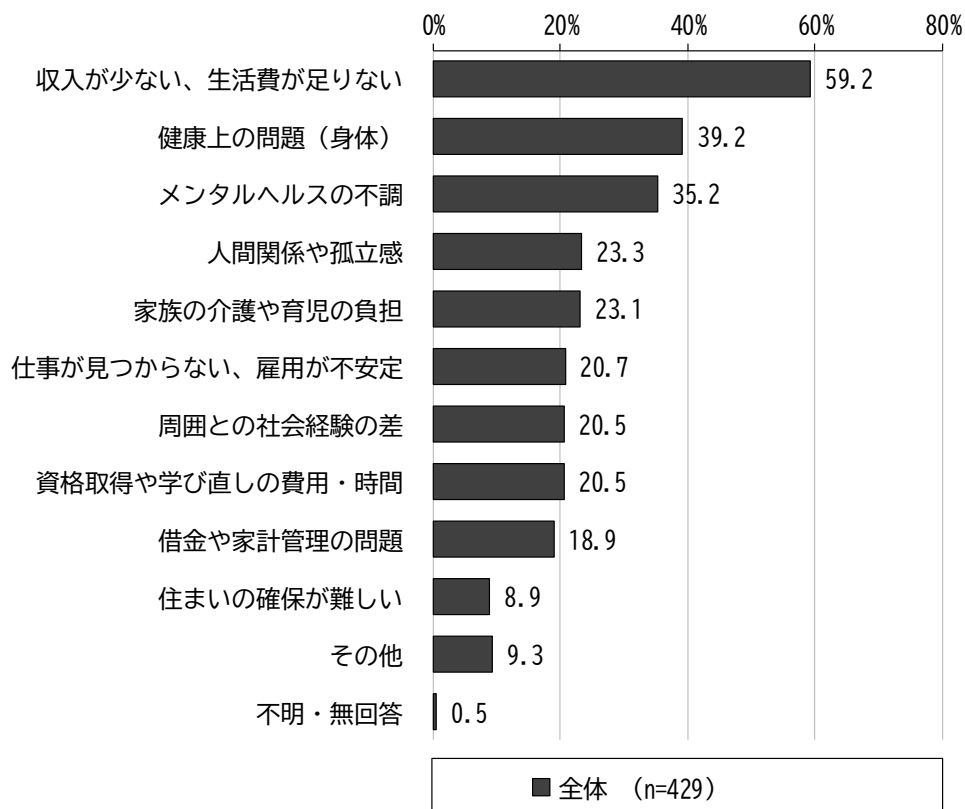
第3章 調査結果概要

1. 抱えている困りごとや将来の不安について

アンケート調査結果から

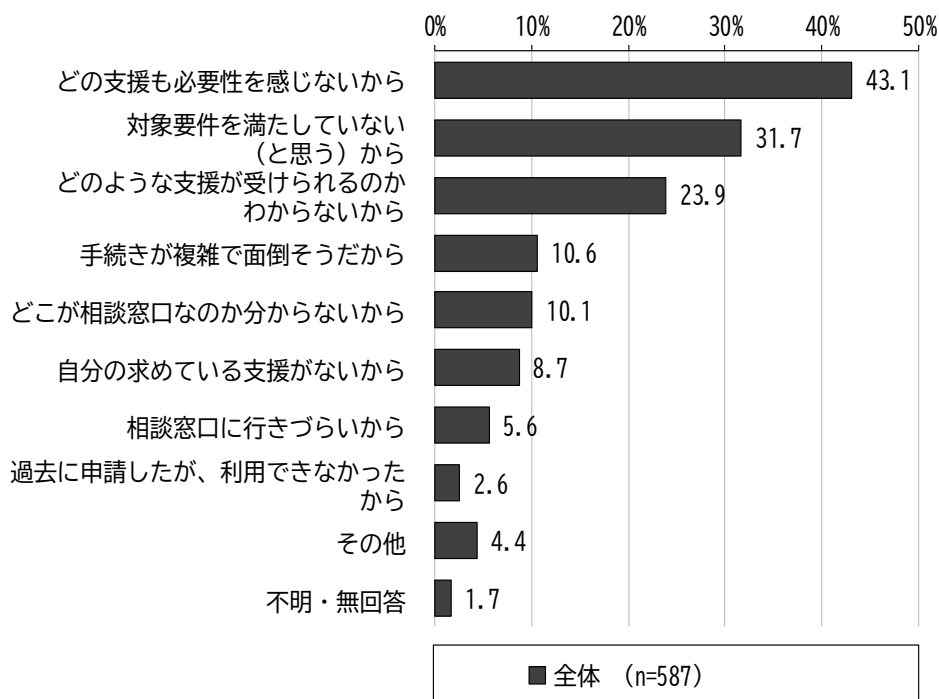
◆問 22-1 現在、生活や仕事などで困っている内容

収入が少ない、生活費が足りない(59.2%)、健康上の問題(身体)(39.2%)、メンタルヘルスの不調(35.2%)、人間関係や孤立感(23.3%)、家族の介護や育児の負担(23.1%)となっており、複数の困りごとを抱えている状況がうかがえます。



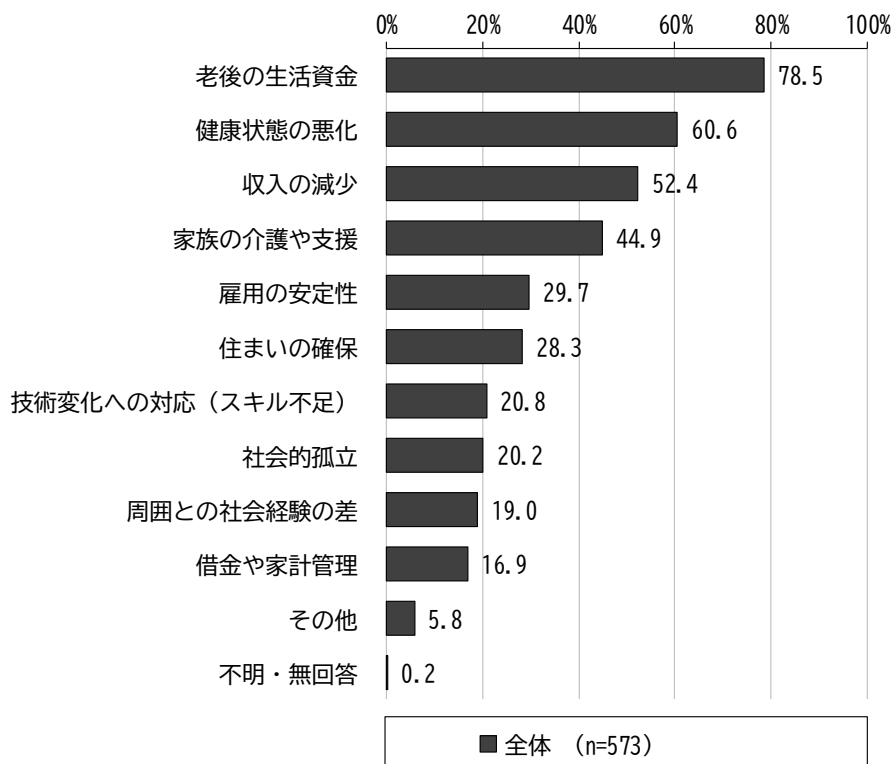
◆問 24-1 公的支援を利用していない理由

困りごとを抱えている〔問22-1〕ものの、対象要件を満たしていない(と思う)(31.7%)、どのような支援が受けられるのかわからない(23.9%)、どこが相談窓口かわからない(10.1%)等、支援未利用の理由が挙げられています。



◆問 23-1 今後の生活や働き方などについて、不安を感じる内容

将来的な不安として、老後の生活資金(78.5%)、健康状態の悪化(60.6%)、収入の減少(52.4%)、家族の介護や支援(44.9%)、住まいの確保(28.3%)等、複数の不安が挙げられています。



ヒアリング調査結果から

- 支援機関からは、本人の状況に応じた長期間の伴走支援が不可欠であるとの意見がみられました。特に、ひきこもりや精神的不調、長期の無業状態にある人については、就労支援よりも前の段階として、相談関係の構築や居場所の利用、本人のペースに合わせた支援が重要とされていることがうかがえます。
- 当事者からは、安心して相談できる関係性の構築や、必要な支援につながるための継続的なサポートを求める意見が多くみられました。特に、相談への心理的ハードルを抱える人や、自ら困りごとを整理することが難しい人も少なくない状況がみられました。また、制度や相談窓口に関する情報が分かりづらく、どこに相談すればよいか分からないとの課題もあげられています。

アンケート調査結果およびヒアリング調査結果からみられる課題

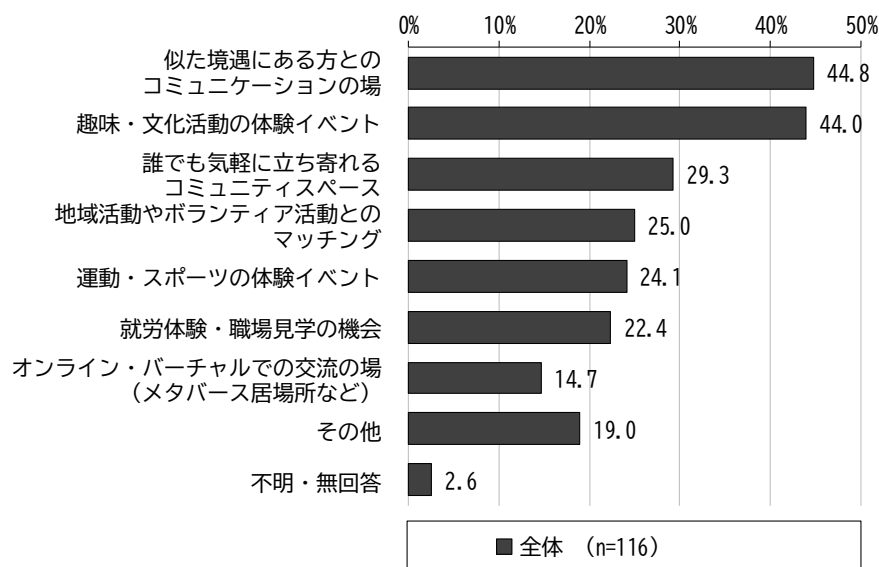
- ✓ 個別ニーズに対応した、伴走的な相談支援体制の強化が必要です。
- ✓ 必要な支援につながるよう、相談窓口や支援内容に関する周知の工夫が必要です。

2. 社会参加や居場所について

アンケート調査結果から

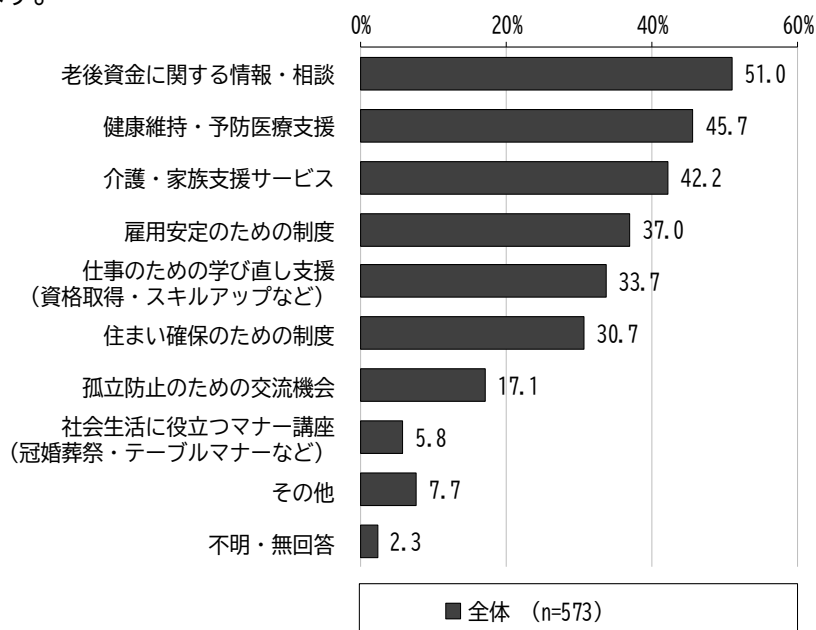
◆問 18-1 社会参加・交流を広げるために必要な機会

似た境遇にある方とのコミュニケーションの場(44.8%)、趣味・文化活動の体験イベント(44.0%)と、誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース(29.3%)等、気軽に交流できる場所を希望する状況がうかがえます。また、地域活動やボランティア活動とのマッチング(25.0%)、就労体験・職場見学の機会(22.4%)が挙げられています。



◆問 23-2 将来の不安を軽減するために必要な支援

老後資金に関する情報・相談(51.0%)、健康維持・予防医療支援(45.7%)、介護・家族支援サービス(42.2%)、仕事のための学び直し支援(33.7%)と生活や健康の安定につながる支援への希望が高くなっています。また、孤立防止のための交流機会(17.1%)と、社会とのつながりを希望する状況もあります。



ヒアリング調査結果から

- 支援機関からは、社会参加のためのプログラムの充実等を含む居場所支援の拡充や、交通費助成等による参加支援、様々な働き方の支援を求める意見がみられました。
- 当事者からは、気軽に立ち寄り相談できる居場所や参加しやすい地域活動等、地域での交流機会へのニーズがある一方、人間関係への不安や緊張等の心理的な負担を抱えている状況もうかがえました。

アンケート調査結果およびヒアリング調査結果からみられる課題

- ✓ 通いやすい居場所、参加しやすいプログラム等、居場所支援の充実が求められています。
- ✓ ニーズに応じた地域活動や居場所等へのマッチング支援も強化する必要があります。

3. 就労に関する状況について

アンケート調査結果から

◆問7×問6 初めて就いた仕事の就業形態(現在の就業形態別)

初めて就いた仕事が正規の職員・従業員のうち、8割が転職・離職を経験している状況があります。

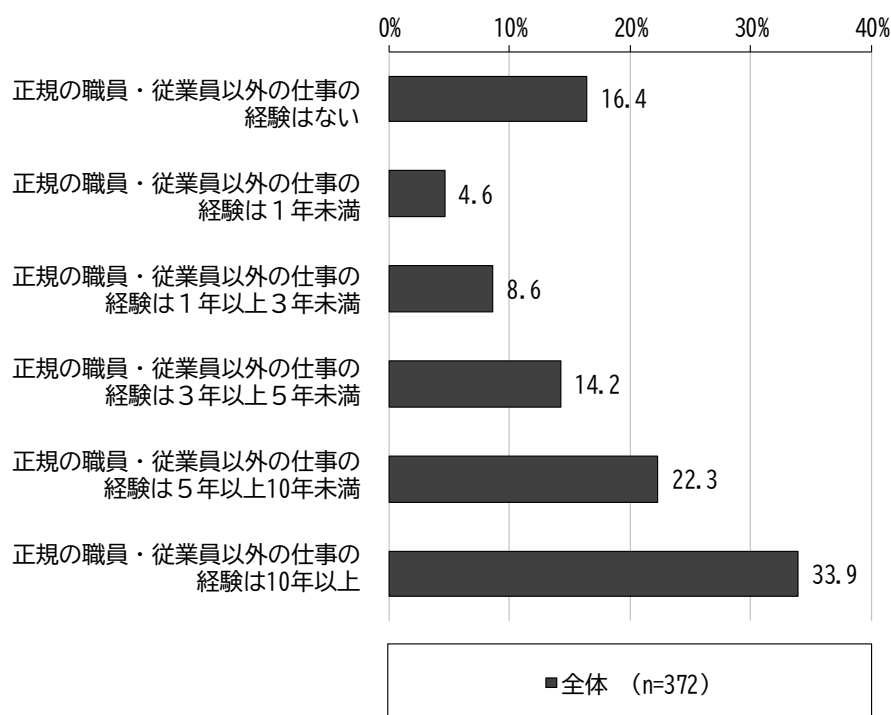
		問7 あなたが学校を卒業(または中退)した後、初めて就いた仕事の就業形態を教えてください。									
%		合計	(雇われている人のうち)正規の職員・従業員	(雇われている人のうち)パート、アルバイト	(雇われている人のうち)派遣社員	(雇われている人のうち)契約社員	(雇われている人のうち)嘱託、その他	会社・団体等の役員・経営者	自営業主、自家営業の手伝い、内職	今まで就業したことはない(専業主婦・主夫、その他の無業)	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	61.8	23.5	2.3	4.6	1.5	0.1	3.0	1.2	1.9
	正規の従業員	50	62.0	22.0	6.0	4.0	2.0	-	2.0	-	2.0
	不本意非正規雇用労働者 * ¹	40	45.0	37.5	2.5	10.0	-	-	2.5	-	2.5
	不本意でない非正規雇用労働者 * ²	300	68.7	20.0	2.0	4.7	0.7	-	2.0	-	2.0
	その他の就業者	143	60.8	23.1	0.7	4.2	2.1	0.7	7.0	-	1.4
	家事専業・学生	63	69.8	19.0	1.6	7.9	-	-	-	1.6	-
	無業者	123	49.6	31.7	4.1	2.4	3.3	-	2.4	4.9	1.6
	不明・無回答	14	42.9	14.3	-	-	7.1	-	7.1	14.3	14.3

*¹ 不本意非正規雇用労働者： 問6の選択肢の2(雇われている人のうち)パート、アルバイト、3(雇われている人のうち)派遣社員、4(雇われている人のうち)契約社員、5(雇われている人のうち)嘱託、その他を選択し、かつ問 6-1 現在の仕事の就業形態を選択している理由において、「11. 正規の職員・従業員の仕事がないから」を選択した方

*² 不本意でない非正規雇用労働者： 問6の選択肢の2(雇われている人のうち)パート、アルバイト、3(雇われている人のうち)派遣社員、4(雇われている人のうち)契約社員、5(雇われている人のうち)嘱託、その他を選択し、かつ問 6-1 現在の仕事の就業形態を選択している理由において、「11. 正規の職員・従業員の仕事がないから」以外を選択した方

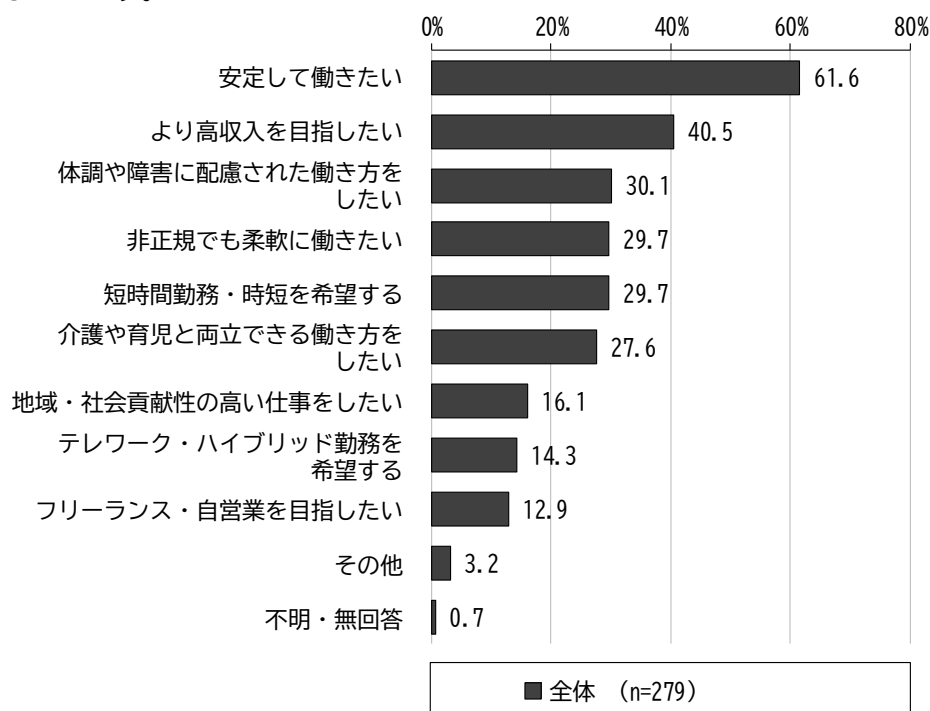
◆問7-2 正規の職員・従業員以外の仕事の経験状況

正規の職員・従業員以外の仕事の経験は 10 年以上(33.9%)となっており、不安定な就業形態が長期化している状況がうかがえます。



◆問 8-3 今後の働き方について希望すること

今後の働き方については、安定して働きたい(61.6%)、より高収入を目指したい(40.5%)、体調や障害に配慮された働き方をしたい(30.1%)、非正規でも柔軟に働きたい(29.7%)、短時間勤務・時短を希望する(29.7%)、介護や育児と両立できる働き方をしたい(27.6%)と、就労ニーズは多様化しています。



ヒアリング調査結果から

- 支援機関からは、就職氷河期世代には長期の無業状態やひきこもり、精神的不調、就労ブランク、介護等の事情を抱える人も多く、一般的なフルタイム就労を前提とした支援だけでは就労につながりにくいとの意見がありました。また、本人の状況に応じた柔軟な就労プログラムの提供の必要性が挙げられました。
- 当事者からは、就労への意欲を持ちながらも、体力面や健康面への不安、人間関係への不安、長期間のブランクなどが就労のハードルとなっていることがうかがえました。また、正社員を希望する人がいる一方で、体調や生活状況に応じた働き方を望む人もおり、就労ニーズは多様となっています。

アンケート調査結果およびヒアリング調査結果からみられる課題

- ✓ 勤務時間や勤務日数等、個々のニーズに応じた就労機会の確保が求められています。
- ✓ 個々の就労ニーズに応じた就労機会を確保するため、地域における多様な資源の開拓を進めるとともに、本人を適切につなぐ支援が必要です。

4. 生活支援に関すること

アンケート調査結果から

◆問 23-1×問4 今後の生活や働き方などについて、不安を感じる内容(現在の居住形態別)

親族名義の持家の方が、「家族の介護や支援」(56.8%)に不安を感じている状況や、民間賃貸住宅の方が「住まいの確保」(50.5%)に不安を感じている状況があります。また、居住形態に関わらず「老後の生活資金」(78.5%)、「収入の減少」(52.4%)に不安を感じている状況が高く、自由意見でも、介護等への対応を求める意見が挙げられています。

%		問23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。												
		合計	老後の生活資金	健康状態の悪化	雇用の安定性	収入の減少	住まいの確保	家族の介護や支援	社会的孤立	周囲との社会経験の差	借金や家計管理	技術変化への対応(スキル不足)	その他	不明・無回答
問4 居住形態	全体	573	78.5	60.6	29.7	52.4	28.3	44.9	20.2	19.0	16.9	20.8	5.8	0.2
	自己名義の持家(共有を含む)	98	74.5	49.0	25.5	45.9	6.1	36.7	19.4	8.2	12.2	18.4	5.1	-
	親族名義の持家	222	79.7	59.0	27.5	49.5	16.2	56.8	17.6	17.6	15.3	21.6	8.6	-
	民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)	194	79.9	66.5	36.1	57.7	50.5	38.7	23.2	26.3	19.6	19.6	3.6	-
	公的賃貸住宅(都営・区営住宅など)	39	84.6	69.2	28.2	59.0	38.5	38.5	23.1	17.9	25.6	20.5	2.6	-
	居住支援・福祉系の住まい(グループホーム、支援付き住宅など)	6	33.3	66.7	16.7	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	-
	ネットカフェ等での滞在	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	11	63.6	54.5	9.1	45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	-	9.1
	不明・無回答	3	100.0	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	-	-

ヒアリング調査結果から

- 支援機関からは、非正規雇用者や単身世帯では民間賃貸住宅の入居審査が通りにくく、緊急連絡先や保証人の確保が課題であるとの意見がありました。また、居住支援法人の活用や行政による住宅確保支援の必要性が挙げられました。
- 当事者の多くは現時点では賃貸住宅や親との同居により住まいを確保しているものの、親が保証人となっているケースも多く、親亡き後の住まいの継続確保や住宅費負担に対する将来不安がみられました。

アンケート調査結果およびヒアリング調査結果からみられる課題

- ✓ 家族介護の負担軽減や仕事と介護を両立するための支援の充実が求められています。
- ✓ 住まいの不安等を把握し、必要な支援につなぐ相談体制の強化も必要です。

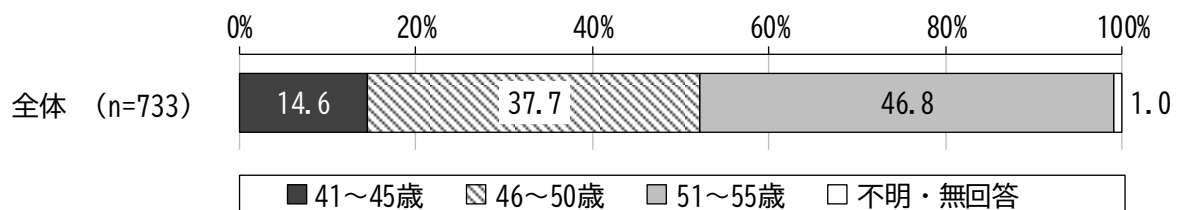
第4章 アンケート調査結果

1. 世帯の基本情報に関すること

問1 あなたの年齢(令和8年4月1日現在)を教えてください。(数値を記入)

○回答者の年齢は、「51～55歳」が最も多く46.8%、次いで「46～50歳」が37.7%、「41～45歳」が14.6%と続いている。

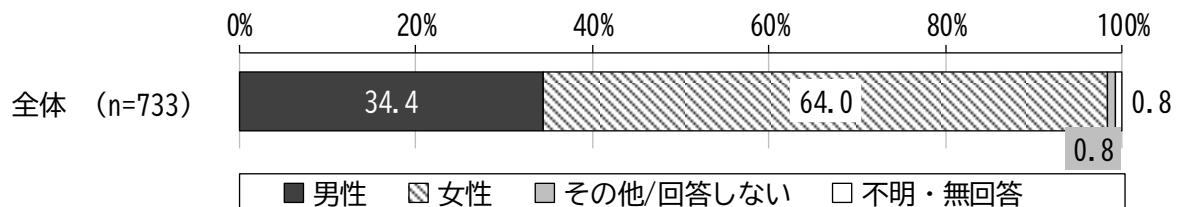
【全体】



問2 性別を教えてください。(○は1つ)

○回答者の性別は、「女性」が最も多く64.0%、次いで「男性」が34.4%、「その他/回答しない」が0.8%と続いている。

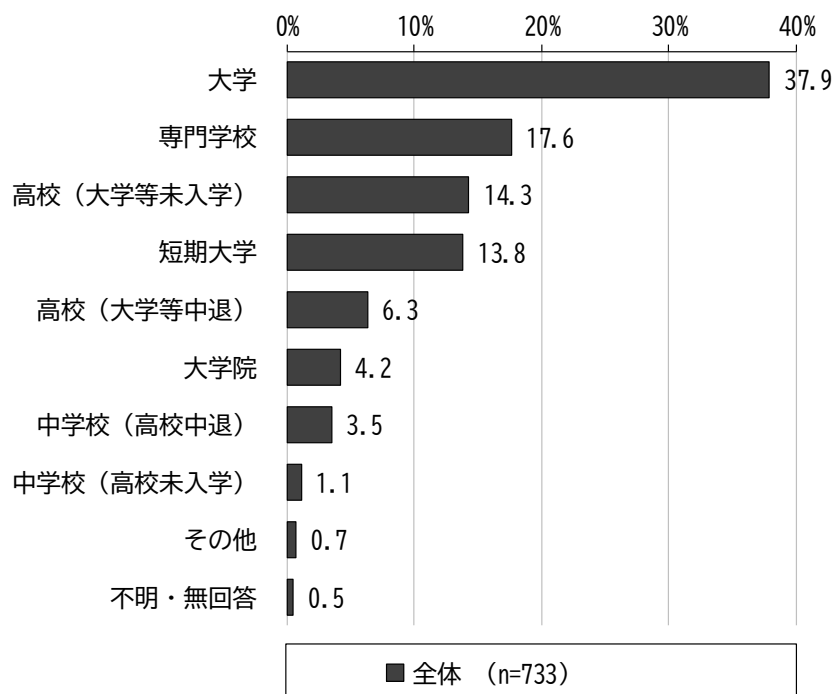
【全体】



問 3 最終学歴を教えてください。(○は1つ)

○回答者の最終学歴は、「大学」が最も多く 37.9%、次いで「専門学校」が 17.6%、「高校(大学等未入学)」が 14.3%と続いている。

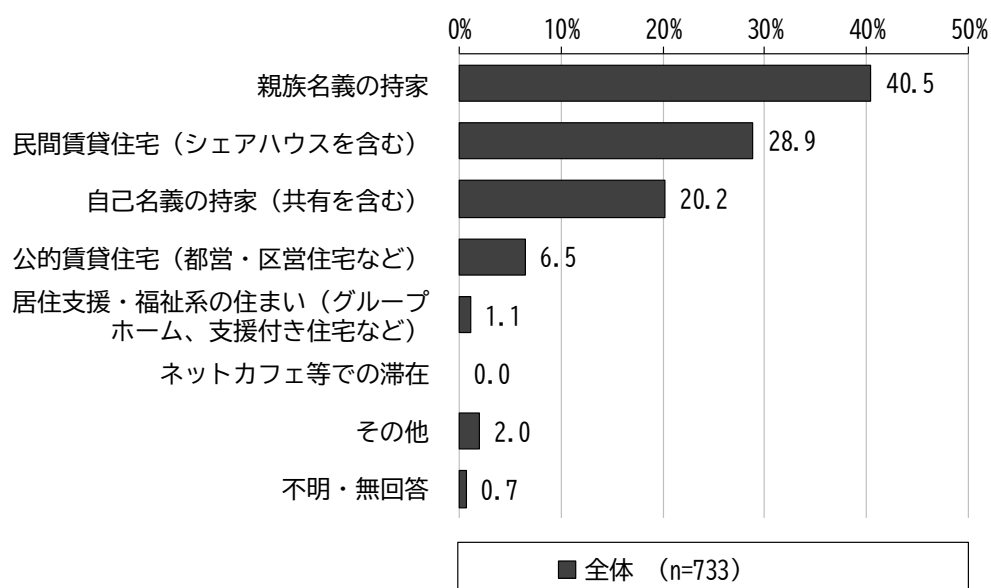
【全体】



問 4 あなたのお住まいの形態は次のどれにあたりますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

○回答者の居住形態は、「親族名義の持家」が最も多く 40.5%、次いで「民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)」が 28.9%、「自己名義の持家(共有を含む)」が 20.2%と続いている。

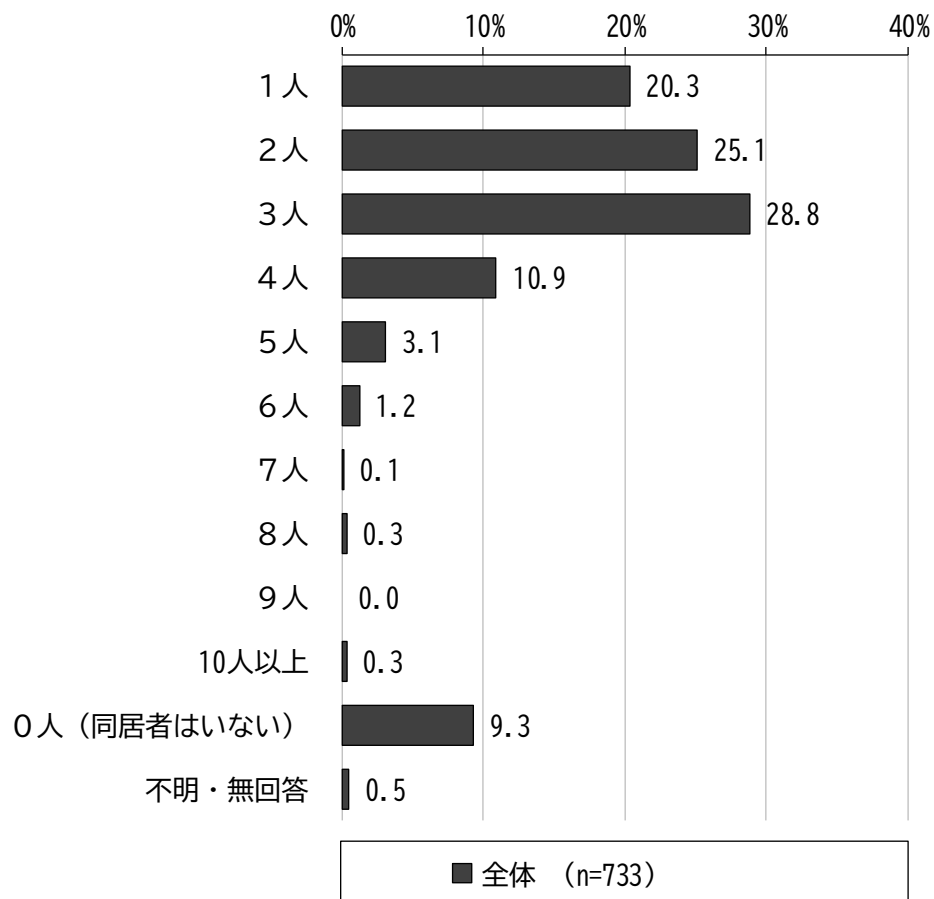
【全体】



問5 あなたと同じ住居で生活している方は何人ですか。あなた以外の人数を教えてください。(〇は1つ)

○回答者の同居人数は、「3人」が最も多く 28.8%、次いで「2人」が 25.1%、「1人」が 20.3%と続いている。

【全体】

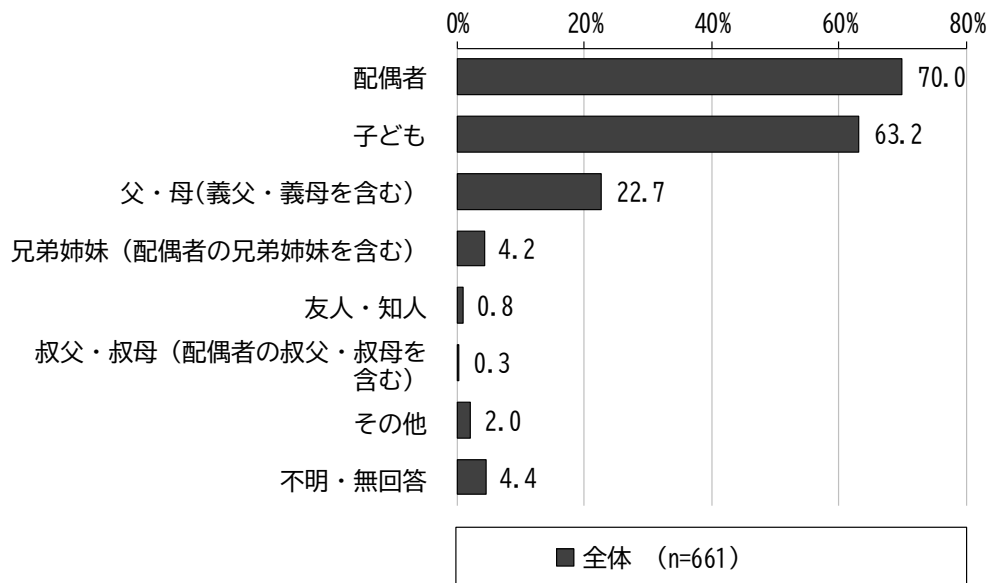


問5で「0人(同居者はいない)」以外と回答した方

問 5-1 現在、あなたと同居している方はどなたですか。当てはまるものすべてを選択してください。(〇はいくつでも)

○回答者の同居者は、「配偶者」が最も多く 70.0%、次いで「子ども」が 63.2%、「父・母(義父・義母を含む)」が 22.7%と続いている。

【全体】

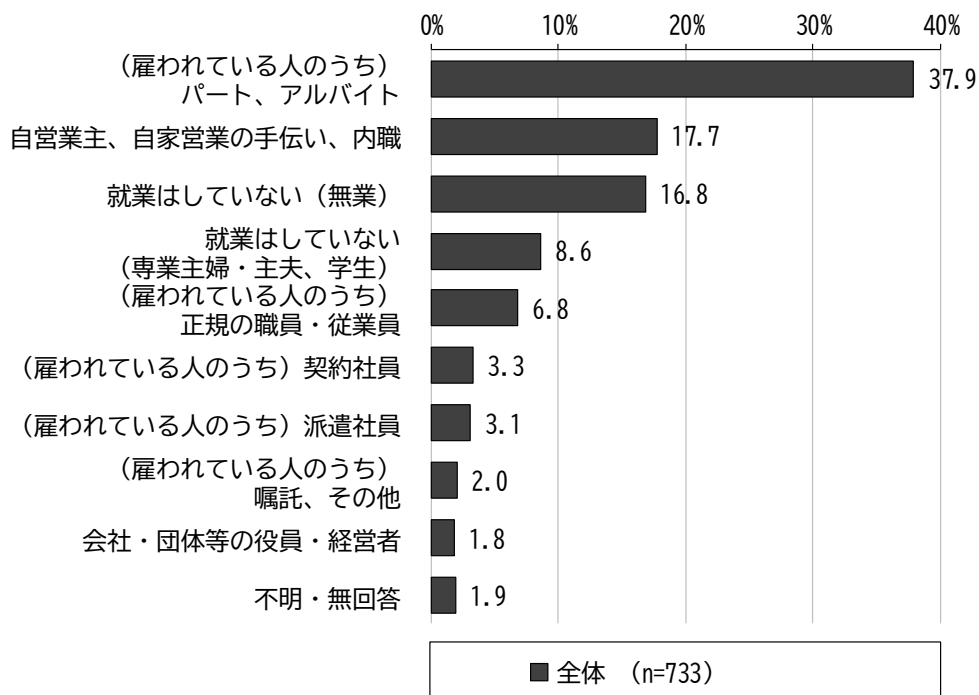


2. 就業に関すること

問 6 現在の主な仕事の就業等の形態を教えてください。(○は1つ)

○回答者の主な仕事は、「(雇われている人のうち)パート、アルバイト」が最も多く 37.9%、次いで「自営業主、自家営業の手伝い、内職」が 17.7%、「就業はしていない(無業)」が 16.8%と続いている。

【全体】

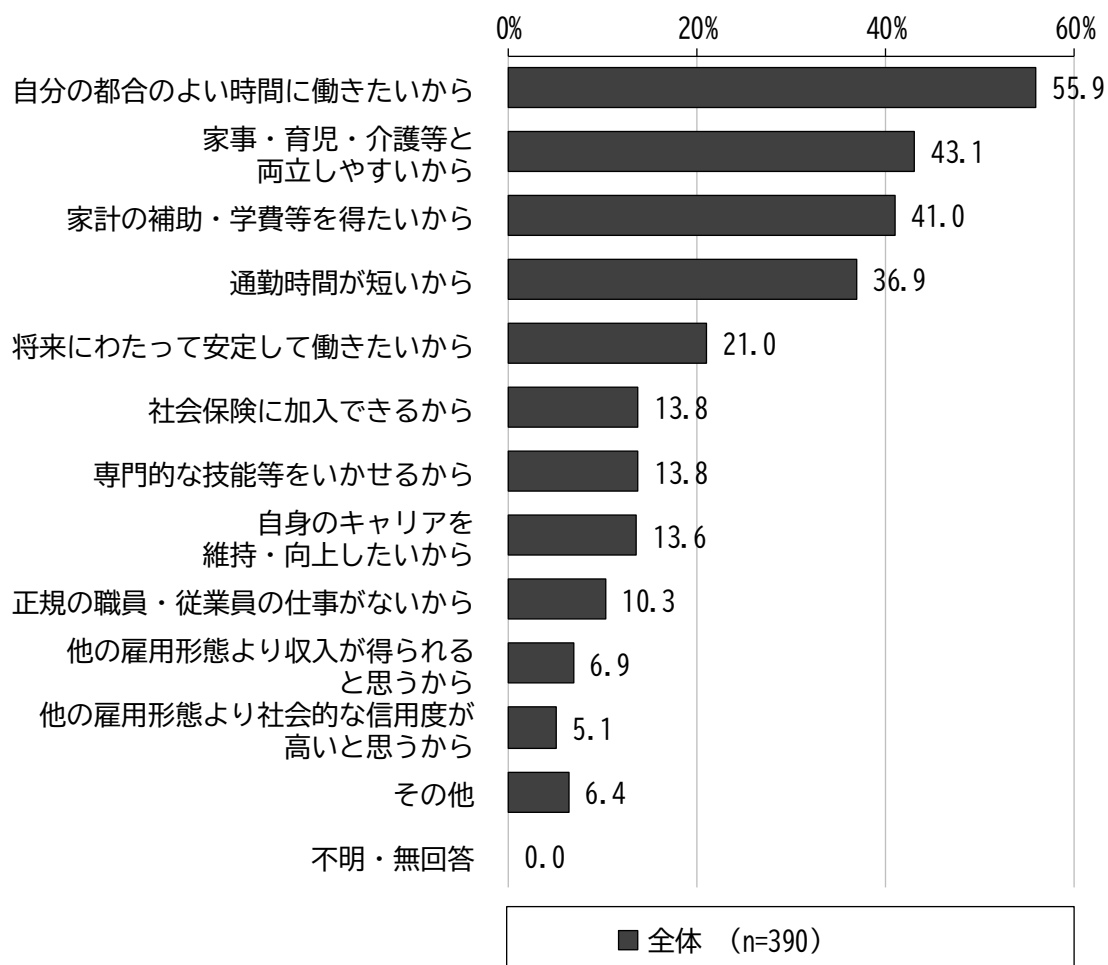


問6で「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」「(雇われている人のうち)パート、アルバイト」「(雇われている人のうち)派遣社員」「(雇われている人のうち)契約社員」「(雇われている人のうち)嘱託、その他」と回答した方

問 6-1 現在の仕事の就業形態を選択している理由として当てはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

○回答者が現在の仕事の就業形態を選択した理由は、「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最も多く 55.9%、次いで「家事・育児・介護等と両立しやすいから」が 43.1%、「家計の補助・学費等を得たいから」が 41.0%と続いている。

【全体】

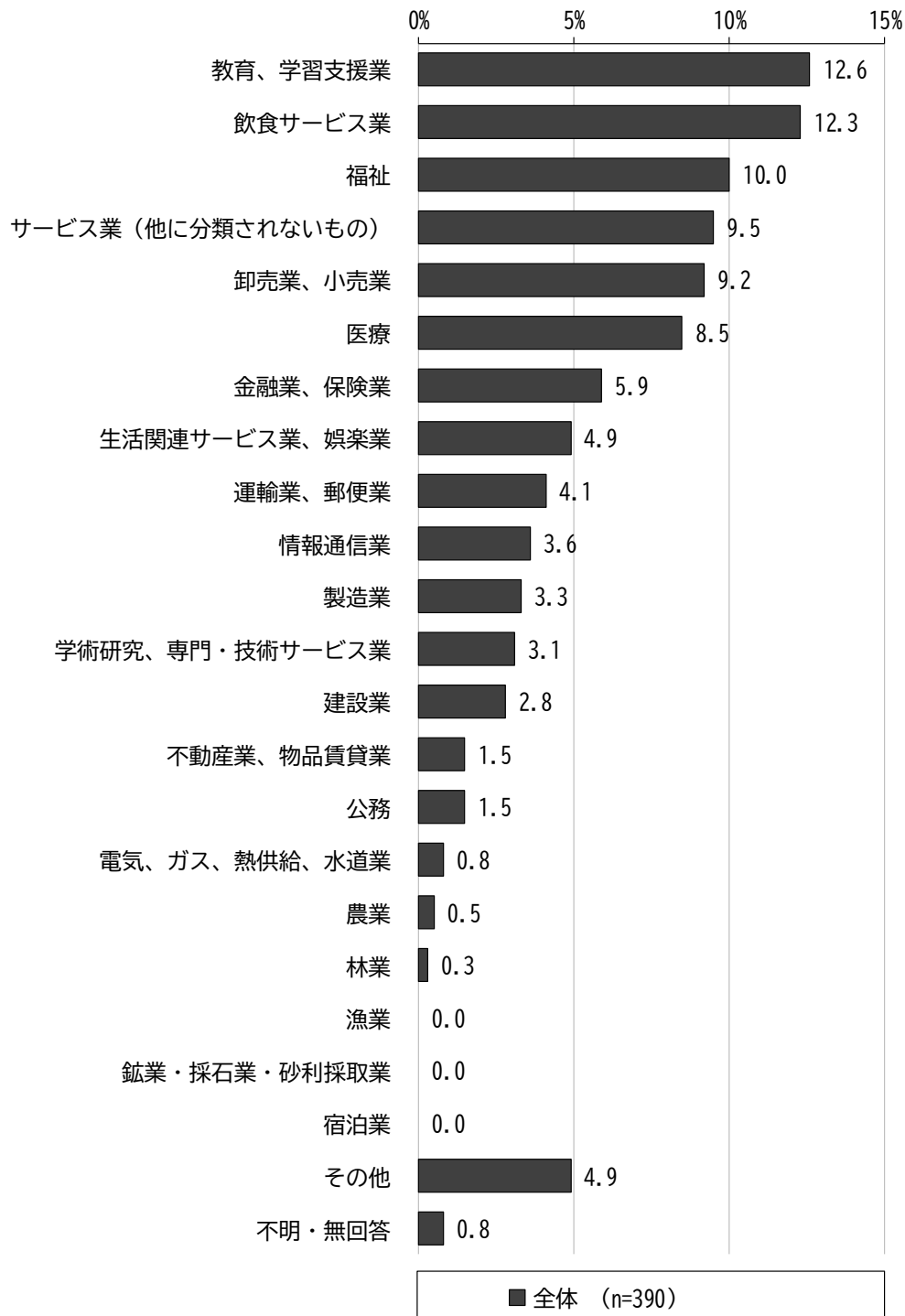


問6で「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」「(雇われている人のうち)パート、アルバイト」「(雇われている人のうち)派遣社員」「(雇われている人のうち)契約社員」「(雇われている人のうち)嘱託、その他」と回答した方

問 6-2 現在の就業先の主な業種は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。(複数の就業先がある場合は、収入の多い方の業種をお答えください。)(○は1つ)

○回答者の現在の就業先の主な業種は、「教育、学習支援業」が最も多く 12.6%、次いで「飲食サービス業」が 12.3%、「福祉」が 10.0%と続いている。

【全体】

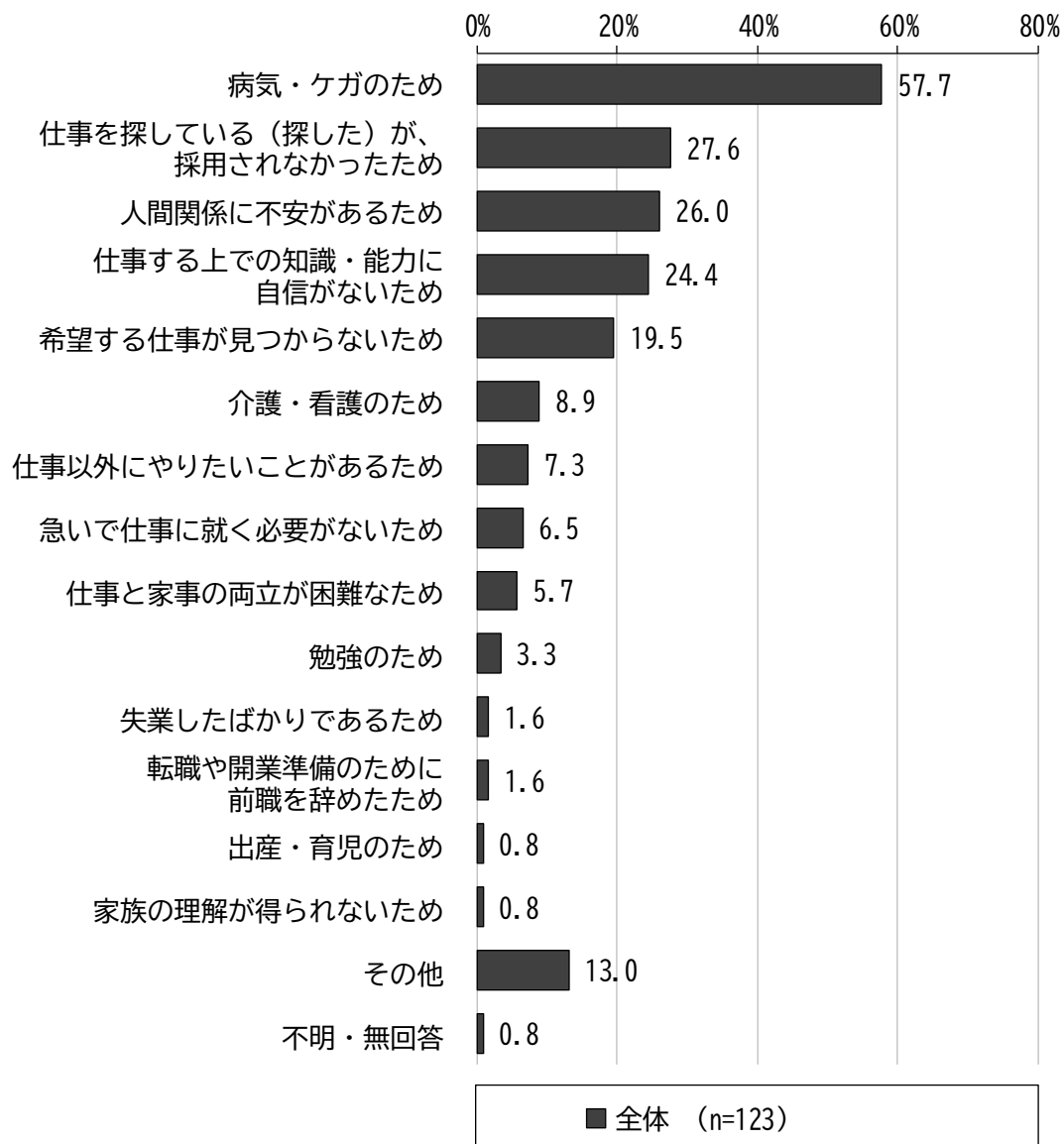


問6で「就業はしていない(無業)」と回答した方

**問 6-3 現在就業していない理由として当てはまるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)**

○回答者が現在就業していない理由は、「病気・ケガのため」が最も多く 57.7%、次いで「仕事を探している(探した)が、採用されなかったため」が 27.6%、「人間関係に不安があるため」が 26.0%と続いている。

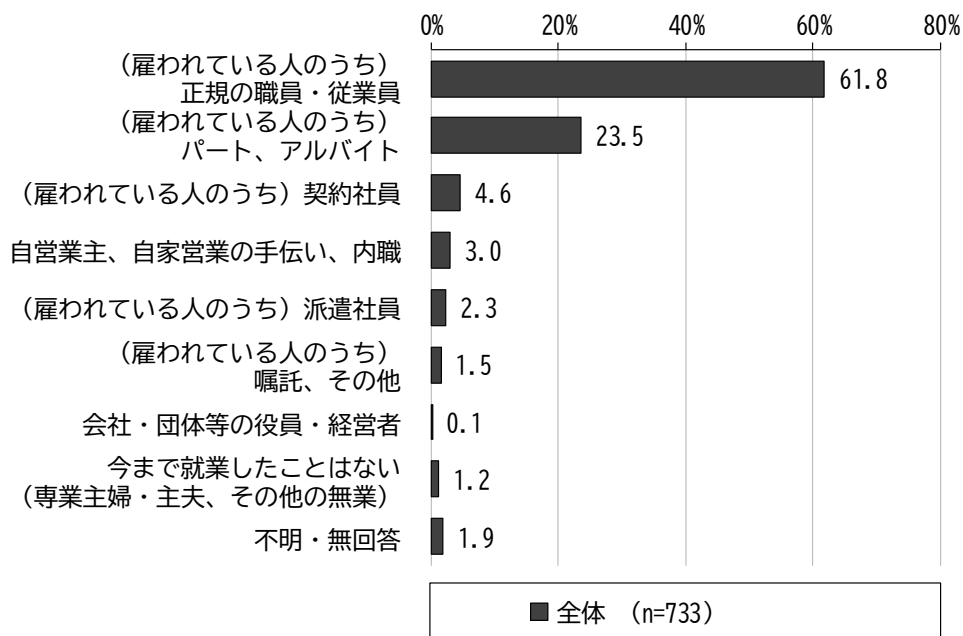
【全体】



問 7 あなたが学校を卒業(または中退)した後、初めて就いた仕事の就業形態を教えてください。(〇は1つ)

○回答者が初めて就いた仕事の就業形態は、「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」が最も多く 61.8%、次いで「(雇われている人のうち)パート、アルバイト」が 23.5%、「(雇われている人のうち)契約社員」が 4.6%と続いている。

【全体】

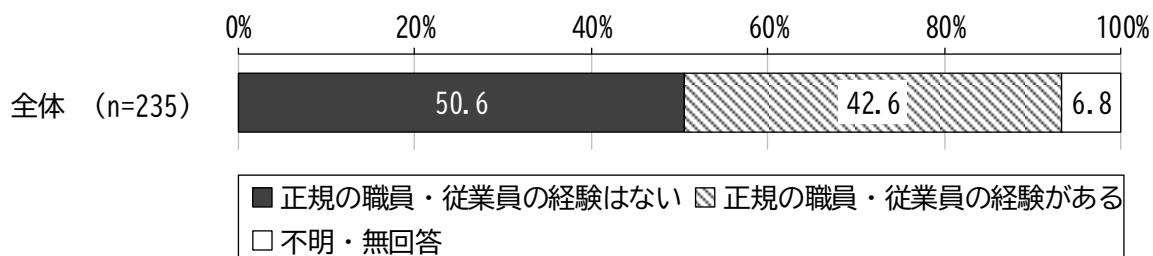


問6で「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」以外かつ、問7で「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」「今まで就業したことはない(専業主婦・主夫、その他の無業)」以外と回答した方

問 7-1 学校卒業(もしくは中退)後から現在までに正規の職員・従業員を経験しましたか。(〇は1つ)

○回答者の正規の職員・従業員の経験の有無は、「正規の職員・従業員の経験はない」が 50.6%、「正規の職員・従業員の経験がある」が 42.6%となっている。

【全体】

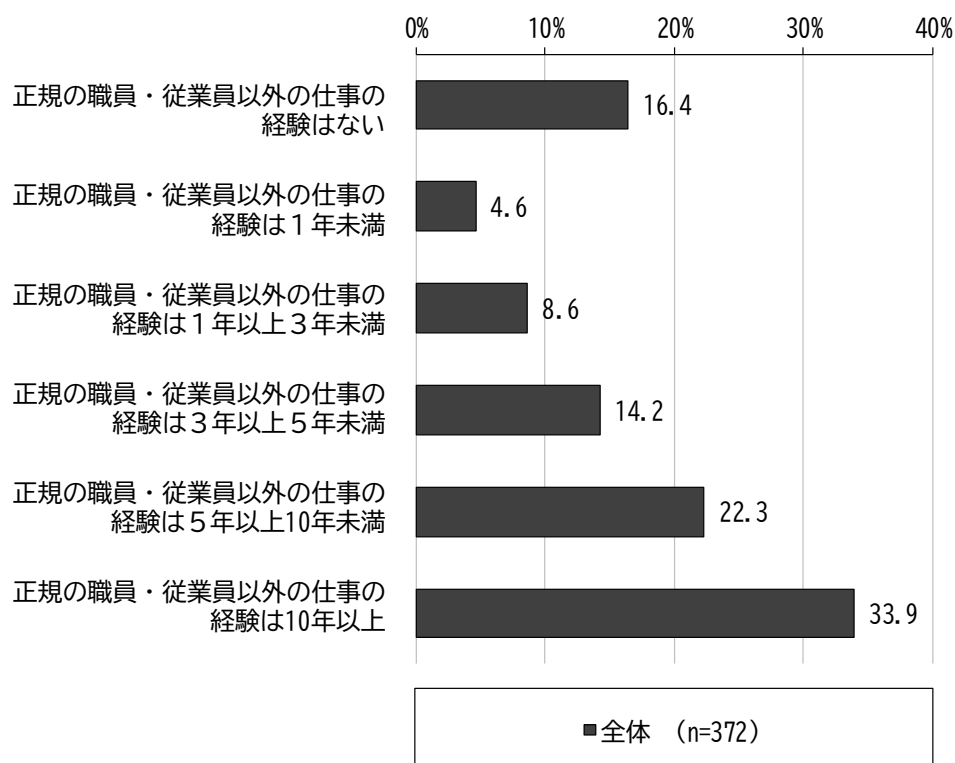


問7で「今まで就業したことはない(専業主婦・主夫、その他の無業)」以外と回答した方

問 7-2 学校卒業(もしくは中退)後から現在までに正規の職員・従業員以外の仕事を経験しましたか。経験した場合、すべて合わせてどのくらいの期間で経験しましたか。(〇は1つ)

○回答者の正規の職員・従業員以外の仕事の経験の有無は、「正規の職員・従業員以外の仕事の経験は10年以上」が最も多く 33.9%、次いで「正規の職員・従業員以外の仕事の経験は5年以上 10 年未満」が 22.3%、「正規の職員・従業員以外の仕事の経験はない」が 16.4%と続いている。

【全体】

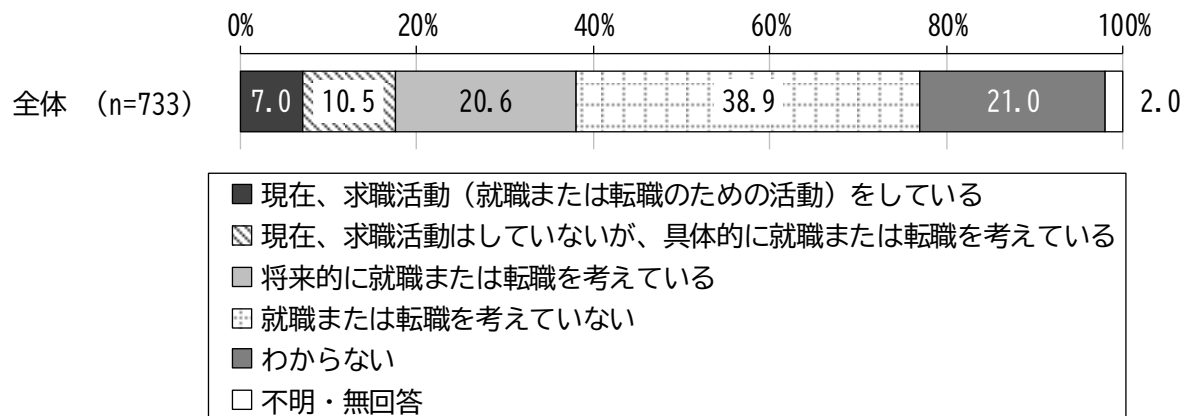


※本設問では「不明・無回答」が多くみられたため、集計結果への影響を考慮し、「不明・無回答」を除く結果を掲載しています。

問 8 今後、就職または転職を考えていますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

○回答者の今後の就職または転職に対する意向は、「就職または転職を考えていない」が最も多く 38.9%、次いで「わからない」が 21.0%、「将来的に就職または転職を考えている」が 20.6%と続いている。

【全体】

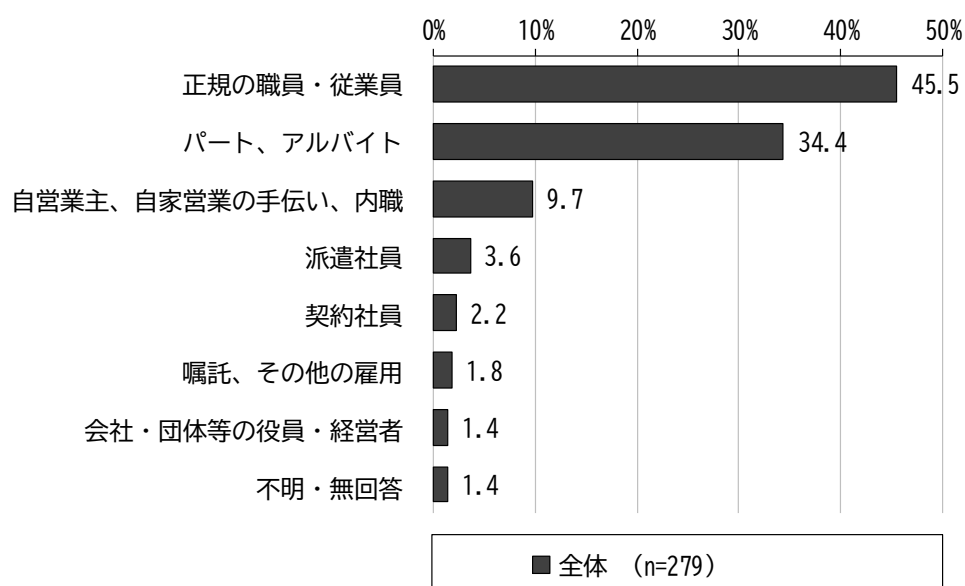


問8で「現在、求職活動(就職または転職のための活動)をしている」「現在、求職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている」「将来的に就職または転職を考えている」と回答した方

問 8-1 就職・転職に際し、希望する就業形態は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

○回答者が就職・転職の際に希望する就業形態は、「正規の職員・従業員」が最も多く 45.5%、次いで「パート、アルバイト」が 34.4%、「自営業主、自家営業の手伝い、内職」が 9.7%と続いている。

【全体】

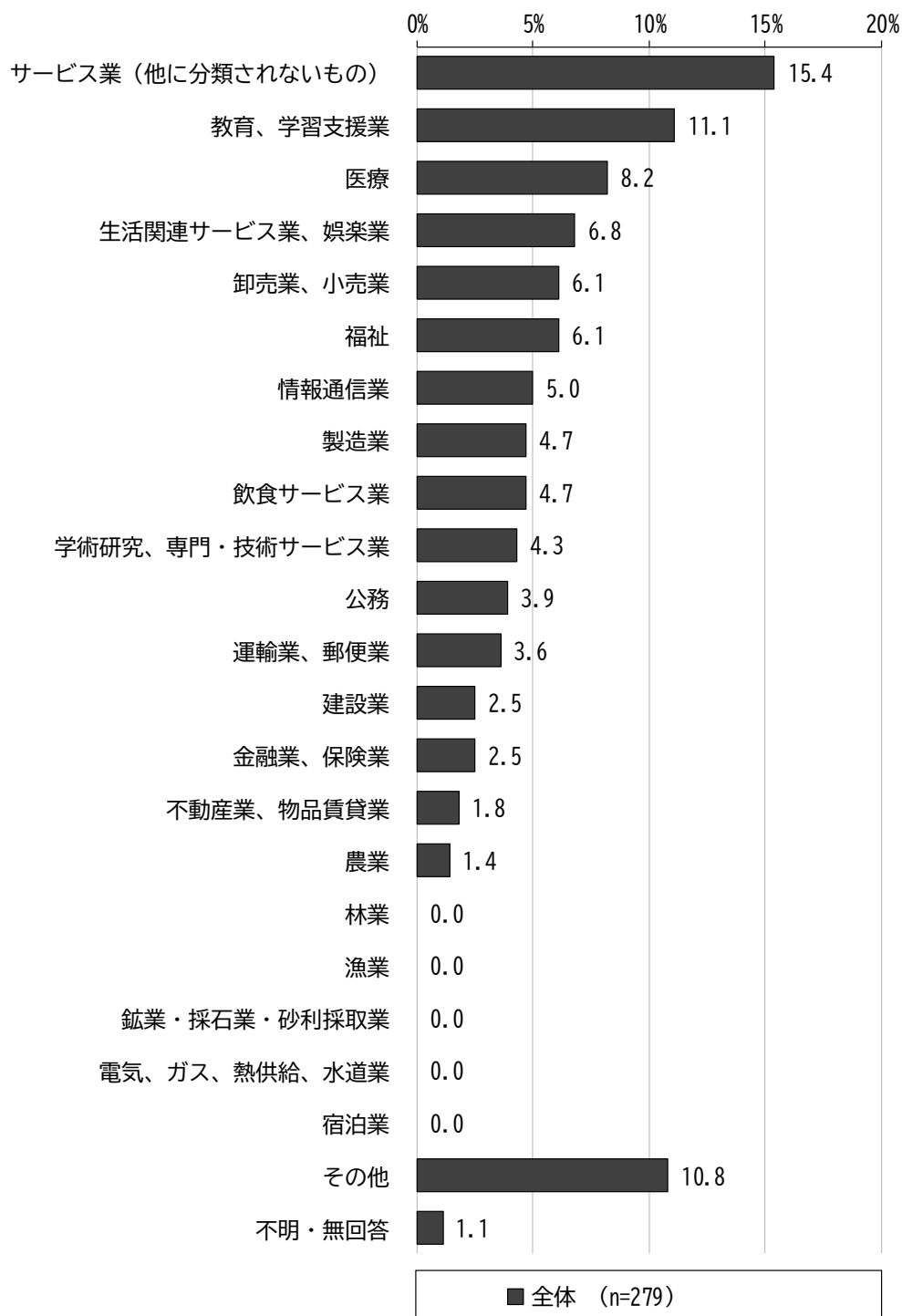


問8で「現在、求職活動(就職または転職のための活動)をしている」「現在、求職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている」「将来的に就職または転職を考えている」と回答した方

問 8-2 就職・転職に際し、希望する業種は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。
(○は1つ)

○回答者が就職・転職の際に希望する業種は、「サービス業(他に分類されないもの)」が最も多く15.4%、次いで「教育、学習支援業」が11.1%、「医療」が8.2%と続いている。

【全体】

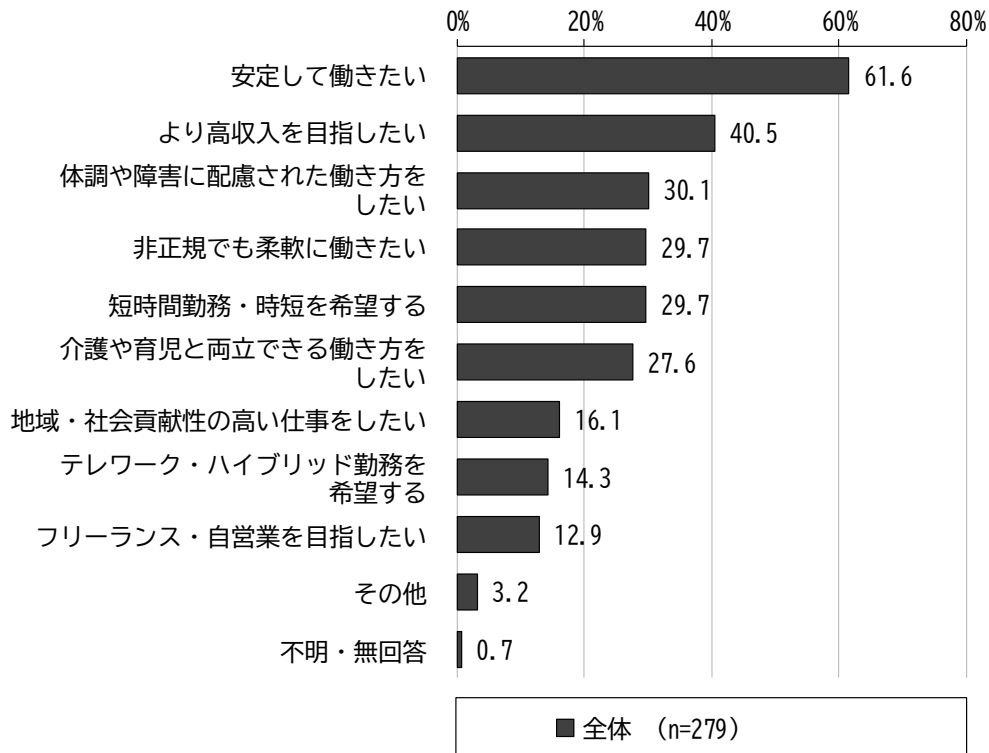


問8で「現在、求職活動(就職または転職のための活動)をしている」「現在、求職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている」「将来的に就職または転職を考えている」と回答した方

問 8-3 今後の働き方について希望することを教えてください。(〇はいくつでも)

○回答者が今後の働き方で希望することは、「安定して働きたい」が最も多く 61.6%、次いで「より高収入を目指したい」が 40.5%、「体調や障害に配慮された働き方をしたい」が 30.1%と続いている。

【全体】

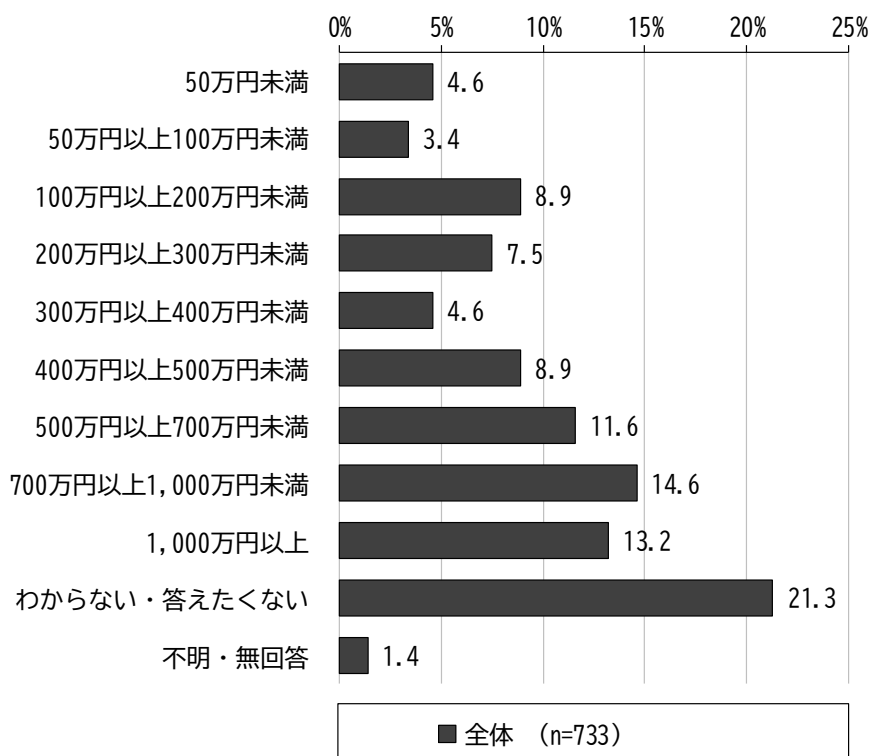


3. 生活に関すること

問 9 同居の方を含めた世帯全体での1年間のおおよその収入金額(手取り額)を教えてください。(○は1つ)

○回答者の世帯全体での1年間の収入金額は、「わからない・答えたくない」が最も多く 21.3%、次いで「700 万円以上 1,000 万円未満」が 14.6%、「1,000 万円以上」が 13.2%と続いている。

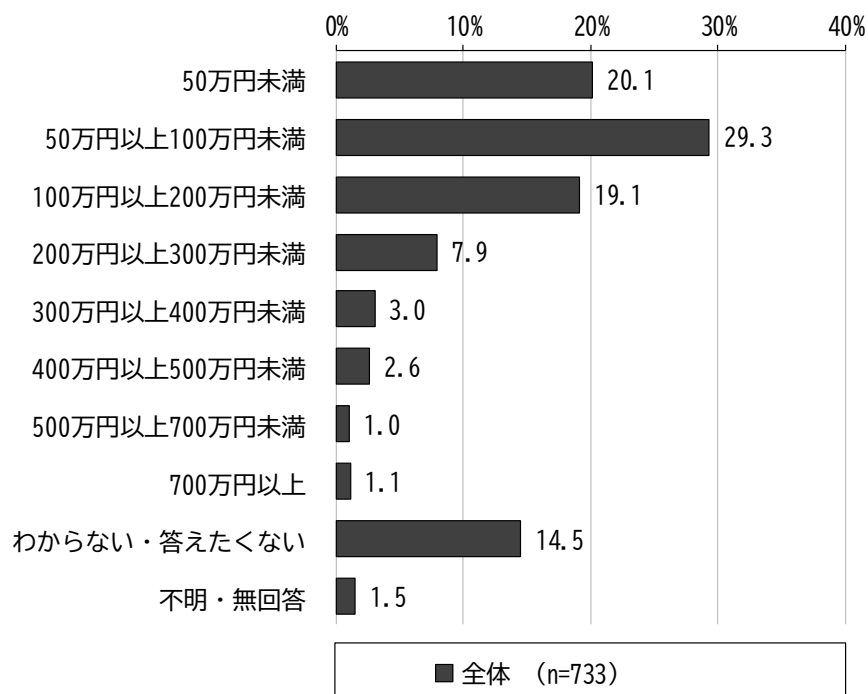
【全体】



問 10 あなたの1年間のおおよその収入金額(手取り額)を教えてください。(○は1つ)

○回答者の1年間の収入金額は、「50 万円以上 100 万円未満」が最も多く 29.3%、次いで「50 万円未満」が 20.1%、「100 万円以上 200 万円未満」が 19.1%と続いている。

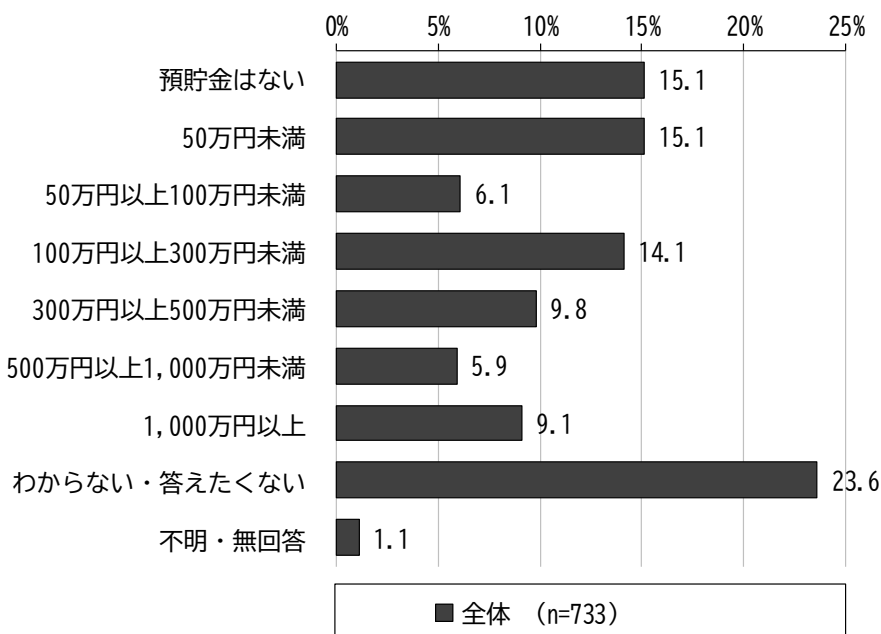
【全体】



問 11 あなたの預貯金額を教えてください。(○は1つ)

○回答者の預貯金額は、「わからない・答えたくない」が最も多く 23.6%、次いで「預貯金はない」「50 万円未満」が 15.1%と続いている。

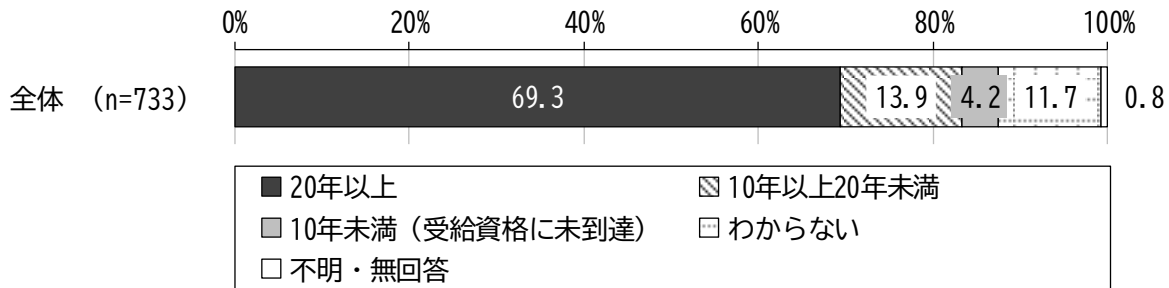
【全体】



問 12 20 歳から現在までの「年金の加入期間」はどのくらいですか。(国民年金・厚生年金・第3号(配偶者の扶養)・免除・納付猶予の期間を含みます。未納の期間は含みません。)(○は1つ)

○回答者の 20 歳から現在までの「年金の加入期間」は、「20 年以上」が最も多く 69.3%、次いで「10 年以上 20 年未満」が 13.9%、「わからない」が 11.7%と続いている。

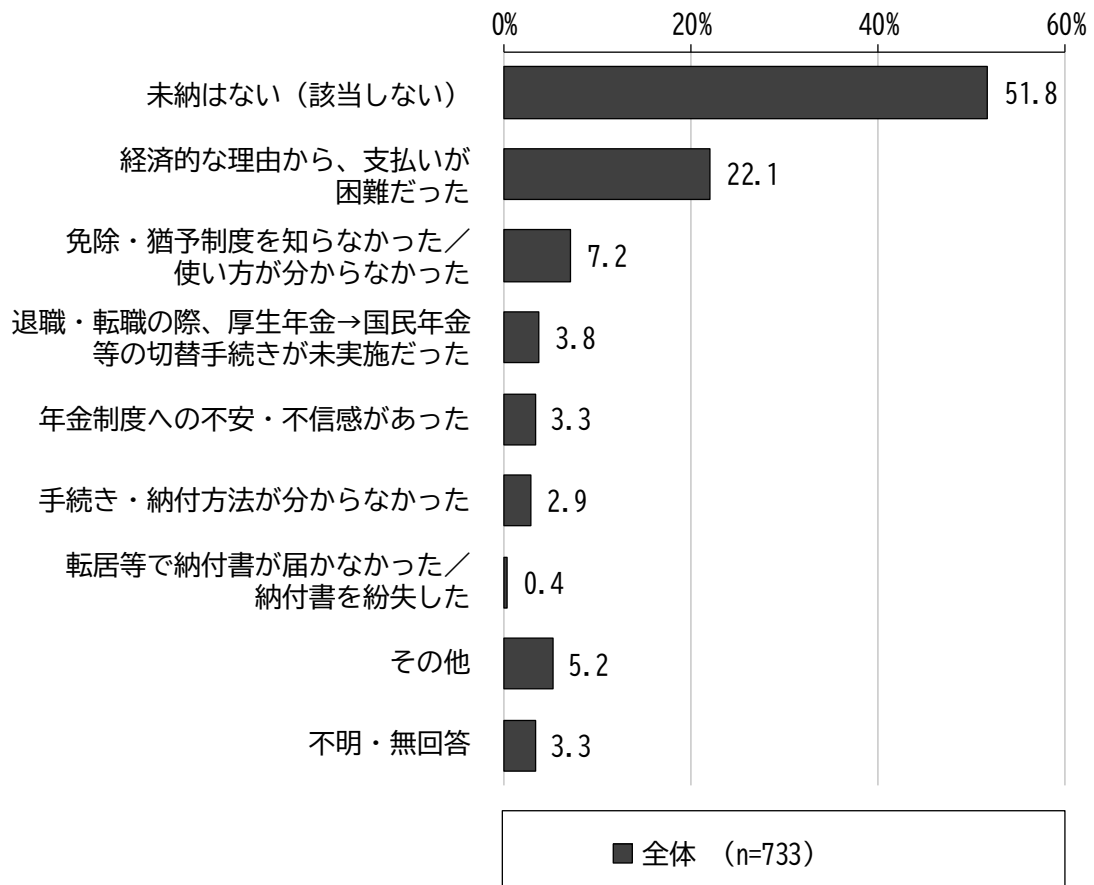
【全体】



問 13 20 歳以降、年金が「未納(=免除・猶予ではない未払い)」となった期間がありますか。ある場合は、主たる理由を1つ選んでください。(○は1つ)

○回答者が 20 歳以降に年金が「未納」となった期間があるかは、「未納はない(該当しない)」が最も多く 51.8%、次いで「経済的な理由から、支払いが困難だった」が 22.1%、「免除・猶予制度を知らなかった／使い方が分からなかった」が 7.2%と続いている。

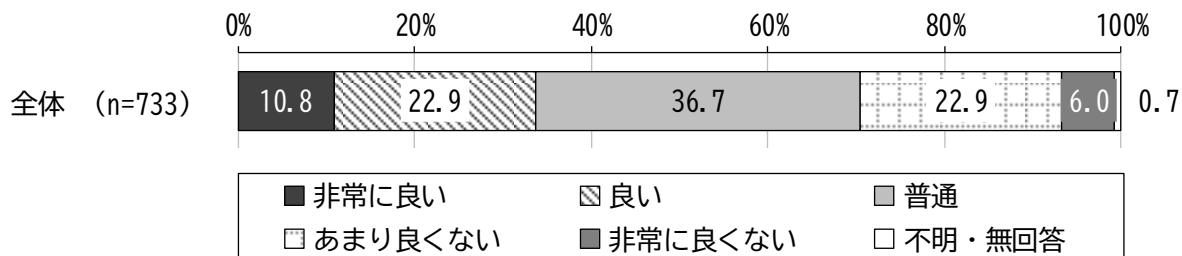
【全体】



問 14 現在の健康状態で、最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

○回答者の現在の健康状態は、「普通」が最も多く 36.7%、次いで「良い」「あまり良くない」が 22.9%と続いている。

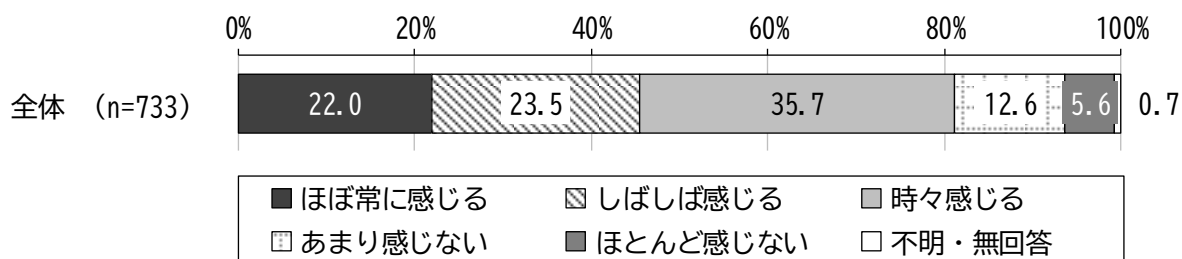
【全体】



問 15 精神的な不安やストレスを感じることがありますか。(○は1つ)

○回答者が精神的な不安やストレスを感じることは、「時々感じる」が最も多く 35.7%、次いで「しばしば感じる」が 23.5%、「ほぼ常に感じる」が 22.0%と続いている。

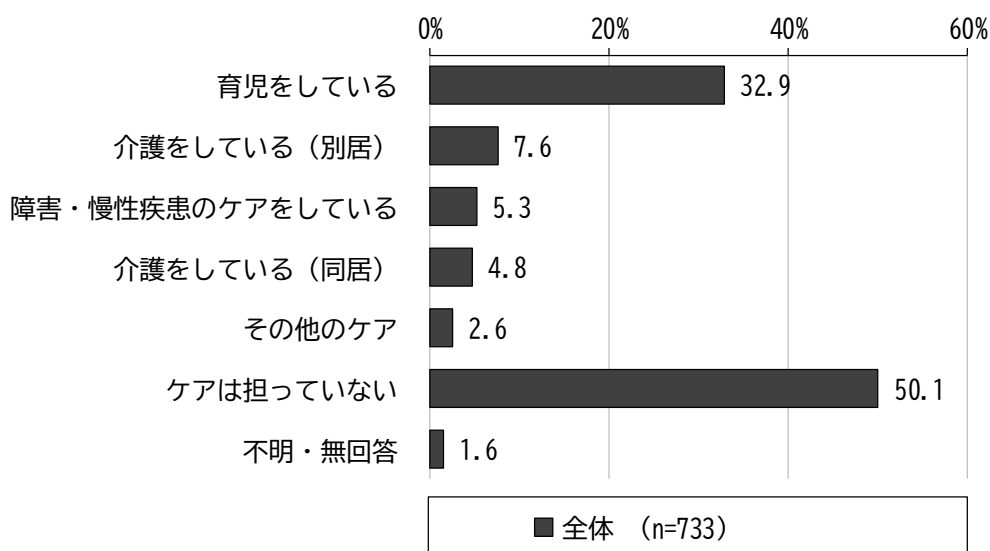
【全体】



問 16 介護や育児など、家族のケアを担っていますか。(ペットの世話は含みません。)(○はいくつでも)

○回答者が介護や育児など家族のケアを担っているかは、「ケアは担っていない」が最も多く 50.1%、次いで「育児をしている」が 32.9%、「介護をしている(別居)」が 7.6%と続いている。

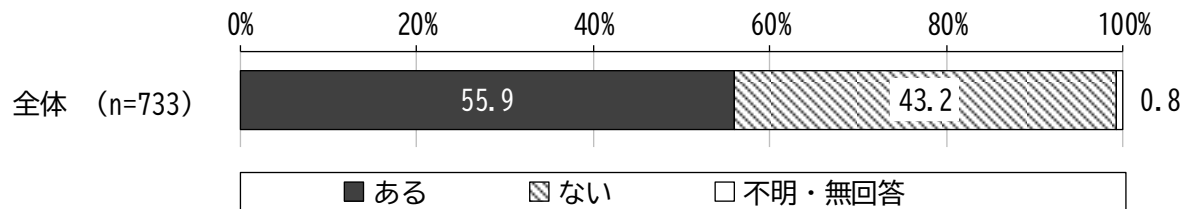
【全体】



問 17 現在、趣味・余暇活動、ボランティア活動等の社会参加や、それらを通じた友人・仕事仲間等との交流(SNSでの交流を含む)はありますか。(〇は1つ)

○回答者は、趣味・余暇活動、ボランティア活動等の社会参加を通じた友人・仕事仲間等との交流があるかは、「ある」が55.9%、「ない」が43.2%となっている。

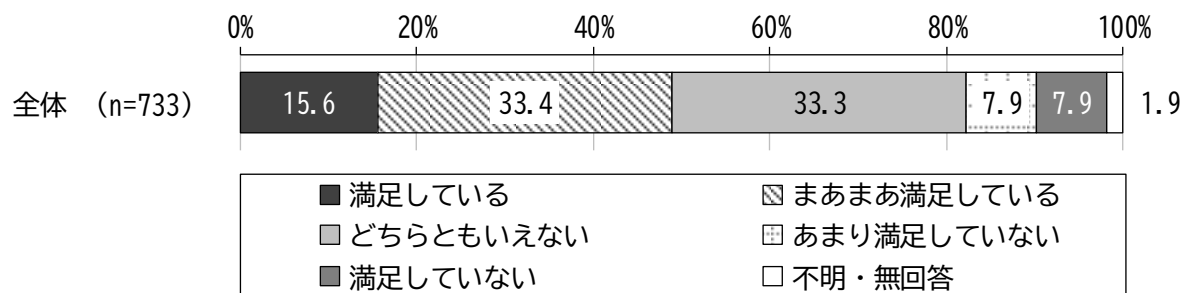
【全体】



問 18 現在の社会参加・交流の状況に満足していますか。(〇は1つ)

○回答者の社会参加・交流の状況への満足度は、「まあまあ満足している」が最も多く 33.4%、次いで「どちらともいえない」が33.3%、「満足している」が15.6%と続いている。

【全体】

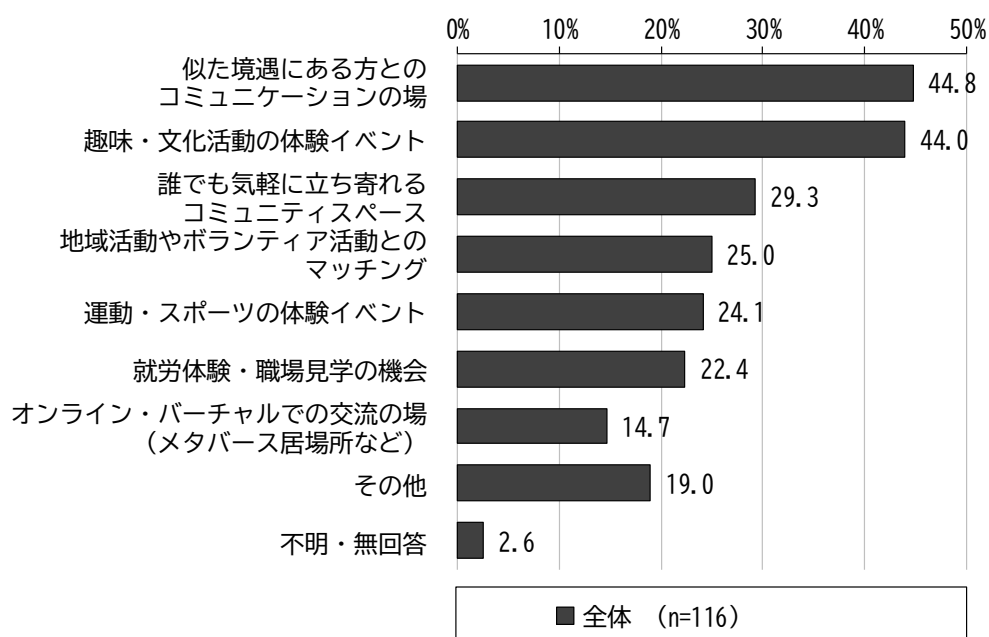


問18で「あまり満足していない」「満足していない」と回答した方

問 18-1 どのような機会があれば、社会参加・交流を広げられると思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

○回答者が社会参加・交流を広げられると思う機会は、「似た境遇にある方とのコミュニケーションの場」が最も多く 44.8%、次いで「趣味・文化活動の体験イベント」が 44.0%、「誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース」が 29.3%と続いている。

【全体】

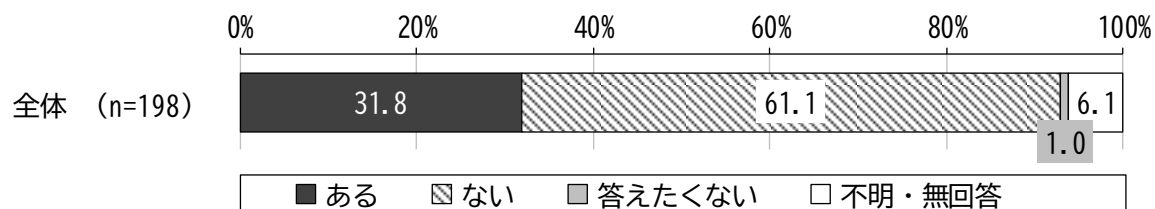


問5-1で「配偶者」以外と回答した方

問 19 結婚の経験はありますか。(○は1つ)

○回答者の結婚の経験は、「ない」が最も多く 61.1%、次いで「ある」が 31.8%、「答えたくない」が 1.0%と続いている。

【全体】

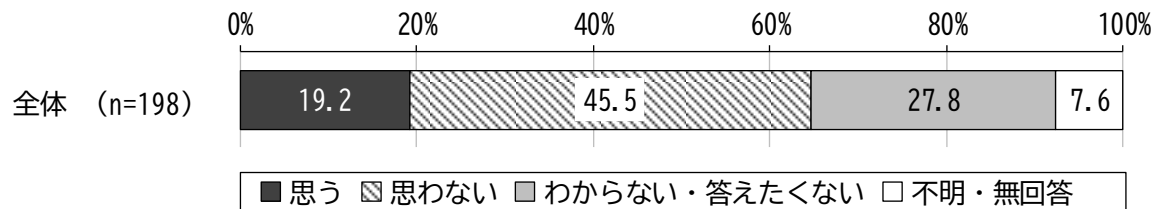


問5-1で「配偶者」以外と回答した方

問 20 今後、結婚したいと思いますか。(○は1つ)

○回答者が今後、結婚したいと思うかは、「思わない」が最も多く 45.5%、次いで「わからない・答えたくない」が 27.8%、「思う」が 19.2%と続いている。

【全体】

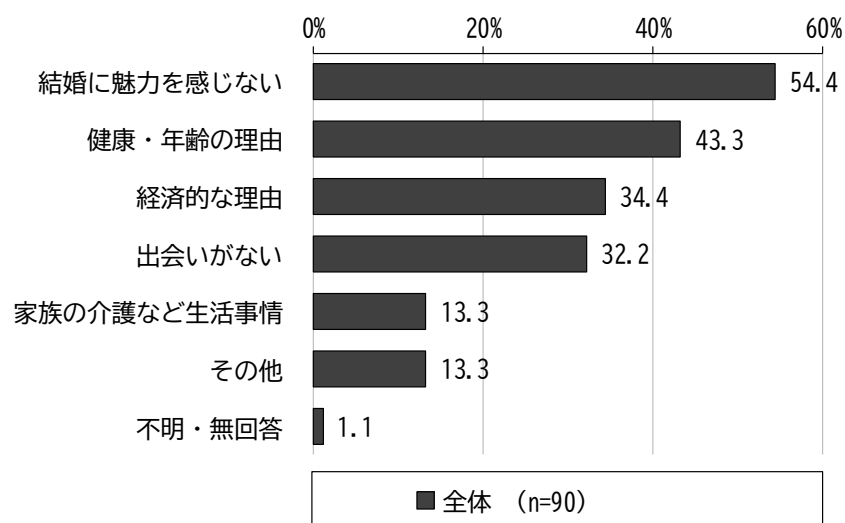


問20で「思わない」と回答した方

問 21 結婚したいと思わない理由として、当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

○回答者が結婚したいと思わない理由は、「結婚に魅力を感じない」が最も多く 54.4%、次いで「健康・年齢の理由」が 43.3%、「経済的な理由」が 34.4%と続いている。

【全体】

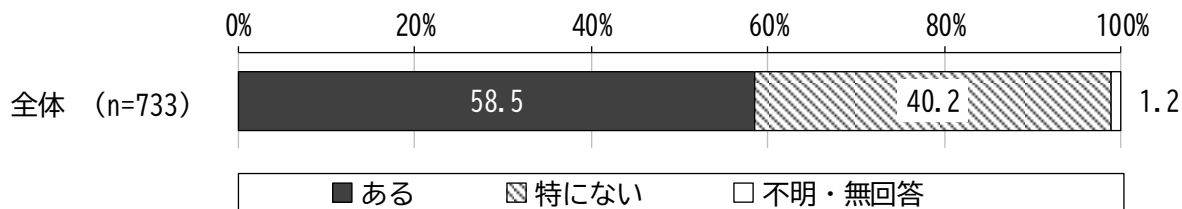


4. 困りごとや不安に関すること

問 22 現在、生活や仕事などで困っていることはありますか。(〇は1つ)

○回答者の生活や仕事などにおける困りごとの有無は、「ある」が 58.5%、「特にない」が 40.2%となっている。

【全体】

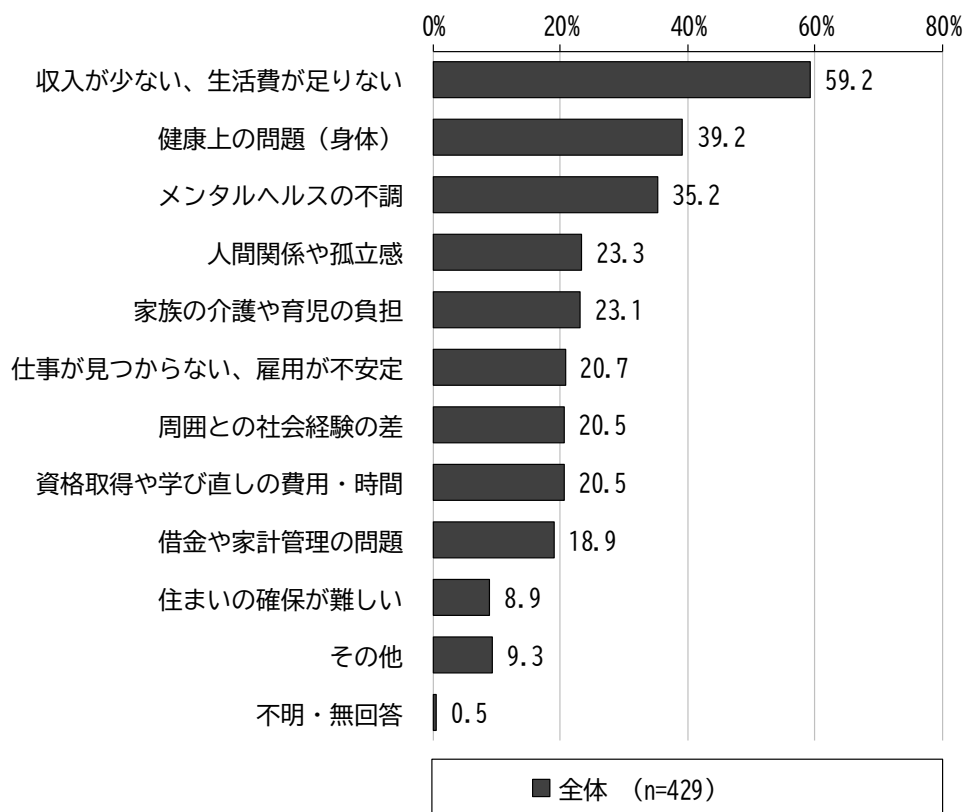


問22で「ある」と回答した方

問 22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

○回答者が困っている内容は、「収入が少ない、生活費が足りない」が最も多く 59.2%、次いで「健康上の問題(身体)」が 39.2%、「メンタルヘルスの不調」が 35.2%と続いている。

【全体】

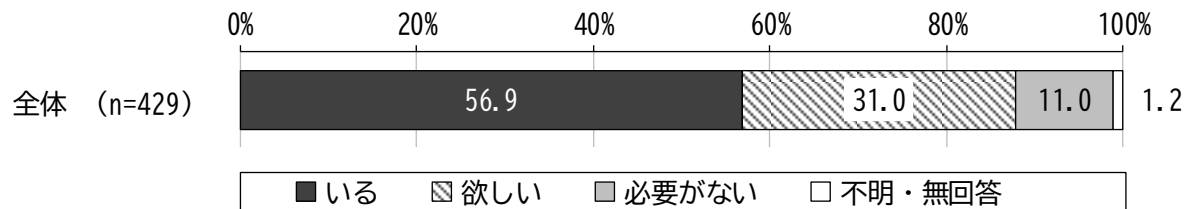


問22で「ある」と回答した方

問 22-2 困りごとを相談できる相手はいますか。(○は1つ)

○回答者の相談相手の有無は、「いる」が最も多く 56.9%、次いで「欲しい」が 31.0%、「必要がない」が 11.0%と続いている。

【全体】

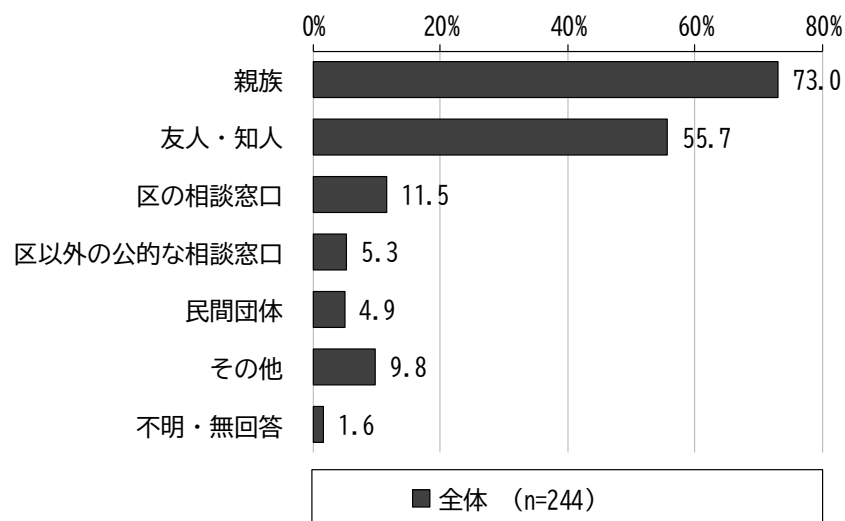


問22-2で「いる」と回答した方

問 22-3 相談できる相手はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

○回答者の相談相手は、「親族」が最も多く 73.0%、次いで「友人・知人」が 55.7%、「区の相談窓口」が 11.5%と続いている。

【全体】

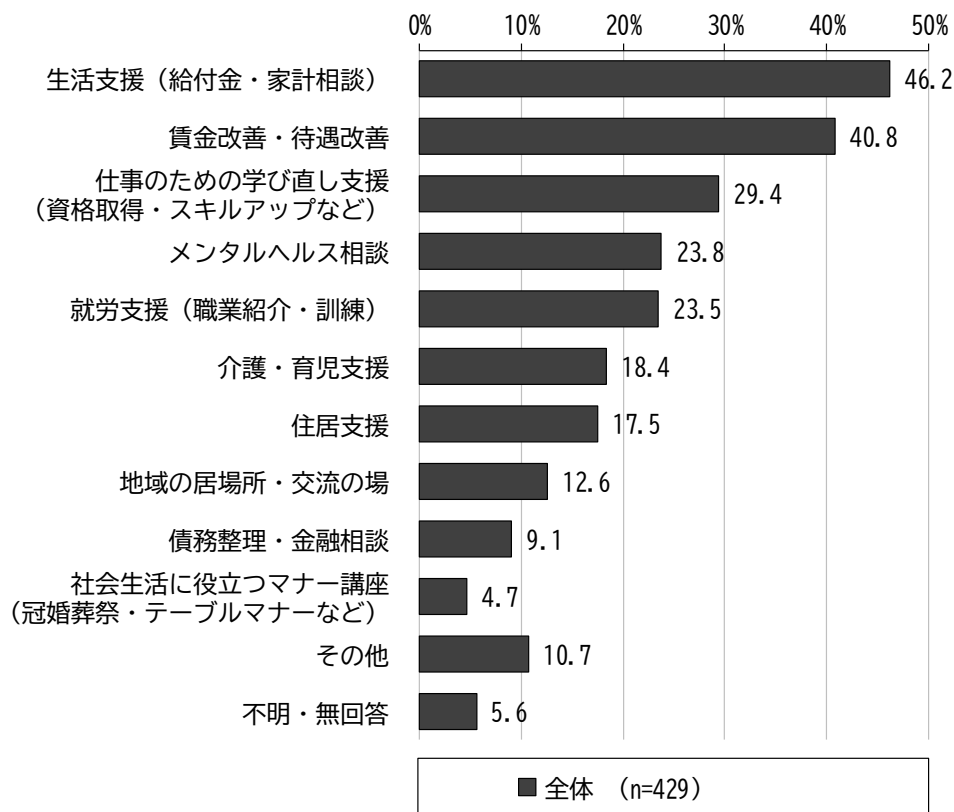


問22で「ある」と回答した方

**問 22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)**

○回答者の困りごとの解決に必要な支援は、「生活支援(給付金・家計相談)」が最も多く 46.2%、次いで「賃金改善・待遇改善」が 40.8%、「仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど)」が 29.4%と続いている。

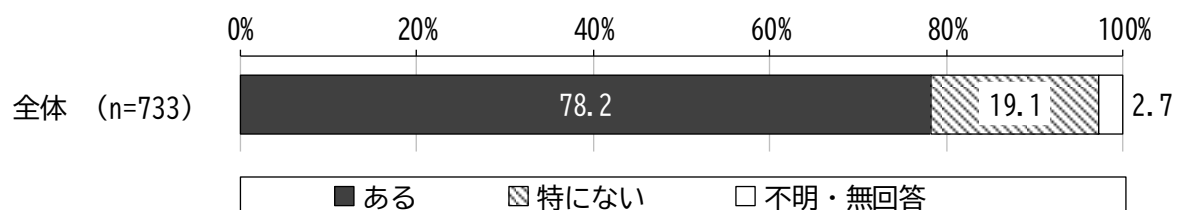
【全体】



問 23 今後の生活や働き方などについて、不安を感じることはありますか。(〇は1つ)

○回答者が今後の生活や働き方などに不安を感じることはあるかは、「ある」が 78.2%、「特にない」が 19.1%となっている。

【全体】

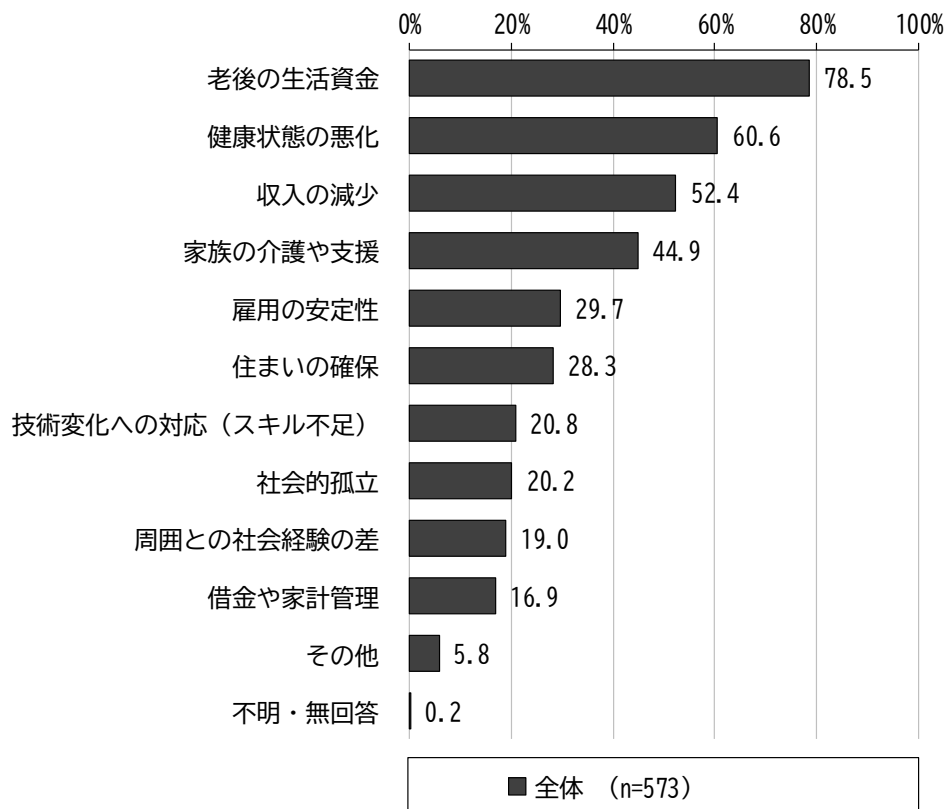


問23で「ある」と回答した方

問 23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

○回答者が不安に感じていることは、「老後の生活資金」が最も多く 78.5%、次いで「健康状態の悪化」が 60.6%、「収入の減少」が 52.4%と続いている。

【全体】

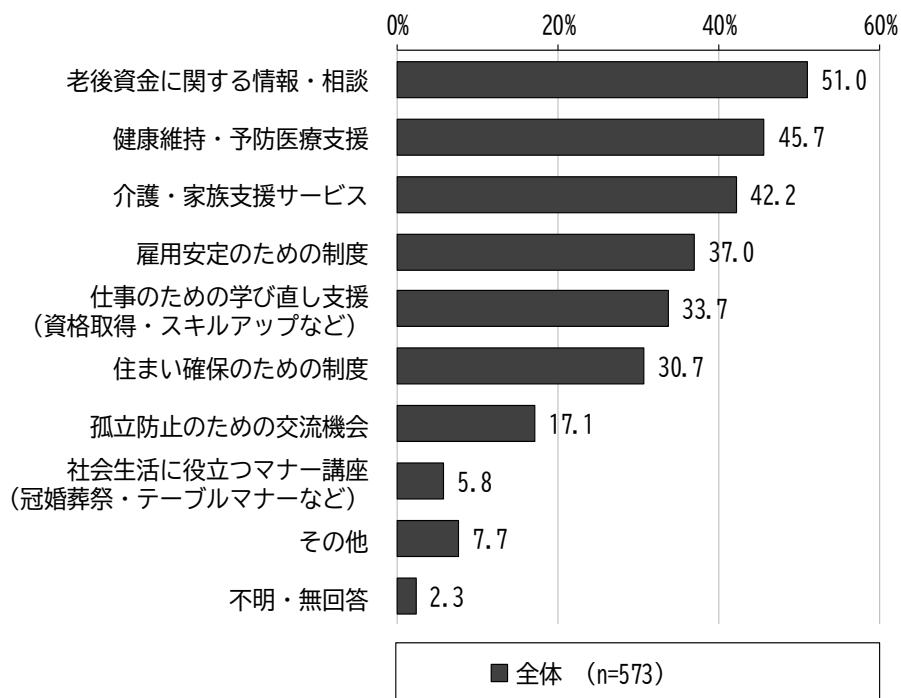


問23で「ある」と回答した方

**問 23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。
(〇はいくつでも)**

○回答者の将来の不安の軽減のためにあると良い支援は、「老後資金に関する情報・相談」が最も多く51.0%、次いで「健康維持・予防医療支援」が45.7%、「介護・家族支援サービス」が42.2%と続いている。

【全体】

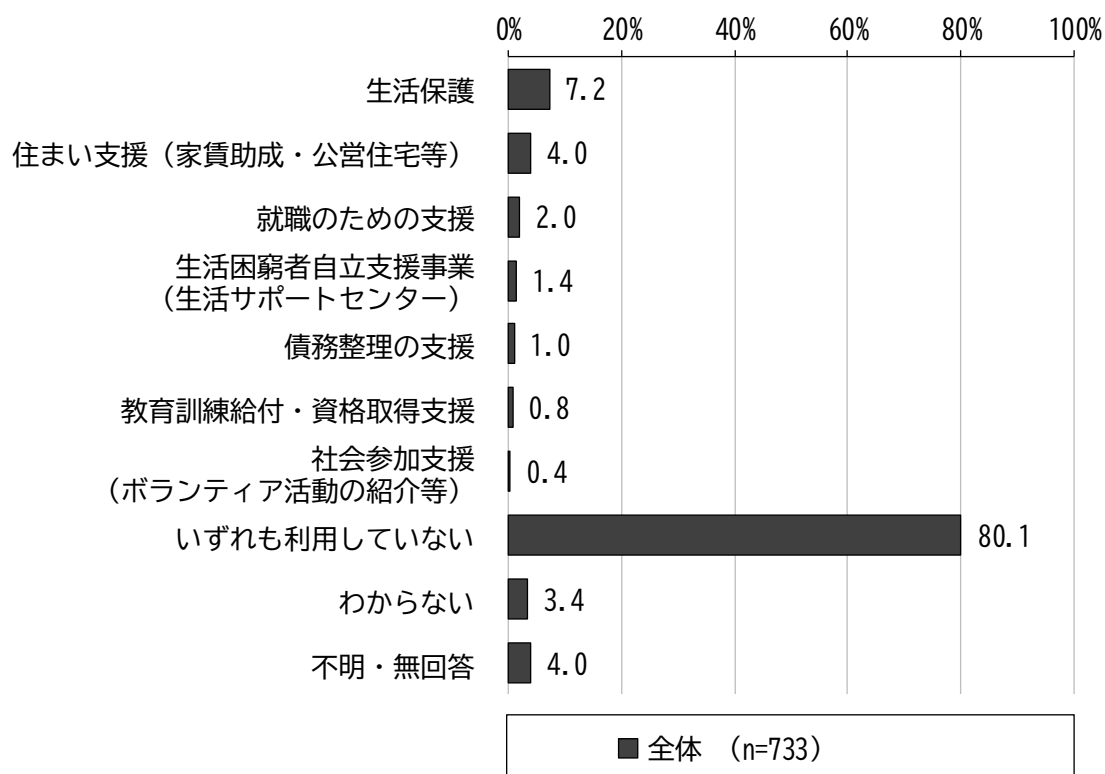


5. 支援に関すること

問 24 次の中から、現在利用している公的支援はありますか。(○はいくつでも)

○回答者が現在利用している公的支援は、「いずれも利用していない」が最も多く 80.1%、次いで「生活保護」が 7.2%、「住まい支援(家賃助成・公営住宅等)」が 4.0%と続いている。

【全体】

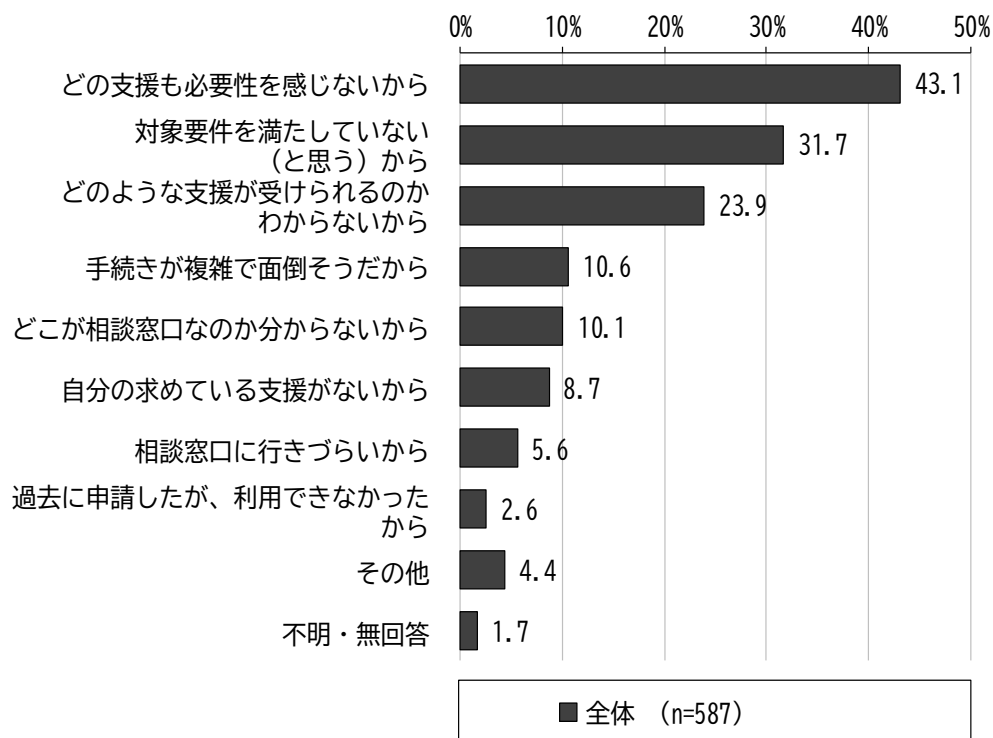


問24で「いずれも利用していない」と回答した方

問 24-1 公的支援を利用していない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

○回答者が公的支援を利用していない理由は、「どの支援も必要性を感じないから」が最も多く43.1%、次いで「対象要件を満たしていない(と思う)から」が31.7%、「どのような支援が受けられるのかわからないから」が23.9%と続いている。

【全体】



問24-1で「相談窓口に行きづらいから」と回答した方

問 24-2 相談窓口に行きづらい理由を教えてください。(自由記述)

【1. 相談自体への心理的抵抗】

回答内容
一度も行った事が無い為に恥ずかしい。
自分の気持ちを言語化するのが得意でない。緊張する。
周囲にバレるのが嫌だから。恥ずかしい。
なんとなく、何をどう聞いて相談して良いのかわからないので
プラスのことではなく人に相談しづらい
他人には相談しづらいから
知らない方に相談しにくい
勇気がないから。緊張すると頭が真っ白になってしまい、話す言葉が出てきません。黙ってしまいます。

【2. 相談内容のプライバシーへの懸念】

回答内容
大声で名前を呼ばれたり、部屋に案内されると周囲から目に見えて分かるため。
プライベートな事を他人にあまり話したくない。たいてい予約が必須であるし混雑していて相談したいタイミングが合わない。
過去、他自治体で相談した時、役所の一般的な窓口で、近くにたくさん人がいるのに、聞かれたくないことを職員に大声で話されたことがあるから。
自分の状況などを詳細に話したくない。
相談内容にデリケートな部分も含まれると思うので。
直接相談機関へ行き、相談内容を担当職員以外の周囲に聞かれたり、見られたりするものが非常にストレスに思うから。オンライン相談窓口があれば心理的にも助かるように思う。

【3. 対応(職員)への不満】

回答内容
困って相談に行きましたが、職員の対応が悪くて不愉快になりました。職員の上から目線が頭に来て、相談に行きたくない。思いやりが無い。相手の気持ちを考えてもらいたい。
就職のための支援を受けるためハローワークに行ったが、職員の質に失望した。全く機能していない。お役所仕事の悪いところが出ているので、改善を求める。
以前、ハローワーク求人を応募し、面接に行ったが、合否結果連絡が期日に来なかったり、電話対応が悪かったりする会社が目立つ。なので、就労窓口に行かなかった。
本当に迷惑そうに対応されると想像しているので。

【4. 時間的な制約】

回答内容
区報で該当のメンタルヘルス相談を最寄りの区民事務所で行っている事は分かるが、平日の限られた時間の為に都合が合わない。また、電話で予約することのハードルが高い。評判や口コミも分からないので不安。
仕事、家事で時間をとられ、自分の為に行動する時間の確保が難しいです。窓口に行きづらい、というよりは全ての行動をおこす時間的余裕がないという方がしっくりきます。
すでに健康状態がよくないので、相談に行くのが困難。時間的体力的余裕に欠ける。
土日祝日が休みで 17 時に閉まる役所に行ける社会人なんていない。

【5. 相談の有効性に対する疑問】

回答内容
以前相談しても、就労はハローワークに行って下さい、と言われるだけで個人ごとにどんなサポートが必要なのか、自分はどうすれば良いかわからないのに、相談しても解決されないと思った。
期待するものが得られるとは思えない上に煩わしい思いをするから。
相談して解決できるとは思えないから。無駄な相談となると、精神的ダメージが大きく、不信感が増すから。

【6. 相談手続きの煩雑さ】

回答内容
場所がわからず、対応してくれる方がいい方かわからず、待ち時間だけかかりそうだから。

【7. 相談場所へのアクセスのしにくさ】

回答内容
サポステやあすはステーションなどの支援機関が自宅から遠く、交通費や移動負担が大きいため継続利用に至らなかった。

【8. 費用や経済的負担への懸念】

回答内容
お金がかかるかと思っているから。

【9. その他】

回答内容
心が弱っているから、頭が痛い。
視野が狭いので、混んでいる電車の中で肩に携帯電話を置かれるので苦手です。冷房の中にいると首が、特に夏は怖いです。
相続など判らない。
生活サポートセンターを利用したが、体調不良に加え、制度申請に必要な診断書等の取得費用の負担が大きく、支援制度の利用や申請が困難であった。さらに、他の相談窓口でも十分な支援につながらなかった。
離婚後も元配偶者との関係で経済的被害や不安を抱えており、行政機関等に相談しているが十分な解決に至っていない。
よくわからないから。

問24-1で「自分の求めている支援がないから」と回答した方

問 24-3 どのような支援があれば、利用したいと思いますか。(自由記述)

【1. 生活困窮者自立支援事業(生活サポートセンター)】

回答内容
そもそも、どのような支援を受けられるのかがわからないので、総合的な生活改善に必要な支援が欲しい。
視覚障害、精神障害で生活や就労困難である人に対する具体的なサポート、相談って話聞いて終わりが多い感じがします。

【2. 住まい支援(家賃助成・公営住宅等)】

回答内容
配偶者からのモラハラで、家を出たい。飼い犬と住める家を紹介して欲しいが、ペット迄のケアは無いと見受けられる。
公営住宅の入居条件を緩和してほしいです。

【3. 就職のための支援】

回答内容
民間の短期バイトは、どこが信用できるかわからない。登録しやすい短期バイト等があると、ありがたい。
専門分野、学術関係の就職先も相談できるのか知らないから。
事故による身体的な制約があり就労に困難を抱えているものの、障害者雇用制度の対象とならず、就職活動に苦労している。障害認定に至らない人に対する再就職支援や、企業が雇用しやすくなる支援制度を充実してほしい。
就業支援は基本的にフルタイムを対象としているが、週3日以内の時短の仕事等にも対応していただけたらと思います。

【4. 教育訓練給付・資格取得支援】

回答内容
教育訓練給付・資格取得支援は(ハローワーク等)基本的なものばかりで、就業に結びつかない。高度デジタルのリスキリングは雇用保険加入期間が2年以上と条件があり、非正規雇用では受講の為に給付金の対象外になってしまう。このような支援がハローワークでも受講出来るようになれば、正社員の再就職のハードルが下がるのではないのでしょうか。
学び直しの支援(就労ブランク等)、介護職への再就職を考えていますが座学以外の介護技術等、実技の学び直しを提供する支援がとても少ない。利用したい。AIを使ったデジタルスキルアップ支援。

【5. 社会参加支援(ボランティア活動の紹介等)】

回答内容
高齢者が少ないスポーツや料理等の習い事教室。
同じ病気の人々と定期的に集まり、意見や体験を共有し合う場(グループワーク?)が欲しい。

【6. 債務整理の支援】

回答内容
コロナ時の借金をなかったことにしてもらえたら。

【7. 医療関係】

回答内容
医療相談で、専門横断的な入口になる窓口。悪いところが一、二か所なら、その専門科のお医者さんを2, 3訪ねれば、治療の糸口は見つかると思いますが、悪いところが増えてしまいすでに体調がかなり悪いために、どこからどのように相談すればいいのかわからなくなっております。青年期に近所の内科医にかかりましたが、セカンドオピニオンにも積極的でなかったために、治療できない部分がどんどん積み重なってしまい現在に至っています。
難病で鍼灸治療を受けたいのに実費になるのをどうにかして欲しい。高齢者ばかり優遇されていると感じる。

【8. 資金援助関係】

回答内容
資金的な支援。
個人事業主への安定の為の支援。
心を休める旅費援助支援(帰省援助支援など)
学習塾代援助支援、中学高校入学費用援助支援
状況無条件でのベーシックインカム給付金を希望します。
フリーランスでWEBサービス事業をしているがAIをローカルで構築したいときに高額なPCが必要になる。その買い替えをしたくても設備費がすぐには用意できないので困ってます。補助金、助成金の仕組みがあるのは知っているが申請に手間がかかるのと、認可が下りるかどうか分からないしそもそも半年ほど時間がかかるのでタイミングが合わない。それほど高額でない(10~20万円程度)であれば1, 2日でなんとかしてほしい。
資産運用についてのアドバイス

【9. 生活支援】

回答内容
一人親なので、私自身が体調を崩した時に、当日頼める、買い物や家事などしてくれるサービスが欲しい。
ボランティアで家政婦のような仕事をしてくれる人

【10. 相談支援】

回答内容
配偶者と死別し、相談相手がなくなったため孤立を感じている。子育て世帯だけでなく、突然一人になった人が気軽に相談できる場や支援体制を充実してほしい。
何でも相談のような形であれば利用したいです。
グレーゾーンの子どもに与える選択肢を教えてくれるような支援。相談できる支援。学校に無理やり馴染ませるようなものではなく、それぞれの個性を伸ばすヒントになるような相談。
法律相談
家族関係問題を総合的に扱える相談場所
就職氷河期世代に対する個別の支援や面談

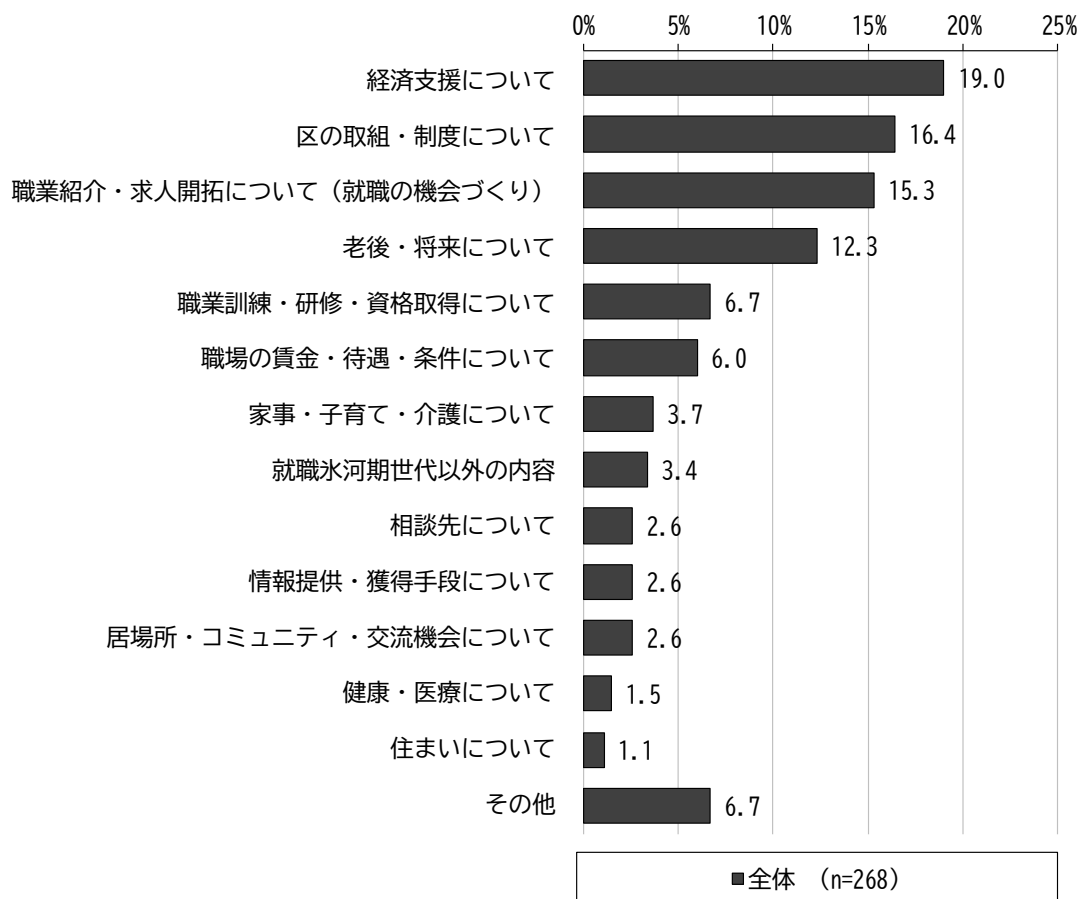
【11. その他】

回答内容
社会との関わりに強い心理的ハードルを感じており、支援制度やアウトリーチ事業についても利用につながる見通しを持ってない。支援を必要としながらも支援の利用に消極的な人への関わり方について検討してほしい。
障害者が居る家庭の支援

問 25 その他、就職氷河期世代への支援に関してご意見・ご要望等ございましたら、ご記入ください。(自由記述)

自由記述では、「経済支援について」、「区の実組・制度について」、「職業紹介・求人開拓について(就職の機会づくり)」、「老後・将来について」の意見が多くみられました。

【自由記述の割合】



【経済支援について】

○意見の概要

物価高騰や収入の伸び悩みなどにより、現在の生活や将来の家計に不安を感じているとの意見が多くみられました。特に、給付金や減税などの直接的な経済支援のほか、住宅費や教育費等の負担軽減を求める声が寄せられました。また、就職氷河期世代が抱える就労・経済面の不利益を踏まえ、継続的かつ実効性のある支援を求める意見がみられました。

○代表的な意見

- ・現金給付や生活費への支援を充実してほしい。
- ・物価高騰に対応した経済支援や減税を実施してほしい。
- ・家賃補助や教育費支援など、生活に直結する支援を拡充してほしい。
- ・所得制限を緩和し、必要な人が支援を受けられる制度にしてほしい。
- ・就職氷河期世代への継続的な経済支援や生活保障を充実してほしい。

【 区 の 取 組 ・ 制 度 に つ い て 】

○意見の概要

区 の 取 組 や 制 度 に 関 す る 意 見 で は 、 就 職 氷 河 期 世 代 へ の 支 援 に つ い て 「 支 援 の 開 始 が 遅 い 」 と す る 声 や 、 行 政 施 策 に 対 す る 期 待 の 低 さ を 示 す 意 見 が み ら れ ま し た 。 一 方 で 、 支 援 の 必 要 性 を 認 め つ つ 、 実 効 性 の あ る 具 体 的 な 支 援 や 、 本 当 に 支 援 を 必 要 と す る 人 へ 確 実 に 届 く 制 度 設 計 を 求 め る 意 見 が 多 く み ら れ ま し た 。 ま た 、 就 労 支 援 だ け で な く 、 老 後 不 安 や 単 身 高 齢 化 へ の 備 え 、 福 祉 の 充 実 、 情 報 発 信 の 強 化 な ど 、 ラ イ フ ス テ ー ジ に 応 じ た 継 続 的 な 支 援 を 求 め る 声 も 寄 せ ら れ ま し た 。

○代表的な意見

- ・表面的な支援ではなく、実効性のある具体的な支援を行ってほしい。
- ・就職氷河期世代への支援は遅すぎると感じるが、今後も継続して取り組んでほしい。
- ・支援は一律ではなく、本当に困っている人に重点的に届けてほしい。
- ・困難を抱える人や社会的に孤立しやすい人に寄り添った支援を進めてほしい。

【 職 業 紹 介 ・ 求 人 開 拓 に つ い て (就 職 の 機 会 づ く り) 】

○意見の概要

年 齢 や 就 業 ブ ラ ン ク 等 を 理 由 に 就 職 や 転 職 が 難 し い と の 意 見 が 多 く み ら れ ま し た 。 特 に 、 正 規 雇 用 の 機 会 拡 大 や 年 齢 に 左 右 さ れ な い 採 用 、 非 正 規 雇 用 か ら 正 規 雇 用 へ の 移 行 支 援 を 求 め る 声 が 多 く 寄 せ ら れ ま し た 。 ま た 、 子 育 て や 介 護 等 に よ り 離 職 し た 人 の 再 就 職 支 援 、 行 政 に よ る 職 業 紹 介 や 求 人 開 拓 の 充 実 を 望 む 意 見 も み ら れ ま し た 。

○代表的な意見

- ・正規雇用の求人を増やし、安定して働ける環境を整えてほしい。
- ・年齢だけで判断せず、経験や能力を評価した採用を進めてほしい。
- ・中高年層や就職氷河期世代の就労機会を拡大してほしい。
- ・子育てや介護等で離職した人が再就職しやすい環境を整えてほしい。
- ・ハローワークや行政による職業紹介、求人開拓を充実してほしい。
- ・時間や場所にとらわれない柔軟な働き方ができる就労機会を増やしてほしい。

【 老 後 ・ 将 来 に つ い て 】

○意見の概要

老 後 の 生 活 や 将 来 設 計 に 対 す る 不 安 に 関 す る 意 見 が 多 く み ら れ ま し た 。 特 に 、 年 金 制 度 や 社 会 保 障 へ の 不 安 、 十 分 な 老 後 資 金 を 確 保 で き な い こ と へ の 懸 念 が み ら れ ま し た 。 ま た 、 親 の 介 護 や 子 ど も の 将 来 な ど 家 族 に 関 す る 課 題 を 抱 え る 人 も 多 く 、 安 心 し て 老 後 を 迎 え ら れ る よ う 、 福 祉 や 生 活 支 援 の 充 実 を 望 む 意 見 も み ら れ ま し た 。

○代表的な意見

- ・年金制度の将来や老後の生活資金に不安を感じている。
- ・親の介護や子どもの将来など、家族に関する負担や不安が大きい。
- ・就職氷河期世代として十分な資産形成ができず、老後への備えが難しい。
- ・年金制度や福祉政策を見直し、将来への不安を軽減してほしい。

【その他のカテゴリーについて】

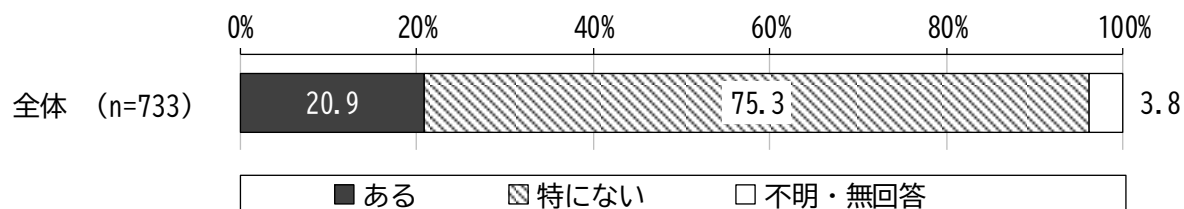
学び直しや資格取得支援、賃金・待遇の改善、子育て・介護と就労の両立支援を求める意見がみられました。また、相談支援や制度周知の充実、健康面や住まいに関する不安への対応、地域とのつながりや居場所づくりを求める声も寄せられました。就職氷河期世代が抱える課題は多岐にわたることから、就労・生活・社会参加等、様々な面での支援の充実が求められています。

6. 相談に関すること

問 26 現在、区に相談したいことはありますか。(○は1つ)

○回答者が現在、区に相談したいことはあるかは、「ある」が 20.9%、「特にない」が 75.3%となっている。

【全体】

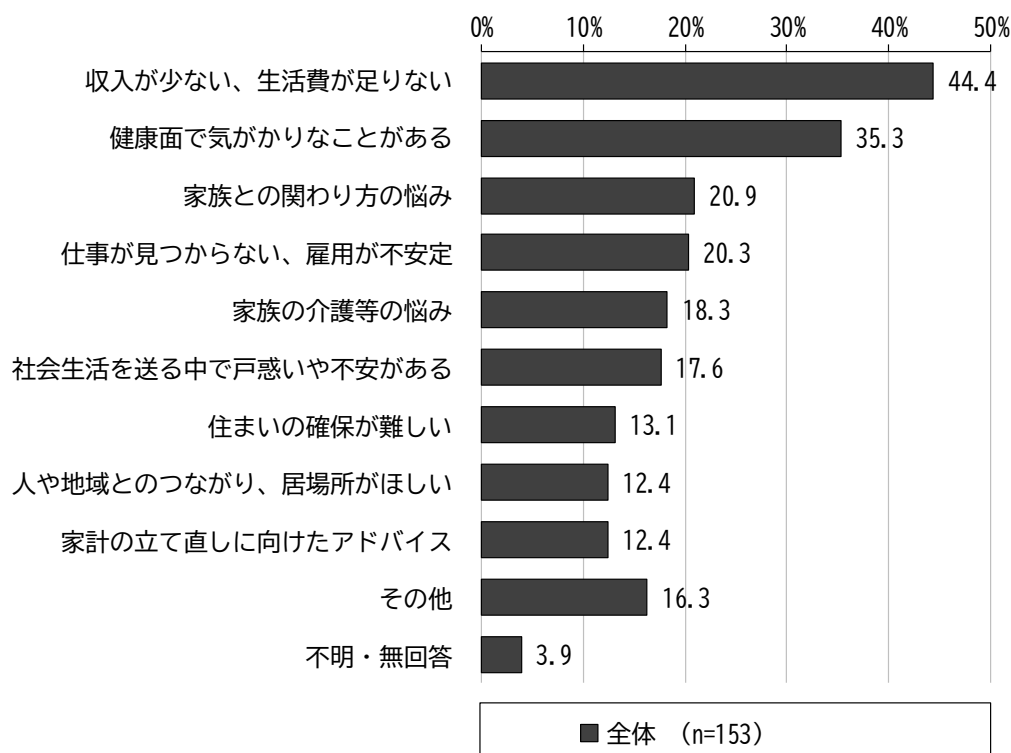


問26で「ある」と回答した方

問 26-1 相談したい内容に当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

○回答者が相談したい内容は、「収入が少ない、生活費が足りない」が最も多く 44.4%、次いで「健康面で気がかりなことがある」が 35.3%、「家族との関わり方の悩み」が 20.9%と続いている。

【全体】



7. クロス集計

(1)世帯の基本情報に関すること

◆問3 最終学歴を教えてください。×問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に最終学歴をみると、すべての項目で「大学」が最も多くなっている。

○[家事専業・学生]では「短期大学」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

%		問3 最終学歴を教えてください。										
		合計	中学校(高校未入学)	中学校(高校中退)	高校(大学等未入学)	高校(大学等中退)	専門学校	短期大学	大学	大学院	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	1.1	3.5	14.3	6.3	17.6	13.8	37.9	4.2	0.7	0.5
	正規の従業員	50	2.0	4.0	16.0	2.0	24.0	4.0	46.0	-	-	2.0
	不本意非正規雇用労働者	40	-	5.0	7.5	15.0	15.0	10.0	37.5	10.0	-	-
	不本意でない非正規雇用労働者	300	1.3	2.3	16.7	5.3	15.3	18.3	36.0	3.3	1.0	0.3
	その他の就業者	143	-	2.1	9.1	6.3	24.5	11.2	42.0	3.5	0.7	0.7
	家事専業・学生	63	-	-	4.8	3.2	12.7	23.8	47.6	7.9	-	-
	無業者	123	2.4	8.9	20.3	7.3	16.3	6.5	31.7	5.7	0.8	-
	不明・無回答	14	-	7.1	21.4	21.4	14.3	7.1	21.4	-	-	7.1

◆問4 あなたのお住まいの形態は次のどれにあたりますか。×問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に居住形態をみると、[正規の従業員]と[その他の就業者]で「民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)」、それ以外の項目で「親族名義の持家」がそれぞれ最も多くなっている。

○[正規の従業員]では「民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)」、[家事専業・学生]では「親族名義の持家」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

%		問4 あなたのお住まいの形態は次のどれにあたりますか。最も近いものを1つ選んでください。								
		合計	自己名義の持家(共有を含む)	親族名義の持家	民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)	公的賃貸住宅(都営・区営住宅など)	居住支援・福祉系の住まい(グループホーム、支援付き住宅など)	ネットカフェ等での滞在	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	20.2	40.5	28.9	6.5	1.1	-	2.0	0.7
	正規の従業員	50	30.0	14.0	40.0	6.0	-	-	8.0	2.0
	不本意非正規雇用労働者	40	10.0	47.5	32.5	5.0	2.5	-	2.5	-
	不本意でない非正規雇用労働者	300	20.3	45.7	24.0	6.7	1.0	-	1.7	0.7
	その他の就業者	143	27.3	30.1	36.4	3.5	0.7	-	1.4	0.7
	家事専業・学生	63	15.9	58.7	22.2	3.2	-	-	-	-
	無業者	123	14.6	38.2	30.1	12.2	2.4	-	2.4	-
	不明・無回答	14	7.1	50.0	28.6	7.1	-	-	-	7.1

◆問5 あなたと同じ住居で生活している方は何人ですか。あなた以外の人数を教えてください。×

問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に同居人数をみると、[正規の従業員]と[不本意非正規雇用労働者]で「2人」、[不本意でない非正規雇用労働者]、[その他の就業者]と[家事専業・学生]で「3人」、[無業者]で「1人」がそれぞれ最も多くなっている。

○[不本意非正規雇用労働者]では「1人」、[家事専業・学生]では「2人」と「3人」、[無業者]では「0人（同居者はいない）」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

%		問5 あなたと同じ住居で生活している方は何人ですか。あなた以外の人数を教えてください。												
		合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	0人(同居者はいない)	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	20.3	25.1	28.8	10.9	3.1	1.2	0.1	0.3	-	0.3	9.3	0.5
	正規の従業員	50	20.0	26.0	20.0	18.0	6.0	-	-	-	-	-	8.0	2.0
	不本意非正規雇用労働者	40	32.5	35.0	7.5	7.5	2.5	2.5	-	-	-	-	12.5	-
	不本意でない非正規雇用労働者	300	16.0	24.3	36.7	12.3	3.0	0.7	0.3	0.3	-	-	6.0	0.3
	その他の就業者	143	23.1	20.3	26.6	17.5	2.1	3.5	-	0.7	-	-	5.6	0.7
	家事専業・学生	63	9.5	38.1	41.3	4.8	4.8	1.6	-	-	-	-	-	-
	無業者	123	28.5	22.8	17.9	1.6	1.6	-	-	-	-	1.6	26.0	-
	不明・無回答	14	28.6	21.4	14.3	7.1	14.3	-	-	-	-	-	7.1	7.1

◆問5-1 現在、あなたと同居している方はどなたですか。当てはまるものすべてを選択してください。×

問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に同居者をみると、[正規の従業員]で「子ども」、[無業者]で「父・母(義父・義母を含む)」、それ以外の項目で「配偶者」それぞれ最も多くなっている。

○[不本意でない非正規雇用労働者]と[家事専業・学生]では「配偶者」と「子ども」、[その他の就業者]では「配偶者」、[無業者]では「父・母(義父・義母を含む)」と「兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

%		問5-1 現在、あなたと同居している方はどなたですか。当てはまるものすべてを選択してください。								
		合計	配偶者	子ども	父・母(義父・義母を含む)	兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む)	叔父・叔母(配偶者の叔父・叔母を含む)	友人・知人	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	661	70.0	63.2	22.7	4.2	0.3	0.8	2.0	4.4
	正規の従業員	45	68.9	71.1	17.8	4.4	-	-	2.2	6.7
	不本意非正規雇用労働者	35	57.1	42.9	31.4	-	-	-	-	8.6
	不本意でない非正規雇用労働者	281	80.1	75.8	14.2	2.5	0.4	0.4	1.8	1.4
	その他の就業者	134	80.6	64.9	14.9	2.2	0.7	1.5	1.5	6.0
	家事専業・学生	63	90.5	84.1	9.5	-	-	-	-	1.6
	無業者	91	20.9	15.4	63.7	17.6	-	2.2	5.5	7.7
	不明・無回答	12	25.0	33.3	58.3	-	-	-	-	25.0

(2)就業に関すること

◆問 7 あなたが学校を卒業(または中退)した後、初めて就いた仕事の就業形態を教えてください。

× 問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に学校を卒業(または中退)した後に初めて就いた仕事の就業形態をみると、すべての項目で「(雇われている人のうち)正規の職員・従業員」が最も多くなっている。

○[不本意非正規雇用労働者]では「(雇われている人のうち)パート、アルバイト」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

		問7 あなたが学校を卒業(または中退)した後、初めて就いた仕事の就業形態を教えてください。									
%		合計	(雇われている人のうち)正規の職員・従業員	(雇われている人のうち)パート、アルバイト	(雇われている人のうち)派遣社員	(雇われている人のうち)契約社員	(雇われている人のうち)嘱託、その他	会社・団体等の役員・経営者	自営業主、自営業の手伝い、内職	今まで就業したことはない(専業主婦・主夫、その他の無業)	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	61.8	23.5	2.3	4.6	1.5	0.1	3.0	1.2	1.9
	正規の従業員	50	62.0	22.0	6.0	4.0	2.0	-	2.0	-	2.0
	不本意非正規雇用労働者	40	45.0	37.5	2.5	10.0	-	-	2.5	-	2.5
	不本意でない非正規雇用労働者	300	68.7	20.0	2.0	4.7	0.7	-	2.0	-	2.0
	その他の就業者	143	60.8	23.1	0.7	4.2	2.1	0.7	7.0	-	1.4
	家事専業・学生	63	69.8	19.0	1.6	7.9	-	-	-	1.6	-
	無業者	123	49.6	31.7	4.1	2.4	3.3	-	2.4	4.9	1.6
	不明・無回答	14	42.9	14.3	-	-	7.1	-	7.1	14.3	14.3

◆問 7-1 学校卒業(もしくは中退)後から現在までに正規の職員・従業員を経験しましたか。× 問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に学校を卒業(または中退)した後から現在までの正規の職員・従業員を経験状況をみると、[無業者]で「正規の職員・従業員を経験がある」、それ以外の項目で「正規の職員・従業員を経験はない」がそれぞれ最も多くなっている。

○[無業者]では「正規の職員・従業員を経験がある」が全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

		問7-1 学校卒業(もしくは中退)後から現在までに正規の職員・従業員を経験しましたか。			
%		合計	正規の職員・従業員を経験はない	正規の職員・従業員を経験がある	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	235	50.6	42.6	6.8
	正規の従業員	-	-	-	-
	不本意非正規雇用労働者	21	57.1	42.9	-
	不本意でない非正規雇用労働者	88	50.0	38.6	11.4
	その他の就業者	54	55.6	37.0	7.4
	家事専業・学生	18	55.6	38.9	5.6
	無業者	54	42.6	55.6	1.9
	不明・無回答	-	-	-	-

◆問 8 今後、就職または転職を考えていますか。最も近いものを1つ選んでください。× 問6 現在の就業状況

- 現在の就業状況別に今後の転職希望をみると、[不本意非正規雇用労働者]で「現在、転職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている」と「将来的に就職または転職を考えている」、[家事専業・学生]と「無業者」で「将来的に就職または転職を考えている」、それ以外の項目で「就職または転職を考えていない」がそれぞれ最も多くなっている。
- [不本意非正規雇用労働者]では「現在、転職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている」と「将来的に就職または転職を考えている」、[その他の就業者]では「就職または転職を考えていない」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問8 今後、就職または転職を考えていますか。最も近いものを1つ選んでください。						
		合計	現在、求職活動(就職または転職のための活動)をしている	現在、求職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている	将来的に就職または転職を考えている	就職または転職を考えていない	わからない	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	7.0	10.5	20.6	38.9	21.0	2.0
	正規の従業員	50	4.0	14.0	20.0	46.0	14.0	2.0
	不本意非正規雇用労働者	40	12.5	32.5	32.5	10.0	10.0	2.5
	不本意でない非正規雇用労働者	300	4.7	9.7	20.0	41.0	22.7	2.0
	その他の就業者	143	1.4	6.3	11.9	61.5	17.5	1.4
	家事専業・学生	63	11.1	9.5	30.2	25.4	23.8	-
	無業者	123	16.3	10.6	26.0	20.3	25.2	1.6
	不明・無回答	14	7.1	-	-	42.9	28.6	21.4

◆問 8-3 今後の働き方について希望することを教えてください。× 問6 現在の就業状況

- 現在の就業状況別に今後の働き方について希望することをみると、[正規の従業員]で「安定して働きたい」と「より高収入を目指したい」、[家事専業・学生]で「非正規でも柔軟に働きたい」、それ以外の項目で「安定して働きたい」がそれぞれ最も多くなっている。
- [正規の従業員]では「より高収入を目指したい」と「フリーランス・自営業を目指したい」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [不本意非正規雇用労働者]では「安定して働きたい」、「より高収入を目指したい」、「テレワーク・ハイブリッド勤務を希望する」と「体調や障害に配慮された働き方をしたい」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [家事専業・学生]では「非正規でも柔軟に働きたい」、「短時間勤務・時短を希望する」と「介護や育児と両立できる働き方をしたい」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [無業者]では「体調や障害に配慮された働き方をしたい」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問8-3 今後の働き方について希望することを教えてください。											
		合計	安定して働きたい	より高収入を目指したい	非正規でも柔軟に働きたい	フリーランス・自営業を目指したい	テレワーク・ハイブリッド勤務を希望する	短時間勤務・時短を希望する	地域・社会貢献性の高い仕事をしたい	介護や育児と両立できる働き方をしたい	体調や障害に配慮された働き方をしたい	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	279	61.6	40.5	29.7	12.9	14.3	29.7	16.1	27.6	30.1	3.2	0.7
	正規の従業員	19	57.9	57.9	15.8	31.6	10.5	21.1	10.5	31.6	10.5	5.3	-
	不本意非正規雇用労働者	31	87.1	61.3	35.5	9.7	29.0	35.5	25.8	25.8	48.4	-	-
	不本意でない非正規雇用労働者	103	63.1	45.6	29.1	12.6	11.7	27.2	19.4	32.0	24.3	1.0	-
	その他の就業者	28	57.1	46.4	28.6	14.3	10.7	14.3	10.7	32.1	28.6	7.1	-
	家事専業・学生	32	40.6	15.6	53.1	3.1	6.3	43.8	12.5	50.0	15.6	3.1	-
	無業者	65	61.5	27.7	21.5	13.8	18.5	33.8	10.8	7.7	44.6	6.2	3.1
	不明・無回答	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-

(3) 困りごとや不安に関すること

◆問 22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。× 問6 現在の就業状況

- 現在の就業状況別に困っている内容をみると、[家事専業・学生]で「周囲との社会経験の差」、[無業者]で「健康上の問題(身体)」と「メンタルヘルスの不調」、それ以外の項目で「収入が少ない、生活費が足りない」がそれぞれ最も多くなっている。
- [不本意非正規雇用労働者]では「仕事が見つからない、雇用が不安定」、「収入が少ない、生活費が足りない」、「家族の介護や育児の負担」と「資格取得や学び直しの費用・時間」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [その他の就業者]では「収入が少ない、生活費が足りない」、[家事専業・学生]では「周囲との社会経験の差」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [無業者]では「仕事が見つからない、雇用が不安定」、「健康上の問題(身体)」、「メンタルヘルスの不調」、「人間関係や孤立感」と「周囲との社会経験の差」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。												
		合計	仕事が見つからない、雇用が不安定	収入が少ない、生活費が足りない	健康上の問題(身体)	メンタルヘルスの不調	住まいの確保が難しい	家族の介護や育児の負担	人間関係や孤立感	周囲との社会経験の差	借金や家計管理の問題	資格取得や学び直しの費用・時間	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	429	20.7	59.2	39.2	35.2	8.9	23.1	23.3	20.5	18.9	20.5	9.3	0.5
	正規の従業員	34	5.9	58.8	32.4	41.2	2.9	29.4	26.5	14.7	26.5	17.6	-	-
	不本意非正規雇用労働者	34	58.8	76.5	44.1	35.3	11.8	38.2	32.4	29.4	17.6	32.4	5.9	-
	不本意でない非正規雇用労働者	150	9.3	54.7	32.0	27.3	8.0	26.0	12.7	12.7	17.3	23.3	13.3	-
	その他の就業者	89	10.1	75.3	31.5	22.5	9.0	21.3	19.1	11.2	23.6	15.7	9.0	1.1
	家事専業・学生	27	25.9	18.5	29.6	25.9	7.4	22.2	29.6	33.3	7.4	14.8	11.1	3.7
	無業者	88	40.9	58.0	62.5	62.5	12.5	12.5	39.8	38.6	15.9	20.5	8.0	-
	不明・無回答	7	14.3	42.9	42.9	28.6	-	14.3	14.3	14.3	42.9	-	-	-

◆問 22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。× 問6 現在の就業状況

- 現在の就業状況別に困りごとを解決するために必要な支援をみると、[家事専業・学生]で「仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど)」、[その他の就業者]と[無業者]で「生活支援(給付金・家計相談)」、それ以外の項目で「賃金改善・待遇改善」がそれぞれ最も多くなっている。
- [正規の従業員]では「賃金改善・待遇改善」、[不本意非正規雇用労働者]では「就労支援(職業紹介・訓練)」、「賃金改善・待遇改善」と「仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど)」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [その他の就業者]では「生活支援(給付金・家計相談)」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。
- [無業者]では「就労支援(職業紹介・訓練)」、「生活支援(給付金・家計相談)」と「メンタルヘルス相談」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

		問22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。												
%		合計	就労支援 (職業紹介・訓練)	賃金改善・ 待遇改善	生活支援 (給付金・ 家計相談)	住居支援	メンタルヘルス 相談	介護・育児 支援	仕事のため の学び直し 支援 (資格取得・ スキルアップ など)	社会生活 に役立つ マナー講座 (冠婚葬 祭・テーブル マナーなど)	債務整理・ 金融相談	地域の居 場所・交流 の場	その他	不明・無回 答
問 6 現 在 の 就 業 状 況	全体	429	23.5	40.8	46.2	17.5	23.8	18.4	29.4	4.7	9.1	12.6	10.7	5.6
	正規の従業員	34	14.7	64.7	47.1	23.5	29.4	20.6	29.4	-	5.9	5.9	5.9	2.9
	不本意非正規雇用労働者	34	41.2	61.8	41.2	17.6	23.5	8.8	47.1	2.9	5.9	11.8	2.9	5.9
	不本意でない非正規雇用労働者	150	15.3	48.0	38.7	16.0	18.0	21.3	32.0	4.0	9.3	10.0	11.3	4.7
	その他の就業者	89	11.2	30.3	57.3	18.0	10.1	23.6	15.7	3.4	7.9	12.4	10.1	5.6
	家事専業・学生	27	25.9	22.2	25.9	7.4	18.5	18.5	33.3	3.7	-	14.8	11.1	11.1
	無業者	88	46.6	30.7	56.8	21.6	45.5	11.4	31.8	9.1	14.8	19.3	15.9	5.7
	不明・無回答	7	14.3	-	28.6	-	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	-	14.3

◆問 22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。× 問9 世帯年収3区分

○世帯収入別に困っている内容をみると、すべての項目で「収入が少ない、生活費が足りない」が最も多くなっている。

○[700 万円以上]では「家族の介護や育児の負担」と「資格取得や学び直しの費用・時間」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。												
		合計	仕事が見つからない、雇用が不安定	収入が少ない、生活費が足りない	健康上の問題(身体)	メンタルヘルスの不調	住まいの確保が難しい	家族の介護や育児の負担	人間関係や孤立感	周囲との社会経験の差	借金や家計管理の問題	資格取得や学び直しの費用・時間	その他	不明・無回答
問9 世帯収入(3区分)	全体	429	20.7	59.2	39.2	35.2	8.9	23.1	23.3	20.5	18.9	20.5	9.3	0.5
	300万円未満	134	29.9	65.7	48.5	43.3	12.7	14.9	25.4	27.6	25.4	19.4	9.0	-
	300万円以上700万円未満	130	13.1	66.9	36.2	33.1	6.9	25.4	22.3	17.7	21.5	18.5	6.2	-
	700万円以上	76	11.8	52.6	26.3	19.7	7.9	35.5	17.1	15.8	14.5	32.9	7.9	1.3
	わからない・答えたくない	86	25.6	44.2	40.7	39.5	7.0	22.1	26.7	18.6	8.1	15.1	16.3	1.2
	不明・無回答	3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-

◆問 22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。× 問9 世帯年収3区分

○世帯収入別に困りごとを解決するために必要な支援をみると、[700 万円以上]で「貸金改善・待遇改善」、それ以外の項目で「生活資金(給付金・家計相談)」がそれぞれ最も多くなっている。

○[300 万円未満]では「生活資金(給付金・家計相談)」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。												
		合計	就労支援 (職業紹介・ 訓練)	貸金改善・ 待遇改善	生活支援 (給付金・家 計相談)	住居支援	メンタルヘル ス相談	介護・育児 支援	仕事のため の学び直し 支援(資格 取得・スキ ルアップな ど)	社会生活に 役立つマ ナー講座 (冠婚葬祭・ テーブルマ ナーなど)	債務整理・ 金融相談	地域の居場 所・交流の 場	その他	不明・無回 答
問9 世帯収入 (3区分)	全体	429	23.5	40.8	46.2	17.5	23.8	18.4	29.4	4.7	9.1	12.6	10.7	5.6
	300万円未満	134	29.1	43.3	64.2	25.4	28.4	13.4	33.6	6.0	14.2	16.4	7.5	2.2
	300万円以上 700万円未満	130	20.0	44.6	45.4	15.4	20.8	16.2	26.9	2.3	10.0	9.2	13.1	5.4
	700万円以上	76	17.1	44.7	19.7	14.5	10.5	27.6	32.9	3.9	-	11.8	6.6	10.5
	わからない・ 答えたくない	86	26.7	29.1	43.0	11.6	32.6	22.1	24.4	7.0	8.1	12.8	16.3	5.8
	不明・無回答	3	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-

◆問 23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。×

問9 世帯年収3区分

- 世帯収入別に不安を感じている内容をみると、すべての項目で「老後の生活資金」が最も多くなっている。
- [300 万円未満]では「健康状態の悪化」と「住まいの確保」、[300 万円以上 700 万円未満]では「収入の減少」、[700 万円以上]では「家族の介護や支援」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

		問23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。												
%		合計	老後の生活資金	健康状態の悪化	雇用の安定性	収入の減少	住まいの確保	家族の介護や支援	社会的孤立	周囲との社会経験の差	借金や家計管理	技術変化への対応(スキル不足)	その他	不明・無回答
問9 世帯収入(3区分)	全体	573	78.5	60.6	29.7	52.4	28.3	44.9	20.2	19.0	16.9	20.8	5.8	0.2
	300万円未満	150	78.0	71.3	34.7	56.7	39.3	32.7	26.7	24.0	20.7	23.3	4.7	0.7
	300万円以上 700万円未満	151	80.1	58.3	29.8	64.9	27.2	47.0	17.9	18.5	22.5	21.2	3.3	-
	700万円以上	144	77.8	48.6	19.4	41.7	20.1	58.3	11.8	12.5	11.1	18.8	3.5	-
	わからない・ 答えたくない	125	79.2	64.8	35.2	45.6	24.8	42.4	24.8	21.6	12.0	19.2	12.8	-
	不明・無回答	3	33.3	33.3	33.3	-	66.7	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-

◆問 23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。× 問9 世帯年収3区分

- 世帯収入別に将来の不安を軽減するために必要な支援をみると、[わからない・答えたくない]で「健康維持・予防医療支援」、それ以外の項目で「老後資金に関する情報・相談」がそれぞれ最も多くなっている。
- [700 万円以上]では「介護・家族支援サービス」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

		問23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。										
%		合計	老後資金に関する情報・相談	健康維持・予防医療支援	雇用安定のための制度	仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど)	社会生活に役立つマナー講座(冠婚葬祭・テーブルマナーなど)	住まい確保のための制度	介護・家族支援サービス	孤立防止のための交流機会	その他	不明・無回答
問9 世帯収入(3区分)	全体	573	51.0	45.7	37.0	33.7	5.8	30.7	42.2	17.1	7.7	2.3
	300万円未満	150	52.7	50.0	39.3	36.0	8.0	39.3	28.0	23.3	10.0	4.0
	300万円以上 700万円未満	151	47.7	42.4	41.1	33.1	3.3	31.1	45.0	11.3	4.0	2.6
	700万円以上	144	54.9	37.5	29.2	32.6	3.5	20.1	52.8	14.6	5.6	0.7
	わからない・ 答えたくない	125	49.6	53.6	38.4	32.8	8.8	32.0	44.8	20.0	12.0	1.6
	不明・無回答	3	-	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-	-	-

◆問 23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。×

問 4 あなたのお住まいの形態は次のどれにあたりますか。最も近いものを1つ選んでください。

○居住形態別に不安を感じている内容をみると、[居住支援・福祉系の住まい]で「健康状態の悪化」、それ以外の項目で「老後の生活資金」がそれぞれ最も多くなっている。

○[親族名義の持家]では「家族の介護や支援」、[民間賃貸住宅]と[公的賃貸住宅]では「住まいの確保」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。												
		合計	老後の生活資金	健康状態の悪化	雇用の安定性	収入の減少	住まいの確保	家族の介護や支援	社会的孤立	周囲との社会経験の差	借金や家計管理	技術変化への対応(スキル不足)	その他	不明・無回答
問 4 居住形態	全体	573	78.5	60.6	29.7	52.4	28.3	44.9	20.2	19.0	16.9	20.8	5.8	0.2
	自己名義の持家(共有を含む)	98	74.5	49.0	25.5	45.9	6.1	36.7	19.4	8.2	12.2	18.4	5.1	-
	親族名義の持家	222	79.7	59.0	27.5	49.5	16.2	56.8	17.6	17.6	15.3	21.6	8.6	-
	民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)	194	79.9	66.5	36.1	57.7	50.5	38.7	23.2	26.3	19.6	19.6	3.6	-
	公的賃貸住宅(都営・区営住宅など)	39	84.6	69.2	28.2	59.0	38.5	38.5	23.1	17.9	25.6	20.5	2.6	-
	居住支援・福祉系の住まい(グループホーム、支援付き住宅など)	6	33.3	66.7	16.7	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	16.7	33.3	16.7	-
	ネットカフェ等での滞在	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	11	63.6	54.5	9.1	45.5	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	-	9.1
	不明・無回答	3	100.0	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3	66.7	-	-

◆問 23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。× 問 4 あなたの住まいの形態は次のどれにあたりますか。最も近いものを1つ選んでください。

- 居住形態別に将来の不安を軽減するために必要な支援をみると、[親族名義の持家]で「介護・家族支援サービス」、[民間賃貸住宅]と[居住支援・福祉系の住まい]で「住まい確保のための制度」、[その他]で「健康維持・予防医療支援」、[自己名義の持家]と[公的賃貸住宅]で「老後資金に関する情報・相談」がそれぞれ最も多くなっている。
- [親族名義の持家]では「介護・家族支援サービス」、[民間賃貸住宅]では「住まいの確保のための制度」、[公的賃貸住宅]では「老後資金に関する情報・相談」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

		問23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。										
%		合計	老後資金に関する情報・相談	健康維持・予防医療支援	雇用安定のための制度	仕事のための学び直し支援（資格取得・スキルアップなど）	社会生活に役立つマナー講座（冠婚葬祭・テーブルマナーなど）	住まい確保のための制度	介護・家族支援サービス	孤立防止のための交流機会	その他	不明・無回答
問 4 居住形態	全体	573	51.0	45.7	37.0	33.7	5.8	30.7	42.2	17.1	7.7	2.3
	自己名義の持家(共有を含む)	98	50.0	41.8	28.6	26.5	4.1	7.1	38.8	17.3	14.3	-
	親族名義の持家	222	50.5	44.6	40.5	35.6	5.0	18.9	52.7	14.9	5.9	1.8
	民間賃貸住宅(シェアハウスを含む)	194	50.5	47.4	36.1	33.0	7.2	52.6	32.5	20.1	6.7	3.1
	公的賃貸住宅(都営・区営住宅など)	39	66.7	48.7	46.2	41.0	2.6	35.9	41.0	7.7	5.1	2.6
	居住支援・福祉系の住まい(グループホーム、支援付き住宅など)	6	50.0	83.3	50.0	66.7	50.0	100.0	66.7	66.7	16.7	-
	ネットカフェ等での滞在	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	11	27.3	54.5	27.3	18.2	-	36.4	18.2	18.2	9.1	9.1
	不明・無回答	3	33.3	-	-	66.7	-	33.3	66.7	-	-	33.3

(4)生活に関すること

◆問 17 現在、趣味・余暇活動、ボランティア活動等の社会参加や、それらを通じた友人・仕事仲間等との交流(SNSでの交流を含む)はありますか。× 問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に社会参加・交流の有無をみると、[無業者]で「ない」、それ以外の項目で「ある」がそれぞれ多くなっている。

○[無業者]では「ない」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問17 現在、趣味・余暇活動、ボランティア活動等の社会参加や、それらを通じた友人・仕事仲間等との交流(SNSでの交流を含む)はありますか。			
		合計	ある	ない	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	733	55.9	43.2	0.8
	正規の従業員	50	56.0	44.0	-
	不本意非正規雇用労働者	40	55.0	45.0	-
	不本意でない非正規雇用労働者	300	64.0	35.3	0.7
	その他の就業者	143	58.0	41.3	0.7
	家事専業・学生	63	61.9	36.5	1.6
	無業者	123	32.5	66.7	0.8
	不明・無回答	14	42.9	50.0	7.1

◆問 18-1 どのような機会があれば、社会参加・交流を広げられると思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。× 問6 現在の就業状況

○現在の就業状況別に社会参加・交流を広げるための条件をみると、[正規の従業員]で「地域活動やボランティア活動とのマッチング」と「趣味・文化活動の体験イベント」、[不本意非正規雇用労働者]、[その他の就業者]と[家事専業・学生]で「趣味・文化活動の体験イベント」、[不本意でない非正規雇用労働者]と[無業者]で「似た境遇にある方とのコミュニケーションの場」がそれぞれ最も多くなっている。

○[不本意でない非正規雇用労働者]では「似た境遇にある方とのコミュニケーションの場」、[その他の就業者]では「地域活動やボランティア活動とのマッチング」、「趣味・文化活動の体験イベント」と「運動・スポーツの体験イベント」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問18-1 どのような機会があれば、社会参加・交流を広げられると思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。									
		合計	地域活動やボランティア活動とのマッチング	似た境遇にある方とのコミュニケーションの場	誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース	オンライン・バーチャルでの交流の場(メタバース居場所など)	趣味・文化活動の体験イベント	運動・スポーツの体験イベント	就労体験・職場見学の機会	その他	不明・無回答
問6 現在の就業状況	全体	116	25.0	44.8	29.3	14.7	44.0	24.1	22.4	19.0	2.6
	正規の従業員	3	66.7	-	-	-	66.7	33.3	33.3	-	-
	不本意非正規雇用労働者	8	25.0	50.0	25.0	37.5	87.5	37.5	12.5	12.5	-
	不本意でない非正規雇用労働者	26	15.4	61.5	26.9	7.7	38.5	26.9	19.2	23.1	-
	その他の就業者	24	50.0	37.5	25.0	16.7	54.2	37.5	8.3	16.7	-
	家事専業・学生	9	22.2	44.4	33.3	11.1	55.6	11.1	44.4	11.1	-
	無業者	44	15.9	40.9	34.1	11.4	29.5	13.6	29.5	22.7	6.8
	不明・無回答	2	-	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	-	-	-

(5)支援に関すること

◆問 24-1 公的支援を利用していない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

× 問 22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

○困っている内容別に公的支援を利用していない理由をみると、いずれの項目でも「対象要件を満たしていない(と思う)から」が最も多くなっている。

○「仕事が見つからない、雇用が不安定」と「周囲との社会経験の差」では「手続きが複雑で面倒そうだから」と「対象要件を満たしていない(と思う)から」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

○「住まいの確保が難しい」では「手続きが複雑で面倒そうだから」、「対象要件を満たしていない(と思う)から」、「自分の求めている支援がないから」と「どのような支援が受けられるのかわからないから」が全体と比較して 10 ポイント以上高くなっている。

%		問24-1 公的支援を利用していない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。										
		合計	どの支援も必要性を感じないから	どこが相談窓口なのか分からないから	相談窓口に行きづらいから	手続きが複雑で面倒そうだから	対象要件を満たしていない(と思う)から	過去に申請したが、利用できなかったから	自分の求めている支援がないから	どのような支援が受けられるのかわからないから	その他	不明・無回答
問 2 2 - 1 困 り こ と	全体	326	26.1	14.1	8.9	15.3	39.9	4.0	12.3	31.6	6.1	1.5
	仕事が見つからない、雇用が不安定	60	11.7	18.3	13.3	26.7	58.3	10.0	20.0	40.0	10.0	-
	収入が少ない、生活費が足りない	189	24.3	14.8	10.1	20.1	40.7	4.8	12.2	33.3	5.3	1.1
	健康上の問題(身体)	114	18.4	16.7	14.0	18.4	44.7	6.1	15.8	26.3	10.5	1.8
	メンタルヘルスの不調	95	17.9	23.2	13.7	20.0	38.9	6.3	15.8	33.7	12.6	2.1
	住まいの確保が難しい	26	11.5	19.2	15.4	38.5	65.4	7.7	23.1	50.0	7.7	-
	家族の介護や育児の負担	83	26.5	9.6	7.2	15.7	42.2	3.6	19.3	22.9	9.6	1.2
	人間関係や孤立感	65	23.1	18.5	16.9	21.5	43.1	7.7	21.5	33.8	9.2	-
	周囲との社会経験の差	55	21.8	16.4	10.9	25.5	52.7	1.8	21.8	30.9	9.1	-
	借金や家計管理の問題	55	20.0	16.4	12.7	23.6	45.5	7.3	18.2	32.7	10.9	-
	資格取得や学び直しの費用・時間	70	21.4	15.7	14.3	18.6	42.9	2.9	14.3	35.7	10.0	1.4
	その他	32	31.3	21.9	9.4	12.5	46.9	6.3	3.1	37.5	12.5	3.1
	不明・無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-

第5章 支援機関・当事者ヒアリング調査結果

1. 支援機関ヒアリング(区内支援機関)

(1)ヒアリング調査の目的

日頃から当事者や家族の相談・支援に取り組む区内の支援機関へヒアリングを行い、各機関が把握している課題や支援ニーズから必要な支援策を検討することを目的として実施しました。

(2)ヒアリング実施機関および聞き取り内容

実施機関	機関の概要
①あすはステーション	就労意欲の喚起に向けたセミナーやパソコン教室などの「就労準備支援」を行うとともに、長期間ひきこもり状態にある方などの社会参加のきっかけづくりとなるよう、「居場所支援」を行う施設です。 区内2か所に設置し、利用者が自由に過ごせ、利用者同士が交流できる場を提供しています。また、専門相談員が利用者や家族からの相談を受けるなど、長期的かつ継続的なサポートを実施しています。
②ねりま若者サポートステーション	15～49歳のひきこもりや自立に不安を抱える方やそのご家族を対象に、社会とのつながりを支援するための居場所を開設したり、就労に向けた一歩を踏み出せるよう包括的な支援を行う機関です。 専門相談員による個別面談をはじめ、コミュニケーションプログラムや就労準備セミナー、企業での就労体験など、段階に応じたメニューを提供しています。また、進路や就職に関する相談対応に加え、職場定着まで見据えた長期的・継続的なサポートを実施しています。
③ねりま不登校・ひきこもり・発達障害地域家族会「灯火」	生きづらさや不安を抱える当事者やそのご家族が、悩みを分かち合い、孤立を防ぎながら、情報交換や仲間づくりを行う、地域の家族会・当事者団体です。 ココネリ等の区内拠点を中心に、気持ちを言葉にして伝え合う「対話交流(ゆるゆるトーク)」や「親の会」、野外でのリフレッシュイベントなどを開催しています。当事者・家族双方の孤立を防ぎ、話すことを通じて心が軽くなるような温かいピアサポート(相互支援)を実施しています。
④光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ	障害のある方やそのご家族が地域で安心して自分らしい生活を送れるよう、相談支援や地域交流、各種プログラムを実施し、総合的な支援を行う機関です。 専門の相談員が日常生活の困りごとや権利擁護、サービス利用に関する相談に応じるほか、関係機関と連携しながら地域生活の定着や自立に向けた継続的なサポートを実施しています。

①あすはステーション

項目	内容
支援対象者数 (全体)	就労準備支援事業全体の利用者:約 300 人弱 就労サポーター全体の利用者 :約 800 人
就職氷河期世代の 対象者数	就労準備支援事業所 :280 人 就労サポーター :426 人
氷河期世代向け 支援の取組状況	・パソコンの訓練などパソコン操作に係るもの ・就労に関するセミナー ・内職作業・農業作業など野外活動 ・来所することを外出の機会として利用している人もいる。(年代というより個性が高い)
支援対象者の 特徴・課題	・転職回数が多く非正規雇用の人が多い。 ⇒転職回数が多い方はキャリアの蓄積ができていないので仕事が見つかりづらい。就職に不利。 ・キャリアプランの組み立てができていない人が多い。 ・転職理由はパワハラなどでのメンタル不調や世代的に正規職員への登用が難しかったと思われる。 ・時代背景として、働き方の変化-就職難に伴い本人の希望でない就職 ・終身雇用が保証されなくなった-派遣などの働き方の多様性から転職という発想がでてきた。 ・就労をある程度していた人はプライドがあり仕事を選ぶ傾向がある。
支援がうまく進んだ 事例・ポイント	・居場所支援を利用していた方が就職につながった。 ・就労支援を利用した方が就職につながり、経済的自立に至った事例があった。
自治体に期待される 役割	・採用から定着した際に雇用事業主への助成金があるとよい。 ・就職をする為の短期プログラム(企業研究など) ・仕事以外の課題を支援する横断的な支援(介護や子育てなど)

②ねりま若者サポートステーション

項目	内容
支援対象者数 (全体)	15 歳～49 歳で R6 年度実績367名。 20 代から 30 代前半がボリュームゾーン
就職氷河期世代の 対象者数	35 歳以上 84 名(22.9%) 40 代は少し減る程度。
氷河期世代向け 支援の取組状況	・氷河期世代向けというプログラムはない。(25 歳以下に限定したプログラムは一つあるが、それ以外は世代別の想定をしていない)
支援対象者の 特徴・課題	・何に困っているかを把握できていない人が多い。(アイデンティティの確立ができていない) ・社会や他者に対する信頼の基盤がないため、困っていると発信できない。 ・ひきこもり、うつ傾向がある人が多い。 ・最近 40 代の相談が増えてきている。無就労や社会とのつながりが薄い状態が長期間におよぶと次のステップに移ることが難しかったり、長期間の支援になることが多い。20 代は回復や次のステップに進めるスピードが比較的早い。
支援がうまく進んだ事例・ポイント	・体験→雇用とうまくいったモデルケース的なものはあるが就職できただけで、その後継続して幸せに暮らしているかは不明。支援が順調にいかないことが却って仲間同士のナチュラルサポートによる人間関係構築や関係機関との新たな連携を生むこともある。 ・就労につなぐ場合、受け入れ側の企業が人を育てることに理解があるかが重要。職場見学や職場体験の受け入れ、週 20 時間以下の短時間雇用から始める等、柔軟な受け入れや支援機関(送り出す側)との連携が基盤にあると良い。
自治体に期待される役割	・手帳がなくても利用できる就労移行のような(体験、実習、就労)仕組みがあると良い。(モデル:ダイバーシティ就労支援機構) ・シルバー人材センターでやっているような仕事を困窮等に関われる仕組み、区役所の中の仕事を切り出して障害者雇用だけでなく提供する、中小企業との連携強化等、多様な働く場の充実と働きたい人をマッチングする仕組みが必要。 ・社会や地域の課題解決につながる事業を生み出し、たとえ収入面では生計の維持を十分に保証できない場合であっても、社会参加や就労につながる機会を創出できると良い。(例;釧路の漁網修繕) ・子ども若者支援のグランドデザインが描かれていない。他自治体のように子ども若者支援育成協議会や総合相談窓口の設置が必要と思われる。(調布市、佐賀県等) ・個別支援と居場所機能を一体的に持った拠点がさらに増えると良い。
その他	・国が想定しているような非正規で何とか就労を継続してきた氷河期世代は支援される側になることが明確な窓口にはつながりづらい。ひきこもりや病気・障害等の課題があるとつながるきっかけは生まれる。その場合は個別支援が基盤となるため、年代別の支援を考える必要はないのではないか。 ・49 歳で利用終了となる人たちのその後は、ハローワークや障害者福祉サービスにつないでいるが、多くの人年齢上限を認識して自然と利用しなくなることが多い。

③ねりま不登校・ひきこもり・発達障害地域家族会「灯火」

項目	内容
支援対象者数 (全体)	本人 6 人、家族 10 名(特に関わり深いのは 3 名) 送付物のみ 200 名
就職氷河期世代の 対象者数	6 人
氷河期世代向け 支援の取組状況	・氷河期世代向けとした支援は特になし。定期的な学習会を実施。その世代の参加が多かったのは「親亡き後」のテーマ
支援対象者の 特徴・課題	・過去の成功体験の乏しさやトラウマ経験により、対人交流を回避する傾向が見られる。 ・障害以外の要因で就労が困難な場合、経済的支援が生活保護に限られている点に課題がある。 ・家族が抱える経済的・医療的課題に対し、本人が十分に応じない場合がある。 ・家族や支援者からの支援を十分に受けられていない、あるいはそのように本人が感じている状況がある。 ・就職期において、いわゆる「勝ち組・負け組」といった社会的な選別意識の影響を強く受けてきた傾向がある。
支援がうまく進んだ 事例・ポイント	・キーパーソンとなる家族の入院や急逝等の変化が、本人の行動変容の契機となった事例がある。 ・本人および家族が SST(ソーシャルスキルトレーニング)研修を受講することで、相互理解が深まり関係性が改善したとの報告がある。 ・支援者による戸別訪問の実施により、信頼関係の構築につながった事例が確認されている。
自治体に期待される 役割	・中間的就労や超短時間就労など、柔軟で制約の少ない就労機会の創出。 ・支援機関におけるピアサポーターの配置(雇用または報酬を伴う形)による、当事者に寄り添った伴走型支援の推進。 ・本人および家族を対象とした研修の充実(SST、傾聴技法等)。 ・参加しやすい居場所の整備および拡充。 ・区ホームページの構成改善(包括的な支援窓口を起点とし、その後に個別相談機関へ案内する導線の整備)。 ・居場所への参加に係る交通費支援や当事者活動に対する助成制度の整備。 ・支援者に対する傾聴スキル習得機会提供。 ・当事者を支えている家族、その家族を支えている家族会がある。行政が家族会の役割や機能を理解し、高齢化していく家族会を支える施策が必要。 ・ひきこもり支援に対する区のメッセージが感じられない。HP でも区の支援に対する全体像がわかるようにして欲しい。

④光が丘障害者地域生活支援センターすてっぷ

項目	内容
支援対象者数 (全体)	利用登録者数は 900 人程度。
就職氷河期世代の 対象者数	世代別で統計を取っていないため不明だが、世代的な偏りは少ない。
氷河期世代向け 支援の取組状況	・氷河期世代向けとした支援は特になし。世代を問わず、電話や来所相談などで 伴走支援を行っている。
支援対象者の 特徴・課題	・知的・身体障害のある方に加え、就職先が見つからないままひきこもり状態とな った方や、就労によって精神的に不調を来し、すてっぷの利用につながった方 も含まれる。精神障害のある方の多くは生活保護を受給している。 ・就職に関する成功体験が乏しいことから、「何をしてもうまくいかない」「社会に 裏切られた」といった諦めや無力感を抱く人が多い。 ・この世代に限らず、自責感が強い、あるいは他責的な思考から離職に至るケー スも見られ、その結果として経済的に不安定な状況に置かれることもある。 ・就労経験が積み重ならない一方で障害認定も受けていないため、既存の支援 機関につながりにくく、困難を抱えたまま孤立するケースもある。 一方、知的障害のある方については、幼少期から支援ルートが比較的明確であ ったことから、早期に支援につながりやすい。
支援がうまく進ん だ事例・ポイント	・精神的な不調や対人関係上の課題を抱える方に対して継続的な相談支援を実 施した。当初は不安定な状態が見られたが、定期的な相談を重ねる中で支援者 との信頼関係が構築され、自ら相談を求めることができるようになった。相談を 通じて気持ちの整理や意欲の回復が図られ、将来に向けた資格取得や就労等 に関する具体的な目標を持つなど、前向きな変化が見られている。 ・継続的な相談の受け止めと困ったときに自分のタイミングで立ち寄れる場所が あるということが重要。
自治体に期待され る役割	・障害者地域生活支援センターやあすはステーションのような個別支援と居場所 機能を一体的に運営する窓口がさらに増えると良い。それぞれの拠点の特徴も あるので、本人が合う場所を自分で選択できることが重要。 ・手帳の有無にかかわらず利用でき、アウトリーチ機能や電話相談にも対応した 相談窓口を整備することが望まれる。(あすはステーションの機能拡充含め) ・支援機関にピアサポーター(雇用もしくは何らかの報酬あり)を配置し、当事者 に寄り添った伴走支援を行うことが期待される。専門職とは異なる立場へ気持 ちを共有し共感を生む存在があると良い。

2. 支援機関ヒアリング(広域支援機関)

(1)ヒアリング調査の目的

就職氷河期世代の状況や課題に精通している広域的な支援機関へのヒアリングを実施し、現場で把握されている傾向や課題、支援ニーズ等を把握することを目的として実施しました。

(2)ヒアリング実施機関および聞き取り内容

実施機関	機関の概要
①ハローワーク池袋	厚生労働省が運営する公共職業安定所で、求職者に対する職業紹介や就職支援、雇用保険の手続きなどを行う総合的な就労支援機関です。 求職者一人ひとりの状況に応じて、求人情報の提供や職業紹介、就労に必要なスキルの習得支援をしています。また、就職氷河期世代や若年者、障害者など対象に応じた専門支援コーナーを設置し、履歴書の添削や面接対策、就職後の定着支援に至るまで、きめ細かなサポートを実施しています。
②中高年企業団 やまて企業組合	生活困窮者支援や就労支援などの福祉事業と、公共施設の維持管理などを行う環境事業を展開する企業組合です。 長期無業、ひきこもり、生活困窮、住居不安定、就労経験の不足など、複合的な課題を抱えている方に対し、相談支援から社会参加、就労・就労定着の支援を一体的に行っています。
③特定非営利活動法人KHJ 全国ひきこもり家族会連合会	日本で唯一の全国組織のひきこもり家族会(当事者団体)です。 ひきこもり状態にある本人や家族が社会的に孤立しないよう、全国の家族会と連携しながら交流・相談支援を行うとともに、行政への働きかけや社会的な啓発活動を実施しています。また、当事者・家族の安心できる居場所づくりや相互支援(ピアサポート)を推進し、家族会活動の支援や社会参加の促進に取り組んでいます。

①ハローワーク池袋

項目	内容
就職氷河期世代向け支援の取組状況	・ミドル世代チャレンジコーナーは4名で構成されたチーム支援が基礎 ・35歳～60歳未満で正社員就労を希望する方たちを個別対応で支援 ・助成金対象者に対して、助成金を活用した求人提案を行い応募勧奨 ・ミドル世代就職支援セミナー開催(オンラインセミナー) ・ミドルシニア世代に特化した応募書類作成支援 ・ミドルシニア世代に特化した面接対策支援 ・就職後の定着支援
就労に関する特徴や課題	・非正規雇用から正社員を目指す方は、派遣や契約社員で就業していた方が多く、職を転々としている印象は薄い ・職を転々としている方やアルバイト、単発就労でつないでいる方、ブランクが長い方は、「就職氷河期世代で就職できなかった」と言う方が多い ・同じ年齢、年代で就労に差が出ている現状は、時代だけでなく、本人を取り巻く環境によるものが大きいと思われる ・課題：不平不満からスタートする支援および支援継続の難しさ ・課題：キャリアチェンジを望む方へのアプローチ
就労支援の視点から自治体に期待される役割	・区内企業へのインターンシップや企業説明会・面接会開催 ・区内産業に直結する資格取得支援(介護系等) ・就労準備が整った方とハローワーク池袋との連携支援

②中高年企業団 やまて企業組合

項目	内容
就職氷河期世代向け支援の取組状況	・時代の流れとしてベビーブーム、リーマンショック、コロナ禍に翻弄されているものの、就職氷河期世代に特化しているものではない。それぞれの時代で寄り添って支援してきた。 ・金銭管理支援事業としては、令和7年9月より練馬区の被保護者への金銭管理支援事業として受託。今後対象者を広げていきたい。 ・世代として一概に支援が必要な世代とは言い難い面もある。非正規での就労を続けていく選択をした、ということもあるだろう。 ・住まいの契約時には保証人がいるかいないかが審査の可否に影響した。今はほとんどが保証会社を利用している。少しでも働いていることの立証をする支援や緊急連絡先を引き受けるなどの支援を行っている。
就労に関する特徴や課題	・住まい 非正規の方は民間賃貸住宅が見つからない、審査が通りづらい、住宅ローンが組めない、もしくはそもそもの知識がないといった困難はある。 ・キャリアアップのため、若サポを使える年齢層は積極的に使ってほしい。 ・決まった住居のない方 就業場所が仕事場によって違う。スキルアップはなかなか厳しい状況にある。
就労支援の視点から自治体に期待される役割	・社会保障制度についての周知や相談会の実施 総合相談の必要性 専門分野の窓口でそれぞれ手続きすることが難しい。まずは知るところから始めることが必要。 ・公的な機関で緊急連絡先を担ってもらえるとありがたい。例：鉄道福祉事業団 ・居住支援法人の活用。2年に1回の契約で費用がかかる。その費用を助成するなどの支援が有効。例：川崎市居住支援制度助成 ・様々な働き方の支援 例えばケアラーが家を離れ、収入も持てる、社会とのつながりを持てるよう、柔軟な時間や働き方を提案する福祉の就労支援。

③特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

項目	内容
就職氷河期世代向け支援の取組状況	・ひきこもりに関する周知・啓発、家族会の支援など。また、本人・家族とも、社会制度について知らなかったり、活用できなかったりする方が多い。そのため、制度活用の支援も行っている。 ・30代以上が中心で、8050世帯も多い。そのため、氷河期世代も多く含まれている。 ・氷河期世代の方の多くは、就業経験はあるものの、不安定な雇用形態等のため継続することも難しかった。共通しているのは、社会全体に安心感を持っていないこと。そのため、支援において最も大事なことは、家族(親)も含めて安心感を与えること ・仮に本人が社会に出てつまずいた時に、いつでも戻ってこられるようにしている。 ・親にとって家族会は、うまく行ったことなどを親同士で共有する「分かち合いの場」ともなっている。
就労に関する特徴や課題	・社会人の経験が乏しいことから、適切な人間関係を築く機会がないまま年を重ね、コミュニケーションが苦手な方が多い。KHJが行った調査では、73%の方が何らかの就業を希望している。しかし、過去の苦い経験やコミュニケーションの不安から就労できずにいる方がたくさんいる。 ・近年ジョブ型雇用が増えているが、キャリア形成が難しかった氷河期世代にはハードルが高い。 ・8050世帯が多い。親が要介護状態になった場合や親亡き後の社会保障制度へのつなぎ(ソーシャルワーク)が重要。 ・親にとっても、自分が死んだ後、子どもをどうやって社会支援につなげるかが、大きな関心事であり、KHJによる勉強会は大変好評。 ・ひきこもり状態は、ガソリンが入っていない車に例えられる。いきなり働けというのは、ガソリンの入っていない車を走らせようとしているようなもの。まずは、どうやってガソリンを貯めるのか一緒に考えなければならない。そのために本人にとって必要なのは「安心」「尊重」「自己有用感」。(家族会は、まずは家族に安心感を与えることから始めている。) ・本人にとっての安心感とは、経済的な安心感と、人間関係の安心感。それらを与えることが大切。 ・人間関係の安心感という点では、いつでも戻って回復ができる場所としてサードプレイスを持つことが大事。社会としては、何度でもやり直せる寛容さがあるとよい。 ・ひきこもりから社会へ進むためには、回復のためのモラトリアム期間が必要な場合もある。ただ、そのためには、お金(経済的な安心感)も必要となる。
就労支援の視点から自治体に期待される役割	●外出のための経済的な支援 居場所はひきこもりによって失われた楽しむ経験を積む場となる。継続するための経済的支援があるとよい。居場所利用者に対して自宅からの交通費を支給があるとよい。さらに、就職活動のための交通費も支給できたら、なお良い。 ●社会参加のための多様な体験メニュー ひきこもりの方の興味・関心は多種多様。それに応えられるよう、体験メニューの種類は多ければ多いほど良い。併せて、支援者には本人の興味・関心を育てる意識が求められる。 ●就労移行支援の柔軟なプログラム 「勤怠管理」から始めることが多い。しかし、現在は在宅ワークなど、柔軟な働き方が増えている。勤怠管理でつまずき、先に進めないひきこもりの方もいる。時代に即して柔軟なプログラム提供があっても良い。

項目	内容
	●土日・年末年始のオンライン相談(LINE等) いつでも相談できる体制が整っていることが望ましい。直営が難しいようであれば、家族会などへの委託も考えられる。 ●ピア相談 ひきこもりの方は周囲に理解されず、辛い思いをしてきた人が多い。そのため、自身と同じ経験をした人の方が相談しやすい。 ●区内支援団体との官民連携 区内の支援団体(特に当事者)との連携は大事。家族会等の運営費などの支援があるとよい。 ●家族支援 ・ひきこもりの子どもがいる親は、子ども以外との交流が少ないことが多く、親自身もひきこもり傾向になりがち。親が子ども以外とつながれるよう、家族会のほか、「介護予防教室」などを案内できるとよい。 ・親がつながり先を増やすことで、そのつながりを通じて、子どもが社会とつながるきっかけを作ることもある。 ・親がふさぎ込むことは、ひきこもりの子にとって好影響は与えない。親自身が、活動的になることが、子に好影響を与える。

3. 有識者ヒアリング

(1) ヒアリング調査の目的

就職氷河期世代が抱える課題や必要な支援について有識者へヒアリングを行い、調査結果の分析の深化や効果的な支援策の検討に活用することを目的として実施しました。

(2) 聞き取り内容

項目	内容
就職氷河期世代が抱える特有の課題	・不安定就労の長期化による自己肯定感の低下 就職活動でつまずいて、正社員の経験がなく、不安定な就労が続いている人が多い。そのような人たちは、自己肯定感が低いままで、自信の持ちようがない。 ・孤独・孤立 人とのつながりは、3つの縁(地縁・血縁・職縁)からなる。就職氷河期世代は、職縁が弱い。さらに、未婚率が高く、単身者も多いため、血縁も弱い。孤独・孤立化が進んでいる。 ・社会的マナー・常識を学ぶ機会の欠落 非正規雇用の方は、正規に比べて、結婚式・葬式など冠婚葬祭の場に出る機会が少ない。若い頃、非正規であることに引け目を感じ、結婚式などを避けた結果、冠婚葬祭のマナーやテーブルマナーを学ぶ機会がなかった可能性がある。
就職氷河期世代の支援の視点(必要と思われる区の取組)	●生活支援 ・空き家活用が有効ではないか(今後団地政策はできない)。そのための住宅改修費や家賃の補助ができるとよい。 ・住まい確保と人材確保を組み合わせる(実施自治体もある)。高齢者と共同生活・集団生活し、介護を担う。シェアハウスの延長のようなもので、生活レベル向上と家賃負担軽減も図れる。民間による就職支援とセットになれば、なおよい。 ●就労支援 就職氷河期世代を優先雇用する事業者への補助が考えられる。 ●社会参加支援 ・3つの縁のうち血縁・職縁が弱いので、地縁を強化できるとよい。地縁は必ずしも、近隣住民との交流に限らない。SNSを通じたつながりでも構わない。社会的なつながりができれば、次につながる可能性がある。 ・支援策を考える上では、対面以外のつながりも、対面までのステップとして意識するとよい。埼玉県ではメタバース居場所を行っている。大きな成果が出なくても、自治体が取り組む姿勢や歩み寄る姿勢を示すことが大事。 ・マナー講座(「今さら聞けない」冠婚葬祭・テーブルマナー)や趣味活動を通じた孤立防止策も必要と思われる。楽しく学べる機会(食事付き講座など)を提供することが社会参加支援につながる。

4. 当事者ヒアリング

(1) ヒアリング調査の目的

アンケート調査だけでは把握しきれない背景や課題などを深掘りすることを目的として実施しました。

- ヒアリング対象者の概要は次のとおり。男性 7 人、女性 8 人であり、年齢は 40 歳から 55 歳までであり、40 代が 6 人、50 代が 8 人、年齢非公表が 1 人であった。
- 多様なライフステージや就労・生活経験を有する人から意見を聴取した。

(2) 聞き取り内容

①生活歴・就業歴

項目	内容
新卒期の状況・心境	・新卒期の状況は多様であり、高校・専門学校・大学卒業後に正規雇用へ就職した人がある一方、アルバイトから就労を開始した人や、進学・中退などを経て就職活動に至った人もみられた。 ・就職活動については、「比較的スムーズに就職できた」「就職活動に苦労した印象はない」との声がある一方で、「希望する職業ではなく、就職できる職場を優先した」「コミュニケーションへの苦手意識や自信のなさから就職活動が進まなかった」との声もみられた。 ・学校の求人やアルバイト先から正規雇用につながったケース、家業への就職、人手不足の業界への就職など、就職に至る経路はさまざまであった。 ・学生時代から働くことへの具体的なイメージを持てなかった、あるいは大学受験や進学・中退などを契機に就職活動を行わなかったという人もみられた。 ・全体として、新卒期に就職が著しく困難であった人だけではなく、比較的円滑に就職した人も一定数みられた。一方で、希望と異なる就職や、自己肯定感の低さ、コミュニケーションへの苦手意識などが、その後の就業に影響を及ぼしたことがうかがえた。
離職・非正規化等の転機	・離職や非正規雇用への移行のきっかけは多様であり、会社都合による異動や業績悪化、廃業など、本人の意思によらない理由で離職した人がみられた。 ・身体的・精神的な不調を契機に離職した人が多くみられ、その後、就労の継続が困難となったり、働き方を変更したりするケースがみられた。 ・結婚や出産などのライフイベントを機に退職し、専業主婦となった人や、働き方を見直した人がみられた。 ・職場の人間関係や担当業務の変更・頓挫、環境の変化への適応の難しさなどが、離職や転職の要因となった人もみられた。 ・離職後は、アルバイトや契約社員、個人事業主など多様な働き方へ移行した人がある一方、就労していない期間が続いた人もみられた。 ・就労意欲の低下や体調不良などにより、転職や離職を繰り返したケースもみられ、就業の継続に困難を抱える状況がうかがえた。

項目	内容
支援につながったきっかけ	・支援につながったきっかけとして、コロナ禍による収入減少や負債の増加、収入への不安など、経済的な困窮が背景となった人が多くみられた。 ・家族の入院や介護、本人の入院など、本人や家族の生活状況の変化を契機に相談へつながったケースがみられた。 ・家族や通院先の医療機関から相談を勧められたことをきっかけに、支援機関を利用した人がみられた。 ・離職期間の長期化や将来への不安を契機に、自ら相談先を探し、相談窓口や支援機関につながった人もみられた。 ・区の相談窓口など、他の相談機関からの紹介を通じて支援につながったケースもみられた。 ・支援につながる経路は多様であり、自ら相談したケースだけでなく、家族や関係機関からの働きかけが支援につながる重要な契機となっていた。
現在の働き方（選好／制約）	・現在の働き方は、正規雇用、派遣、アルバイト、福祉的就労、無職など多様であり、就労していない人も複数みられた。 ・正規雇用による経済的な安定や将来への安心感を求め、正社員への就職・転職を希望する人がみられた。 ・正社員での就職を目指しながら、生活を維持するためにアルバイトを継続している人もみられた。 ・就労支援機関や就労サポーターによる支援、就労体験などを通じて就職につながったケースがみられ、支援を受けながら長期的な就労を目指している人もみられた。 ・身体的・精神的な不調や就労機会の不足などを背景に、現在は就労していない人もみられた。 ・家族との同居など、生活基盤を家族の支援に支えられながら就労や求職活動を行っている人もみられた。

②家計・住まい

項目	内容
家計の実情・特徴	・家計の状況は、就労収入を主な収入源としている人のほか、預貯金、家族からの支援、障害年金、生活保護など、多様な収入源によって生活を維持していた。 ・家族と同居し、生活費を家族に依存している人や、家族と生活費を分担している人が多くみられ、家族の支えが生活基盤となっている状況がうかがえた。 ・預貯金を取り崩しながら生活している人も複数みられ、収入の不足を資産で補っている状況がみられた。 ・派遣やアルバイトなど不安定な就労形態では、体調不良による欠勤が収入減少に直結するなど、収入が不安定になりやすい実態がみられた。 ・家賃や光熱水費、家賃更新料など住居に係る支出が家計の負担となっているとの声や、コロナ禍による収入減少が家計に大きな影響を与えたとの声がみられた。 ・就労収入を得ている人からも、「もう少し収入を増やしたい」との声があり、生活の安定に向けた収入確保を課題としている人がみられた。
住まいの状況・困難点	・住まいは、賃貸住宅で暮らしている人が最も多く、両親との同居や持ち家（分譲マンション）で生活している人もみられた。 ・両親との同居により生活基盤を維持している人が複数みられ、住居面においても家族の支えに依存している状況がうかがえた。 ・賃貸住宅に居住する人からは、現在は両親が保証人となっているものの、将来的な保証人の確保に不安を抱えているとの声がみられた。 ・全体として、住まいそのものに大きな課題を抱える人は多くなかった一方で、家族の支援を前提とした居住や、将来的な住居の継続・確保に不安を抱える状況がみられた。

③健康・メンタル・ケア責任

項目	内容
体調・メンタルの状況と就労への影響	・健康状態は個人差があり、「健康で大きな不調はない」とする人がいる一方、身体疾患や精神的不調、発達障害などを抱える人もみられた。 ・身体疾患により定期的な通院や支援機器の利用が必要な人、疲れやすさ(易疲労)を感じている人もみられ、就労の継続や働き方に影響を及ぼしていた。 ・精神的な不調を抱える人の中には、通院や服薬が十分に継続できていない人や、気分の落ち込みが続いている人がみられた。 ・発達障害や精神的な不調が就労や日常生活に影響を及ぼしているケースがみられた一方、過去に精神的な不調を経験したものの、現在は回復している人もみられた。 ・家族との関係を維持するために精神的な負担を抱えながら生活している人もみられ、家庭環境がメンタルヘルスに影響を及ぼしている状況がうかがえた。 ・全体として、健康上の課題は就労の可否だけでなく、就労の継続や生活の安定にも影響を与える要因となっていた。
家族介護・育児等のケア責任	・現時点で家族の介護や育児などのケア責任を担っていない人が多くみられた。 ・一方で、遠方に住む家族の介護や、家族の入院への対応など、家族の状況に応じた支援を担っている人もみられた。 ・家族に要介護者がいる世帯では、他の家族が主な介護を担っているケースがある一方、本人が家事全般を担うなど、家庭内で一定の役割を担っている人もみられた。 ・過去に家族の介護を担っていたものの、現在は終了しているケースもみられた。 ・全体として、現在、介護等のケア責任を担う人は限定的であったものの、家族の健康状態や生活状況の変化により、将来的にケア責任を担う可能性がある状況もうかがえた。

④つながり・孤立・社会参加

項目	内容
関わる人・関係性	・関わりのある相手は、家族や友人、支援機関の職員、主治医、ボランティア仲間、職場の同僚などさまざまであった。 ・支援機関の職員や主治医との関わりが主な社会的つながりとなっている人が複数みられ、専門職との関係が生活を支える重要な役割を果たしていた。 ・家族や友人との交流を継続している人がいる一方で、家族とは距離を置いている人や、友人と疎遠になり最低限の関わりにとどまっている人もみられた。 ・「一人で過ごすことが多い」「関わりを避けたい」「一人で自由に過ごしたい」といった声もみられ、他者との交流を積極的には求めている人もいた。 ・趣味やサークル活動、ボランティア活動、アルバイトなどを通じて地域や他者とのつながりを維持している人もみられた。 ・全体として、人とのつながりの程度には大きな個人差があり、支援機関を介した関係が社会との接点となっている人がいる一方で、孤立や交流の少なさがうかがえる人もみられた。
相談先の有無・相談しにくさ	・相談先として、支援機関の職員や家族、友人、職場の人などを挙げる人がみられ、特に支援機関が重要な相談先となっている人が多くみられた。 ・一方で、「相談できる人がいない」「相談をしない」「相談が苦手」といった声もみられ、困りごとを抱え込む傾向のある人も少なくなかった。 ・「相談してよいのか分からない」「性格的に人を頼ることが苦手」といった心理的なハードルから、相談をためらう人もみられた。 ・困りごとがあっても自己解決を優先したり、自身では困りごとを整理できず相談につながりにくかったりする人もみられた。 ・AIを相談相手として活用している人もみられ、多様な相談手段を利用している実態もうかがえた。 ・全体として、相談先がある人となない人の差がみられるだけでなく、相談先があっても相談しづらさを抱えている人が一定数みられ、相談につながるための心理的なハードルへの配慮が必要である。
参加したい活動とハードル	・就労や学び直し、趣味、交流、旅行など、新たな活動への意欲を持つ人がみられた。 ・就労を希望する人からは、ブランクや人間関係への不安、体力面への不安などが参加・就労へのハードルとして挙げられた。 ・趣味や交流活動への参加を希望する人からは、活動費用の負担や、仕事との両立を考慮する必要があるとの声がみられた。 ・人間関係への不安や緊張感、行動に移すまで時間がかかることなど、心理的な負担が社会参加を妨げる要因となっている人もみられた。 ・体力面や経済面の制約に加え、「新たな活動を考える余力がない」との声もあり、生活状況そのものが社会参加への意欲や行動に影響を及ぼしていることがうかがえた。 ・一方で、「特にハードルはない」とする人もみられ、参加意欲や置かれている状況には個人差がみられた。

⑤困りごと・将来不安・必要な支援

項目	内容
現在の困りごとと要因	・現在の困りごとは多様であり、収入管理や生計の維持、債務整理、家賃負担など、経済的な課題を挙げる人がみられた。 ・就労に関しては、就労への意欲と現実とのギャップや、収入に対する税負担などを課題として挙げる人がみられた。 ・家族の介護や近隣住民との騒音トラブルなど、生活環境に起因する困りごとを抱える人もみられた。 ・不安やストレス、新しいことに挑戦する際の心理的なハードル、体調管理や整理整頓の難しさなど、精神的・生活面での課題を抱える人もみられた。 ・社会参加の機会や支援機関の不足を課題として挙げる人もみられ、地域で参加できる場や継続的な支援を求める声がみられた。 ・一方で、「特に困りごとはない」と回答した人も複数みられ、困りごとの有無や内容には個人差がみられた。
将来の不安・懸念	・将来への不安として最も多く挙げられたのは就労に関することであり、安定した仕事の継続や再就職に対する不安を抱える人が多くみられた。 ・収入の減少や老後資金、貯蓄など、将来の生活を支える経済面への不安を抱える人もみられた。 ・両親が亡くなった後の生活や、単身で高齢期を迎えることへの不安など、家族環境や将来の生活基盤に関する不安がみられた。 ・家族の介護や家族関係について、今後の負担や生活への影響を懸念する人もみられた。 ・体調の悪化やスキルアップ、人間関係など、自身の健康や能力、社会との関わりに関する不安を抱える人もみられた。 ・一方で、将来について「分からない」と回答した人もみられ、将来像を具体的に描けない状況もうかがえた。
必要だと感じる支援	・必要な支援として、気軽に相談できる場所や、不安や悩みを安心して話せる相談体制の充実を求める声が多くみられた。 ・制度や相談窓口、就労支援などの情報を分かりやすく提供し、必要な支援へ円滑につながる仕組みを求める声がみられた。 ・就労に向けた支援として、学び直しや就労前段階の訓練、ブランクのある人への支援、働く機会の創出、就労に関する情報提供などを求める声がみられた。 ・食住の安定や住宅費の負担軽減、家電購入への補助など、生活基盤を支える経済的支援を求める人もみられた。 ・コミュニケーションの場や気軽に立ち寄れる居場所、参加しやすい地域活動など、人とのつながりを支える場を求める声がみられた。 ・手続きの簡略化や相談への同行支援など、支援を利用しやすくするための伴走型支援を求める人もみられた。 ・一方で、「特に必要な支援はない」と回答した人もみられ、必要と感じる支援の内容や程度には個人差がみられた。

第6章 調査結果から見える課題

1. 将来の課題への対応も見据えた相談支援体制の充実

アンケート調査結果から、収入が少ないことや、生活費の不足(59.2%)、人間関係や孤立感(23.3%)、家族の介護や育児の負担(23.1%)等の困りごとを抱えていることが明らかとなりました〔問 22-1〕。一方で、支援を利用していない理由〔問 24-1〕として、「対象要件を満たしていない(と思う)」(31.7%)、「どのような支援が受けられるのかわからない」(23.9%)、「どこが相談窓口かわからない」(10.1%)等が挙げられており、相談窓口や支援制度に関する情報が十分に届いておらず、必要な支援につなげていない状況がうかがえます。

また、将来的な不安〔問 23-1〕として、老後の生活資金(78.5%)、収入の減少(52.4%)、家族の介護や支援(44.9%)、住まいの確保(28.3%)等が挙げられています。

さらに、社会参加・交流の機会〔問 18-1〕については、地域活動やボランティア活動とのマッチング(25.0%)、就労体験・職場見学の機会(22.4%)が挙げられています。

ヒアリング調査においても、当事者に寄り添い個別ニーズに対応できる相談支援や、生活課題に関する総合相談の必要性が挙げられています。

このことから、抱えている課題は、複数あること、生活上の課題や将来的な不安を抱えながらも必要な支援につなげていない人が一定数存在することが明らかとなりました。また、状況が深刻化する前の段階から相談や支援につなげる仕組みを整えることが重要です。

今後は、相談窓口や支援制度の効果的な周知を進めるとともに、個別ニーズに応じた伴走的な支援や適切な社会資源へのマッチング支援を充実させる必要があります。

2. 居場所支援の充実

アンケート調査結果から、「似た境遇にある方とのコミュニケーションの場」(44.8%)、「誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース」(29.3%)〔問 18-1〕等、社会参加・交流の機会に対するニーズが見られました。また、「仕事のための学び直し支援」(33.7%)〔問 23-2〕も求められており、社会参加や就労に向けた支援の充実が期待されています。

ヒアリング調査においても、参加しやすい居場所の整備や拡充、居場所のプログラム参加に係る交通費支援等、参加を後押しする取組の必要性も挙げられています。

このことから、社会的孤立を防ぎ、社会参加や地域とのつながりを促進するため、居場所や交流機会の充実に加え、居場所への継続的な参加を支える仕組みや、多様なニーズに応じたプログラムを提供していくことが重要です。

今後は、スキルアップや交流機会など、多様なニーズに対応したプログラムを充実させるとともに、居場所事業の内容等をわかりやすく周知する必要があります。あわせて、交通費支援等の参加に係る負担軽減を含め、継続的な社会参加を支える取組を充実させる必要があります。

3. 個別ニーズに応じた就労支援の充実

アンケート調査結果から、クロス集計〔問7×問6〕では、初めて就いた仕事が正規の職員・従業員のうち、8割が転職・離職を経験しており、さらに、正規の職員・従業員以外の仕事の経験が10年以上の方が33.9%となっています〔問7-2〕。

また、今後の働き方の希望として「安定して働きたい」(61.6%)が最も高くなっている一方で、「体調や障害に配慮された働き方をしたい」(30.1%)、「非正規でも柔軟に働きたい」(29.7%)、「短時間勤務・時短を希望する」(29.7%)、「介護や育児と両立できる働き方をしたい」(27.6%)などが挙げられています〔問8-3〕。

ヒアリング調査においても、柔軟な働き方や就労準備の支援の必要性が挙げられています。

このことから、不安定な就業形態を経験してきた方が少なくないことが明らかとなりました。また、多様な状況やニーズに応じた就労機会の確保に向け、勤務時間や勤務日数を柔軟に調整できる働き方への対応も求められており、その受け入れ先となる地域の協力事業者の確保が重要です。

今後は、本人の状況に応じて段階的に社会参加や就労へつなげる支援を充実させるとともに、受け入れに協力する事業者や関係機関の開拓を進め、多様な働き方や社会参加の機会を確保していく必要があります。就労体験や社会参加の受け入れ先となる地域資源の創出・拡充を図るためにも、地域とのネットワークを有し、地域資源の掘り起こしや地域活動団体の支援に取り組んでいる社会福祉協議会の強みを活かしていくことが重要です。

4. 生活支援の充実

アンケート調査結果から、クロス集計〔問23-1×問4〕では、親族名義の持ち家の方は、「家族の介護や支援」(56.8%)に対する不安が高く、民間賃貸住宅の方は、「住まいの確保」(50.5%)に対する不安が高い状況がみられました。また、居住形態に関わらず「老後の生活資金」(78.5%)や「収入の減少」(52.4%)に対する不安が高くなっています。また、自由意見においても、介護に関する支援の充実を求める意見が挙げられています。

このことから、介護、住まい、老後の生活資金等に関する将来的な不安を抱えている方が一定数いることが明らかとなりました。また、家族介護と就労の両立を支援する取組の充実も重要です。

今後は、生活課題や将来不安を早期に把握し、状況が深刻化する前の段階から必要な制度や支援につなぐことができるよう、相談支援体制を強化するとともに、介護、住まい、生活困窮支援等の関係機関と連携を強化しながら、本人や家族の状況に応じた包括的な支援を進めていく必要があります。

参考 資料編

1. 使用した調査票

就 職 氷河期世代の実態把握のためのアンケート調査

～ご協 力 のお願い～

日ごろより、練馬区政にご理解・ご協 力をいただきありがとうございます。

区では、就 職 氷河期世代の皆様のご就 労 状 況や生活上の課題、困りごとなどを把握し、今後の支援施策を検討する際の参考とするため、「就 職 氷河期世代の実態把握のためのアンケート調査」を実施いたします。本調査では、皆様の現在の 状 況について広くお 伺 いし、いただいたご回答を施策検討の基礎資料として活用させていただきます。

調査の対象者として、令和8年1月1日時点で41歳～55歳の区民の中から、無作為に4,000人を選ばせていただき、そのうちの1人として、調査票を送付させていただきます。設問数が多く大変 恐 縮 ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協 力 くださいますようお願い申し上げます。

※この調査は無記名であり、皆様からの回答は統計的に処理いたします。調査の目的以外には使用いたしません。

令和8年5月 練馬区

今回、アンケートにご協 力 いただいた方に対し、
「練馬区内共通商品券1,000円相当」を抽選で50名様にプレゼントいたします。



※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。電話やメールでの当選結果のご質問にはお答えできませんので、ご了 承 ください。

※賞品の発送は、2026年8月初旬より順次 行 う予定です。

※ご提供いただいた個人情報 は、商品券の発送のみに利用し、適切に管理いたします。

※当選者のお名前、住所などは一切 公 表 いたしません。

なお、本調査の実施・とりまとめは、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所に委託していただきます。調査についてのご質問・お問い合わせは、下記までお願いいたします。

【本調査についてのお問い合わせ先】株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
電 話: 03-5803-9885 【営業時間】月～金(祝日を除く)9～17時
メー ル: tokyo@ji-institute.com (24時間受付。ご回答は祝日を除く月～金)

かいとう ねが 【回答にあたってのお願い】 ●ご本人(封筒の宛名の方)がご回答ください。 ※ご本人が回答できない場合、ご家族等がご本人のお考えを聞きながら回答してください。
--

かいとうほうほう ちょうさひょう ゆうそう
【回答方法】 インターネット または 調査票の郵送

ほうほう かいとう
※どちらかの方法でご回答ください。

かいとうじかん ふんていど めやす
【回答時間】 15分程度(目安)

かいとう とうかん ご回答(ご投函)の し き 締め切り がつ か もく 6月4日(木)
--

かいとうほうほう インターネットによる回答方法	ちょうさひょう ゆうそう かいとうほうほう 調査票の郵送による回答方法
① 下記URLもしくは二次元コードから、専用ウェブサイトにアクセスしてください。 【URL】 https://smilesurvey.co/s/a0deccdt/+0 【二次元コード】  ② 調査票と同じ質問が画面に表示されます。 ③ 調査表の冒頭に印字してある「ID」を入力してください。 ※IDで個人が特定されることはありません。	① 回答は、当てはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選択する場合は番号を○で囲み、()に具体的な内容を記入してください。 ② 質問によっては、回答数や回答者が限られる場合があります。 ③ 回答終了後、同封の返信用封筒に入れて封かんし、回答期限までにポストへ投函してください(切手は不要)。

■調査の目的等に関するお問い合わせ

ねりまく ふくし ぶ かん たり かい かん ねんけいすいしん かり
練馬区 福祉部 管理課 連携推進係

〒176-8501 ねりま くと 豊玉北6丁目12番1号

でんわ ちやくつう ばんごう
電話 : 03-5984-4539(直通) FAX番号: 03-5984-1214

メール: nerimafukusi28@city.nerima.tokyo.jp

1. 世帯の基本情報に関すること

【すべての方にお聞きします】

あなたの年齢（令和8年4月1日現在）を教えてください。

数字を記入

歳

性別を教えてください。（○は1つ）

1. 男性

2. 女性

3. その他/回答しない

最終学歴を教えてください。（○は1つ）

1. 中学校（高校未入学）

4. 高校（大学等中退）

7. 大学

2. 中学校（高校中退）

5. 専門学校

8. 大学院

3. 高校（大学等未入学）

6. 短期大学

9. その他（ ）

あなたのお住まいの形態は次のどれにあたりますか。最も近いものを1つ選んでください。

（○は1つ）

1. 自己名義の持家（共有を含む）

5. 居住支援・福祉系の住まい（グループホーム、支援付き住宅など）

2. 親族名義の持家

6. ネットカフェ等での滞在

3. 民間賃貸住宅（シェアハウスを含む）

7. その他（ ）

4. 公的賃貸住宅（都営・区営住宅など）

あなたと同じ住居で生活している方は何人ですか。あなた以外の人数を教えてください。

（○は1つ）

1. 1人

7. 7人

2. 2人

8. 8人

3. 3人

9. 9人

4. 4人

10. 10人以上

5. 5人

11. 0人（同居者はいない）

6. 6人

【問5で「1～10(同居者がいる)」と回答した方にお聞きします】※該当しない方は問6へ

問5-1 現在、あなたと同居している方はどなたですか。当てはまるものすべてを選択してください。

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 配偶者 | 5. 叔父・叔母(配偶者の叔父・叔母を含む) |
| 2. 子ども | 6. 友人・知人 |
| 3. 父・母(義父・義母を含む) | 7. その他() |
| 4. 兄弟姉妹(配偶者の兄弟姉妹を含む) | |

2. 就業に関すること

【すべての方にお聞きします】

現在の主な仕事の就業等の形態を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. (雇われている人のうち) 正規の職員・従業員 | 6. 会社・団体等の役員・経営者 |
| 2. (雇われている人のうち) パート、アルバイト | 7. 自営業主、自家営業の手伝い、内職 |
| 3. (雇われている人のうち) 派遣社員 | 8. 就業はしていない(専業主婦・主夫、学生) |
| 4. (雇われている人のうち) 契約社員 | 9. 就業はしていない(無業) |
| 5. (雇われている人のうち) 嘱託、その他 | |



【問6で「1～5(雇われている)」と回答した方にお聞きします】※該当しない方は問6-3へ

問6-1 現在の仕事の就業形態を選択している理由として当てはまるものをすべて教えてください。

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 将来にわたって安定して働きたいから | 7. 家計の補助・学費等を得たいから |
| 2. 社会保険に加入できるから | 8. 家事・育児・介護等と両立しやすいから |
| 3. 他の雇用形態より収入が得られると思うから | 9. 通勤時間が短いから |
| 4. 自身のキャリアを維持・向上したいから | 10. 専門的な技能等をいかせるから |
| 5. 他の雇用形態より社会的な信用度が高いと思うから | 11. 正規の職員・従業員の仕事がないから |
| 6. 自分の都合のよい時間に働きたいから | 12. その他() |

問 6-2 現在の就業先の主な業種は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。

(複数の就業先がある場合は、収入の多い方の業種をお答えください。)(○は1つ)

1. 農業	12. 不動産業、物品賃貸業
2. 林業	13. 学術研究、専門・技術サービス業
3. 漁業	14. 宿泊業
4. 鉱業・採石業・砂利採取業	15. 飲食サービス業
5. 建設業	16. 生活関連サービス業、娯楽業
6. 製造業	17. 教育、学習支援業
7. 電気、ガス、熱供給、水道業	18. 医療
8. 情報通信業	19. 福祉
9. 運輸業、郵便業	20. サービス業(他に分類されないもの)
10. 卸売業、小売業	21. 公務
11. 金融業、保険業	22. その他()

【問6で「9. 就業はしていない(無業)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問7へ

問 6-3 現在就業していない理由として当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

1. 仕事を探している(探した)が、採用されなかったため	9. 介護・看護のため
2. 失業したばかりであるため	10. 病気・ケガのため
3. 転職や開業準備のために前職を辞めたため	11. 勉強のため
4. 希望する仕事が見つからないため	12. 仕事と家事の両立が困難なため
5. 仕事する上での知識・能力に自信がないため	13. 家族の理解が得られないため
6. 人間関係に不安があるため	14. 急いで仕事に就く必要がないため
7. 仕事以外にやりたいことがあるため	15. その他()
8. 出産・育児のため	

【すべての方にお聞きします】

あなたが学校を卒業（または中退）した後、初めて就いた仕事の就業形態を教えてください。

（○は1つ）

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1.（雇われている人のうち）正規の職員・従業員 | 5.（雇われている人のうち）嘱託、その他 |
| 2.（雇われている人のうち）パート、アルバイト | 6. 会社・団体等の役員・経営者 |
| 3.（雇われている人のうち）派遣社員 | 7. 自営業主、自家営業の手伝い、内職 |
| 4.（雇われている人のうち）契約社員 | 8. 今まで就業したことはない（専業主婦・主夫、その他の無業） |

【問6で「2～9（現在、正規の職員・従業員として就業していない）」かつ、問7で「2～7（初めて就いた仕事の就業形態が正規の職員・従業員以外）」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問 7-2 へ

問 7-1 学校卒業（もしくは中退）後から現在までに正規の職員・従業員を経験しましたか。

（○は1つ）

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 正規の職員・従業員の経験はない | 2. 正規の職員・従業員の経験がある |
|--------------------|--------------------|

【問7で「8. 今まで就業したことはない（専業主婦・主夫、その他の無業）」以外と回答した方にお聞きします】※該当しない方は問8へ

問 7-2 学校卒業（もしくは中退）後から現在までに正規の職員・従業員以外の仕事を経験しましたか。

経験した場合、すべて合わせてどのくらいの期間で経験しましたか。（○は1つ）

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験はない | 4. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験は3年以上5年未満 |
| 2. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験は1年未満 | 5. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験は5年以上10年未満 |
| 3. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験は1年以上3年未満 | 6. 正規の職員・従業員以外の仕事の経験は10年以上 |

【すべての方にお聞きします】

今後、就職または転職を考えていますか。最も近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1. 現在、求職活動(就職または転職のための活動)をしている
2. 現在、求職活動はしていないが、具体的に就職または転職を考えている
3. 将来的に就職または転職を考えている
4. 就職または転職を考えていない
5. わからない

【問8で「1～3(就職または転職活動をしている、考えている)」と回答した方にお聞きします】
※該当しない方は問9へ

問8-1 就職・転職に際し、希望する就業形態は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。

(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 正規の職員・従業員 | 5. 嘱託、その他の雇用 |
| 2. パート、アルバイト | 6. 会社・団体等の役員・経営者 |
| 3. 派遣社員 | 7. 自営業主、自家営業の手伝い、内職 |
| 4. 契約社員 | |

問8-2 就職・転職に際し、希望する業種は何ですか。最も近いものを1つ選んでください。

(○は1つ)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 農業 | 12. 不動産業、物品賃貸業 |
| 2. 林業 | 13. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 3. 漁業 | 14. 宿泊業 |
| 4. 鉱業・採石業・砂利採取業 | 15. 飲食サービス業 |
| 5. 建設業 | 16. 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 6. 製造業 | 17. 教育、学習支援業 |
| 7. 電気、ガス、熱供給、水道業 | 18. 医療 |
| 8. 情報通信業 | 19. 福祉 |
| 9. 運輸業、郵便業 | 20. サービス業(他に分類されないもの) |
| 10. 卸売業、小売業 | 21. 公務 |
| 11. 金融業、保険業 | 22. その他() |

問8-3 今後の働き方について希望することを教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 安定して働きたい | 6. 短時間勤務・時短を希望する |
| 2. より高収入を目指したい | 7. 地域・社会貢献性の高い仕事をしたい |
| 3. 非正規でも柔軟に働きたい | 8. 介護や育児と両立できる働き方をしたい |
| 4. フリーランス・自営業を目指したい | 9. 体調や障害に配慮された働き方をしたい |
| 5. テレワーク・ハイブリッド勤務を希望する | 10. その他() |

3. 生活に関すること

【すべての方にお聞きします】

同居の方を含めた世帯全体での1年間のおおよその収入金額（手取り額）を教えてください。

（○は1つ）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 50 万円未満 | 6. 400 万円以上 500 万円未満 |
| 2. 50 万円以上 100 万円未満 | 7. 500 万円以上 700 万円未満 |
| 3. 100 万円以上 200 万円未満 | 8. 700 万円以上 1,000 万円未満 |
| 4. 200 万円以上 300 万円未満 | 9. 1,000 万円以上 |
| 5. 300 万円以上 400 万円未満 | 10. わからない・答えたくない |

あなたの1年間のおおよその収入金額（手取り額）を教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 50 万円未満 | 6. 400 万円以上 500 万円未満 |
| 2. 50 万円以上 100 万円未満 | 7. 500 万円以上 700 万円未満 |
| 3. 100 万円以上 200 万円未満 | 8. 700 万円以上 |
| 4. 200 万円以上 300 万円未満 | 9. わからない・答えたくない |
| 5. 300 万円以上 400 万円未満 | |

あなたの預貯金額を教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 預貯金はない | 5. 300 万円以上 500 万円未満 |
| 2. 50 万円未満 | 6. 500 万円以上 1,000 万円未満 |
| 3. 50 万円以上 100 万円未満 | 7. 1,000 万円以上 |
| 4. 100 万円以上 300 万円未満 | 8. わからない・答えたくない |

20 歳から現在までの「年金の加入期間」はどのくらいですか。（国民年金・厚生年金・第3号（配偶者の扶養）・免除・納付猶予の期間を含みます。未納の期間は含みません。）（○は1つ）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 20 年以上 | 3. 10 年未満（受給資格に未到達） |
| 2. 10 年以上 20 年未満 | 4. わからない |

20 歳以降、年金が「未納（＝免除・猶予ではない未払い）」となった期間はありますか。ある場合は、主たる理由を1つ選んでください。（○は1つ）

1. 未納はない（該当しない）	5. 退職・転職の際、厚生年金→国民年金等の切替手続きが未実施だった
2. 経済的な理由から、支払いが困難だった	6. 免除・猶予制度を知らなかった／使い方が分からなかった
3. 手続き・納付方法が分からなかった	7. 年金制度への不安・不信感があった
4. 転居等で納付書が届かなかった／納付書を紛失した	8. その他（ ）

現在の健康状態で、最も近いものを1つ選んでください。（○は1つ）

1. 非常に良い	4. あまり良くない
2. 良い	5. 非常に良くない
3. 普通	

精神的な不安やストレスを感じることはありますか。（○は1つ）

1. ほぼ常に感じる	4. あまり感じない
2. しばしば感じる	5. ほとんど感じない
3. 時々感じる	

介護や育児など、家族のケアを担っていますか。（ペットの世話は含みません。）（○はいくつでも）

1. 介護をしている（同居）	4. 障害・慢性疾患のケアをしている
2. 介護をしている（別居）	5. その他のケア（ ）
3. 育児をしている	6. ケアは担っていない

現在、趣味・余暇活動、ボランティア活動等の社会参加や、それらを通じた友人・仕事仲間等との交流（SNSでの交流を含む）はありますか。（○は1つ）

1. ある	2. ない
-------	-------

現在の社会参加・交流の状況に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. まあまあ満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらともいえない | |

【問18で「4または5(現在の社会参加・交流の状況に満足していない)」と回答した方にお聞きします】※該当しない方は問19へ

問 18-1 どのような機会があれば、社会参加・交流を広げられると思いますか。

当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 地域活動やボランティア活動とのマッチング | 5. 趣味・文化活動の体験イベント |
| 2. 似た境遇にある方とのコミュニケーションの場 | 6. 運動・スポーツの体験イベント |
| 3. 誰でも気軽に立ち寄れるコミュニティスペース | 7. 就労体験・職場見学の機会 |
| 4. オンライン・バーチャルでの交流の場(メタバース居場所など) | 8. その他() |

【問5-1で「1」以外(配偶者と同居していない)と回答した方にお聞きします】
※該当しない方は問22へ

結婚の経験はありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

今後、結婚したいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|---------|-----------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. わからない・答えたくない |
|-------|---------|-----------------|

【問20で「2(今後、結婚したいと思わない)」と回答した方にお聞きします】
※該当しない方は問22へ

結婚したいと思わない理由として、当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 経済的な理由 | 4. 家族の介護など生活事情 |
| 2. 出会いがない | 5. 結婚に魅力を感じない |
| 3. 健康・年齢の理由 | 6. その他() |

4. 困りごとや不安に関すること

【すべての方にお聞きします】

現在、生活や仕事などで困っていることはありますか。(○は1つ)

1. ある

2. 特にな



【問22で「1(困っていることがある)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問23へ

問 22-1 どのようなことで困っていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

(○はいくつでも)

1. 仕事が見つからない、雇用が不安定

7. 人間関係や孤立感

2. 収入が少ない、生活費が足りない

8. 周囲との社会経験の差

3. 健康上の問題(身体)

9. 借金や家計管理の問題

4. メンタルヘルスの不調

10. 資格取得や学び直しの費用・時間

5. 住まいの確保が難しい

11. その他()

6. 家族の介護や育児の負担

問 22-2 困りごとを相談できる相手はいますか。(○は1つ)

1. いる

2. 欲しい

3. 必要がない



【問22-2で「1(相談できる相手はいる)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問22-4へ

問 22-3 相談できる相手はどなたですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

(○はいくつでも)

1. 親族

4. 区以外の公的な相談窓口

2. 友人・知人

5. 民間団体

3. 区の相談窓口

6. その他()

【問22で「1(困っていることがある)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問23へ

問 22-4 現在の困りごとを解決するために、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 1. 就労支援(職業紹介・訓練) | 7. 仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど) |
| 2. 賃金改善・待遇改善 | 8. 社会生活に役立つマナー講座(冠婚葬祭・テーブルマナーなど) |
| 3. 生活支援(給付金・家計相談) | 9. 債務整理・金融相談 |
| 4. 住居支援 | 10. 地域の居場所・交流の場 |
| 5. メンタルヘルス相談 | 11. その他() |
| 6. 介護・育児支援 | |

【すべての方にお聞きします】

今後の生活や働き方などについて、不安を感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|---------|
| 1. ある | 2. 特にない |
|-------|---------|



【問23で「1(不安を感じることもある)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問24へ

問 23-1 どのようなことに不安を感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 老後の生活資金 | 7. 社会的孤立 |
| 2. 健康状態の悪化 | 8. 周囲との社会経験の差 |
| 3. 雇用の安定性 | 9. 借金や家計管理 |
| 4. 収入の減少 | 10. 技術変化への対応(スキル不足) |
| 5. 住まいの確保 | 11. その他() |
| 6. 家族の介護や支援 | |

問 23-2 将来の不安を軽減するために、どのような支援があると良いと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 老後資金に関する情報・相談 | 6. 住まい確保のための制度 |
| 2. 健康維持・予防医療支援 | 7. 介護・家族支援サービス |
| 3. 雇用安定のための制度 | 8. 孤立防止のための交流機会 |
| 4. 仕事のための学び直し支援(資格取得・スキルアップなど) | 9. その他() |
| 5. 社会生活に役立つマナー講座(冠婚葬祭・テーブルマナーなど) | |

5. 支援に関すること

【すべての方にお聞きします】

次の中から、現在利用している公的支援はありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 生活保護 | 6. 社会参加支援(ボランティア活動の紹介等) |
| 2. 生活困窮者自立支援事業(生活サポートセンター) | 7. 債務整理の支援 |
| 3. 住まい支援(家賃助成・公営住宅等) | 8. いずれも利用していない |
| 4. 就職のための支援 | 9. わからない |
| 5. 教育訓練給付・資格取得支援 | |

【問24で「8(いずれも利用していない)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問25へ

問 24-1 公的支援を利用していない理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. どの支援も必要性を感じないから | 6. 過去に申請したが、利用できなかったから |
| 2. どこが相談窓口なのか分からないから | 7. 自分の求めている支援がないから |
| 3. 相談窓口に行きづらいから | 8. どのような支援が受けられるのかわからないから |
| 4. 手続きが複雑で面倒そうだから | 9. その他() |
| 5. 対象要件を満たしていない(と思う)から | |

【問24-1で「3(相談窓口に行きづらいから)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問24-3へ

問 24-2 相談窓口に行きづらい理由を教えてください。(自由記述)

【問24-1で「7(自分の求めている支援がないから)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問25へ

問 24-3 どのような支援があれば、利用したいと思いますか。(自由記述)

【すべての方にお聞きます】

その他、就職氷河期世代への支援に関してご意見・ご要望等ございましたら、ご記入ください。

(自由記述)

6. 相談に関すること

【すべての方にお聞きます】

現在、区に相談したいことはありますか。

(○は1つ)

1.ある 2.特にない

【問26で「1(相談したいことがある)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問27へ

問 26-1 相談したい内容に当てはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

1. 仕事が見つからない、雇用が不安定	6. 人や地域とのつながり、居場所がほしい
2. 収入が少ない、生活費が足りない	7. 社会生活を送る中で戸惑いや不安がある
3. 健康面で気がかりなことがある	8. 家計の立て直しに向けたアドバイス
4. 住まいの確保が難しい	9. 家族の介護等の悩み
5. 家族との関わり方の悩み	10. その他()

問 26-2 相談したい内容を具体的に記入できる場合はご記入ください（任意）。

[illegible]

問 26-3 希望する相談方法をお答えください。(○は1つ)

1. 担当から連絡がほしい	2. 自分で連絡する
---------------	------------

【問26-3 で「1(担当から連絡がほしい)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は問27へ

問 26-4 区の相談窓口からの連絡を希望する場合は、下記にお名前と連絡先をご記入ください。

名前(仮名でも可)	
連絡先	電話番号:
(いずれかでも可)	メールアドレス:

※可能な限り電話番号をご記入ください。メールアドレスは誤読を防ぐため、はっきりと正確にご記入ください。

【問26-4でお名前やご連絡先をご記入された方にお聞きします】

※該当しない方は問27へ

問 26-5 問 26-4 に記入された個人情報を、関連する支援機関等に提供することに同意しますか。

(○は1つ)

1. 同意する	2. 同意しない
---------	----------

※同意いただけない場合、担当者からのご連絡が難しいことがありますのでご了承ください。

【問26-3 で「2(自分で連絡する)」と回答した方への情報】

※該当しない方は問27へ

生活や仕事の悩み等について相談したい場合は「生活サポートセンター」へ、社会とのつながりの不安や居場所等について相談したい場合は「ボランティア・地域福祉推進センター」へお問い合わせください。連絡先は同封したチラシをご確認ください。

その他の相談等については練馬区福祉部管理課連携推進係(03-5984-4539)までお問い合わせください。連携推進係で一度お話をお伺いし、相談窓口をご案内いたします。

【すべての方にお聞きします】



商品券の抽選への参加を希望しますか。(○は1つ)

1. 希望する

2. 希望しない

【問27で「1(希望する)」と回答した方にお聞きします】

※該当しない方は、今回の調査は終了です。

問 27-1 抽選への参加をご希望の方は、以下に「名前・電話番号・商品券の郵送を希望する住所」をご記入ください。

名前	
電話番号	
郵送先の郵便番号	〒
郵送先の住所	

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。電話やメールでの当選結果のご質問にはお答えできませんので、ご了承ください。

※賞品の発送は、2026年8月初旬より順次行う予定です。

※ご提供いただいた個人情報は、商品券の発送のみに利用し、適切に管理いたします。

※当選者のお名前、住所などは一切公表いたしません。

以上でアンケートは終わりです、ご協力いただきありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、

6月4日(木)までに お近くのポストへ投函してください。

練馬区就職氷河期世代の実態把握調査
結果報告書

発行 令和8年(2026年)9月

編集・発行

練馬区 福祉部 管理課 連携推進係

【住 所】〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号

【電 話】03-5984-4539（直通）

【FAX】03-5984-1214



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。